

千葉県袖ヶ浦市

打越岱遺跡（４）

—上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2018

袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市

うちこしだい
打越岱遺跡（４）

—上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2018

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、千葉県中央部の東京湾東岸沿いに位置します。市内には小櫃川によって形成されたのどかな田園風景をはじめとした豊かな自然環境が多く残り、近年は東京湾アクアラインなどの利便性の高い交通網に恵まれ、大都市に近い立地を生かしたまちづくりが進んでいます。

これに伴い、市内では大小さまざまな規模の開発が行われています。開発の進展に伴い、地中に保存することが難しい遺跡については、事前に発掘調査を実施し、記録保存という措置をとることで、この地に先人たちが生活した痕跡を後世に残しています。

この度、上水道加圧ポンプ場の建設に伴い、袖ヶ浦市上泉に所在する打越岱遺跡の発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代早期の土器や礫の他に、縄文時代早期中葉の土偶が発見されました。同時期の土偶がほぼ完全な状態で発見されることは大変珍しく、全国的に見ても重要な発見例として注目されています。

これらの発掘調査の記録を取りまとめた本書が、学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する興味・関心を深めるための資料として、多くの方々に広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、千葉県教育庁教育振興部文化財課の方々には、発掘調査の実施から本書の刊行に至るまでご指導を頂き、厚くお礼申し上げます。また、関係者の皆様には、ご理解とご協力を頂きましたことに対しまして心から感謝申し上げます。

平成30年3月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 御園 朋夫



1. 縄文時代早期中葉土偶（表面）



2. 縄文時代早期中葉土偶（裏面）

例 言

1. 本書は、千葉県袖ケ浦市上泉字打越 1,270 番地 7 に所在する打越岱遺跡（遺跡コード：S G 011）第 4 次調査の発掘調査報告書である。
 2. 本調査は、袖ケ浦市が施工する上水道加圧ポンプ場の建設に先立つ調査として行われ、千葉県教育委員会の指導のもと、袖ケ浦市教育委員会が実施した。
 3. 調査面積及び発掘・整理作業期間、担当者は下記のとおりである。

調査面積：630 m²

発掘作業

期 間：平成 26 年 4 月 21 日～同年 6 月 2 日

担当者：諸墨知義

整理作業

期 間：平成 26 年 6 月 3 日～平成 30 年 2 月 27 日

担当者：大河原務
 4. 本書の執筆は大河原務が担当した。
 5. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第 1 図 国土地理院発行 1/25,000 地形図 「姉崎」「上総横田」

第 2 図 袖ケ浦市発行 1/2,500 地形図 「No.27」
 6. 遺構番号は、過去調査における遺構番号に引き続き付与した。
 7. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ケ浦市教育委員会で保管する予定である。
 8. 発掘から報告書刊行に至るまで、千葉県教育委員会をはじめ、下記の方々に多大なるご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表したい。（敬称略・五十音順）
- 井上 賢・大谷弘幸・岡本東三・原田昌幸・安井健一

凡 例

1. 基準点測量は世界測地系Ⅸ系を用いた。方位は座標北を表している。
 2. 図の縮尺は、遺構・遺物ともに各図に明記した。
 3. 遺構図中のドットは遺物の出土位置を示し、その内容は各図の凡例のとおりである。
 4. 遺構の「F P」は炉穴、「T P」は陥穴、「S K」は土坑、「P」はピット、遺構図中の「K」は攪乱を表している。
 5. 本遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示している。
- 第 4 次調査 → （4）

目次

序文	3. 縄文時代	11
例言・凡例	(1) 炉穴	11
I 序章	(2) 陥穴	15
1. 調査に至る経緯	(3) 土坑	16
2. 調査組織	(4) ピット	21
3. 遺跡の立地と周辺の環境	(5) 遺構外出土遺物	24
4. 調査及び整理事業の方法	A. 土器	24
II 検出された遺構と遺物	B. 土偶	26
1. 調査の概要	C. 礫	34
2. 旧石器時代	D. 石器	34
	III 総括	41

挿図目次

第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図	第2図 調査区位置図及び周辺地形図
第3図 調査区全体図	第4図 調査区北西部
第5図 調査区北東部	第6図 調査区南西部
第7図 調査区南東部	第8図 旧石器時代調査トレンチ断面図、出土石器
第9図 縄文時代炉穴、出土土器①	第10図 縄文時代炉穴、出土土器②
第11図 縄文時代陥穴、出土土器・石器	第12図 縄文時代土坑、出土土器①
第13図 縄文時代土坑、出土土器②	第14図 縄文時代土坑、出土土器③
第15図 縄文土器①	第16図 縄文土器②
第17図 縄文土器③	第18図 縄文土器④
第19図 縄文土器出土状況（第Ⅰ群）	第20図 縄文土器出土状況（第Ⅱ群）
第21図 縄文土器出土状況（第Ⅲ群）	第22図 土偶
第23図 礫出土状況	第24図 石器出土状況
第25図 石器	第26図 東上泉遺跡出土土偶

表目次

第1表 ピット観察表①	第2表 ピット観察表②
第3表 ピット観察表③	第4表 土器重量表（小グリッド別）①
第5表 土器重量表（小グリッド別）②	第6表 土器重量表（小グリッド別）③

原色図版目次

巻頭カラー図版 縄文時代早期中葉土偶

白黒図版目次

図版1 調査前全景・検出遺構①	図版2 検出遺構②
図版3 検出遺構③	図版4 検出遺構④
図版5 出土遺物①	図版6 出土遺物②
図版7 出土遺物③	図版8 出土遺物④
図版9 出土遺物⑤	図版10 出土遺物⑥

I 序章

1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市上泉字打越 1,270 番地 7 における上水道加圧ポンプ場の建設計画に伴い、袖ヶ浦市長 出口清より平成 25 年 7 月 12 日付けで埋蔵文化財についての協議があった。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である打越岱遺跡であるため、その旨を平成 25 年 7 月 18 日付け袖教生 1089 号において回答し、事業に先立ち、埋蔵文化財発掘の通知の提出を依頼した。埋蔵文化財発掘の通知は袖ヶ浦市長 出口清より平成 26 年 4 月 1 日付けで提出された。現地踏査及び過去に周辺で実施された発掘調査成果をもとに協議を行った結果、記録保存の措置を講ずるとの結論に達し、対象面積 630 m²の確認・本調査を実施することとなった。

発掘・整理作業は袖ヶ浦市教育委員会が行った。

2. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

平成 26 年（発掘作業）

教 育 長	川島 悟	教育部長	蔭山 弘
教育部次長	鈴木 和博	教育部参事兼生涯学習課長	井口 崇
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	西原 崇浩	副 主 幹	諸墨 知義（担当）
副 主 査	田中 大介	副 主 査	前田 雅之

平成 29 年（整理作業）

教 育 長	御園 朋夫	教育部長	石井 俊一
教育部次長	高橋 広幸	教育部参事兼生涯学習課長	小阪 潤一郎
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主 査	田中 大介
副 主 査	簗島 正広	副 主 査	大河原 務（担当）
学 芸 員	鎌田 望里		

3. 遺跡の立地と周辺の環境

本遺跡が所在する袖ヶ浦市の地形は、北部に広がる台地と小櫃川の流れを受け発達した南部の沖積低地に大きく分けられる。北部の台地は下総台地の南端に位置し、北を養老川、南を小櫃川の開析により分断された袖ヶ浦市域の台地は袖ヶ浦台地と呼ばれる。

本遺跡は小櫃川の支流である松川流域右岸の標高約 68 m の台地上に立地する。本遺跡周辺は袖ヶ浦台地と沖積低地の境界付近に当たり、多くの遺跡が立地する。本項では、本調査において検出された旧石器時代、縄文時代早期の周辺遺跡について取り上げる。

旧石器時代の遺跡は、袖ヶ浦台地北部に位置する美生遺跡群や百々目木 B 遺跡等、袖ヶ浦台地南東部に位置する永吉台遺跡群や文脇遺跡等が挙げられる。美生遺跡群ではソフトローム層から第 2 黒色帯間、百々目木 B 遺跡ではソフトローム層からハードローム層間、永吉台遺跡群ではソフトローム層から第 1 黒色帯間に

において旧石器集中地点が確認されている。また、文協遺跡では第2黒色帯下部において旧石器集中地点が確認されており、県内においても古い段階の石器群が出土している。本市内における旧石器時代の遺跡は、袖ヶ浦台地の縁辺部や、台地北部の蔵波川・境川等の中規模河川、台地南部の小櫃川の支流である松川によって開析された谷頭の緩斜面に多く立地する。

縄文時代早期の遺跡は、市内北部の条痕文期の炉穴や土器が多数見つかった中六遺跡や鶴ガ島台式期の堅穴住居が検出された豆作台遺跡、市内南部の早期前葉から後葉の土器が出土する滝ノ口向台遺跡等、市内全域から多数見つかった。本遺跡周辺では、本遺跡の北約1kmに位置する西萩原遺跡からは条痕文期の炉穴・陥穴が検出し、南東約1kmに位置する上用瀬遺跡からは堅穴住居、寒沢遺跡からは炉穴が検出されている。また、南約1.5kmに位置する東上泉遺跡からは条痕文期の炉穴や陥穴が検出され、沈線文期から条痕文期にかけての土器が出土している。

4. 調査及び整理作業の方法

本調査は、世界測地IX系に基づく基準点測量による方眼杭を使用し調査を実施した。調査に当たっては、調査区全域を20m四方のグリッドで6分割したものを大グリッドとし、東西をG・Hに2分割、南北を5～7に3分割し、北西隅をG5とした。さらに大グリッドを2m四方のグリッドで100分割したものを小グリッドとし、北西隅から00、01、02…、北東隅を09、南西隅を90、南東隅を99と呼称した。グリッドの起点（G5-00の北西隅）は、 $X = -64,990$ 、 $Y = 19,420$ にあたる。なお、本調査において設定した大グリッドは、打越岱遺跡（1）（2）の大グリッド割とは一致しない。

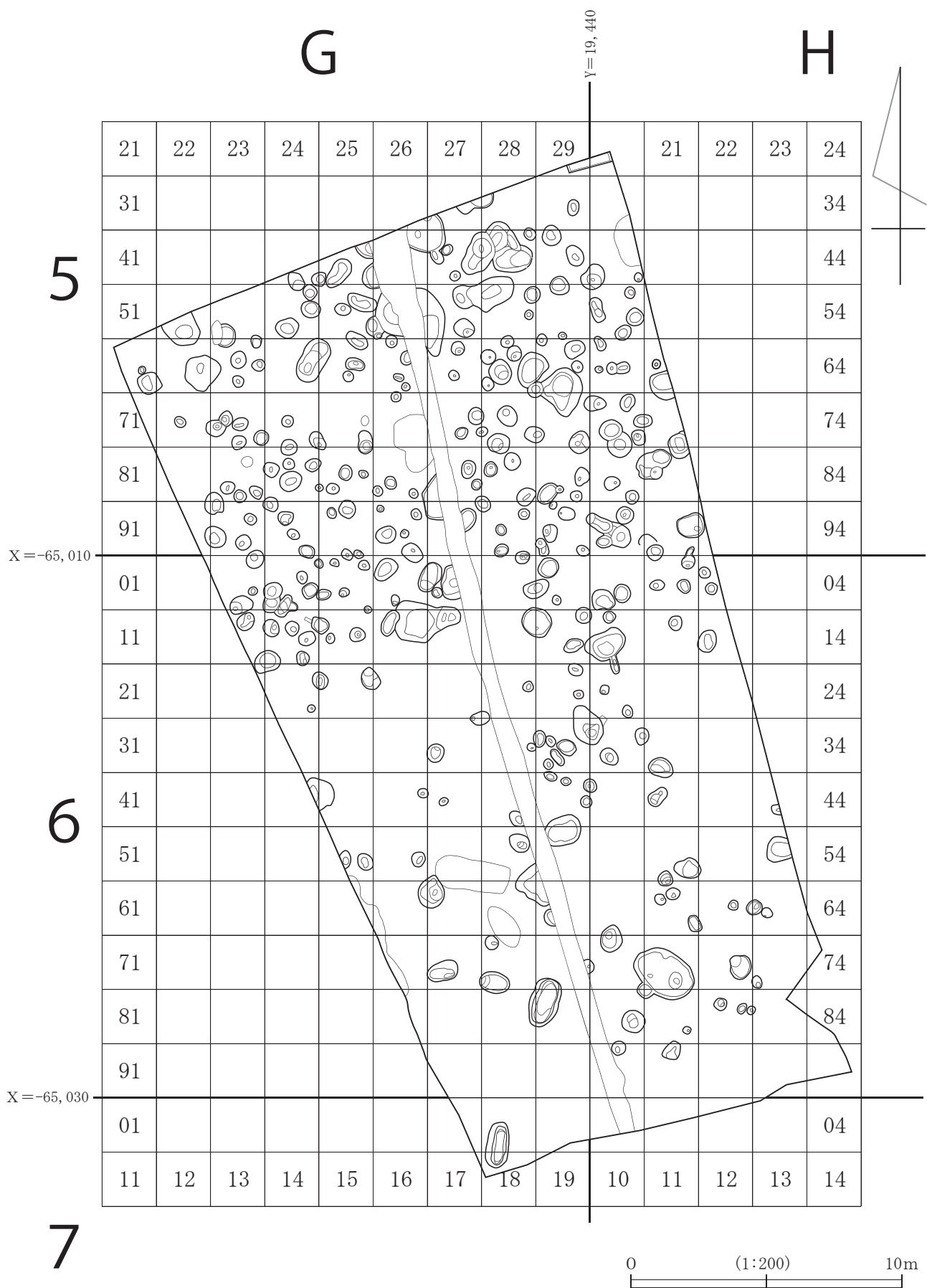
発掘作業は、廃土処理の関係から調査区南部の調査・埋戻し後、調査区北部の調査を実施した。表土掘削はバックホウで行い、ソフトローム漸移層からソフトローム層上層までは人力で掘削した。遺構確認面はソフトローム層上層とした。出土遺物は出土位置を極力記録した。

遺構名称は過去調査で使用された遺構番号を引き継ぎ、3桁の番号を使用した。発掘作業時に使用した遺構番号は過去調査時の番号を引き継いでおらず、欠番や複数の遺構に対して同一の遺構名が使用されるなどの不備が多数見つかったことから、整理作業時に新たに遺構番号を付与した。旧遺構名称（発掘作業時使用名称及び遺物注記名称）は「Ⅱ 検出された遺構と遺物」の項目で明記した。

出土位置を記録した遺物は、遺構・グリッドごとに4桁の数字を付与して取り上げた。

遺構実測図は平板測量で作成した。また、遺構実測図の縮尺は20分の1を基本とし、遺構の種類や実測図の種類に応じて縮尺を変えて作成した。写真撮影は中型カメラをメインカメラとし、フィルムは6×7判を使用した。35mm小型カメラはサブカメラとし、フィルムは白黒とカラーリバーサルを使用した。また、デジタルカメラも補助的に使用した。

本書に掲載した実測図等は、アドビ社製イラストレーター及びフォトショップを使用し、デジタル化した。写真は、発掘作業時の写真については、主に6×7判及び35mm判リバーサルフィルムをスキャンして使用し、一部デジタルカメラで撮影した写真を使用した。遺物写真はデジタルカメラで撮影したものを使用した。編集はアドビ社製インデザインを使用した。

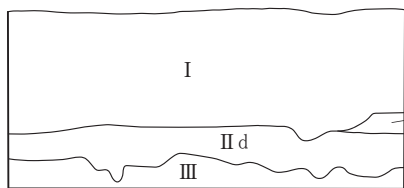


第3図 調査区全体図

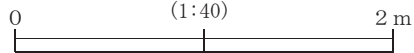
G 5-53 断面図

68.6m A

A'



(断面図)
(1:40)



X=-65,000

G 5

52

X=-65,006

X=-65,008

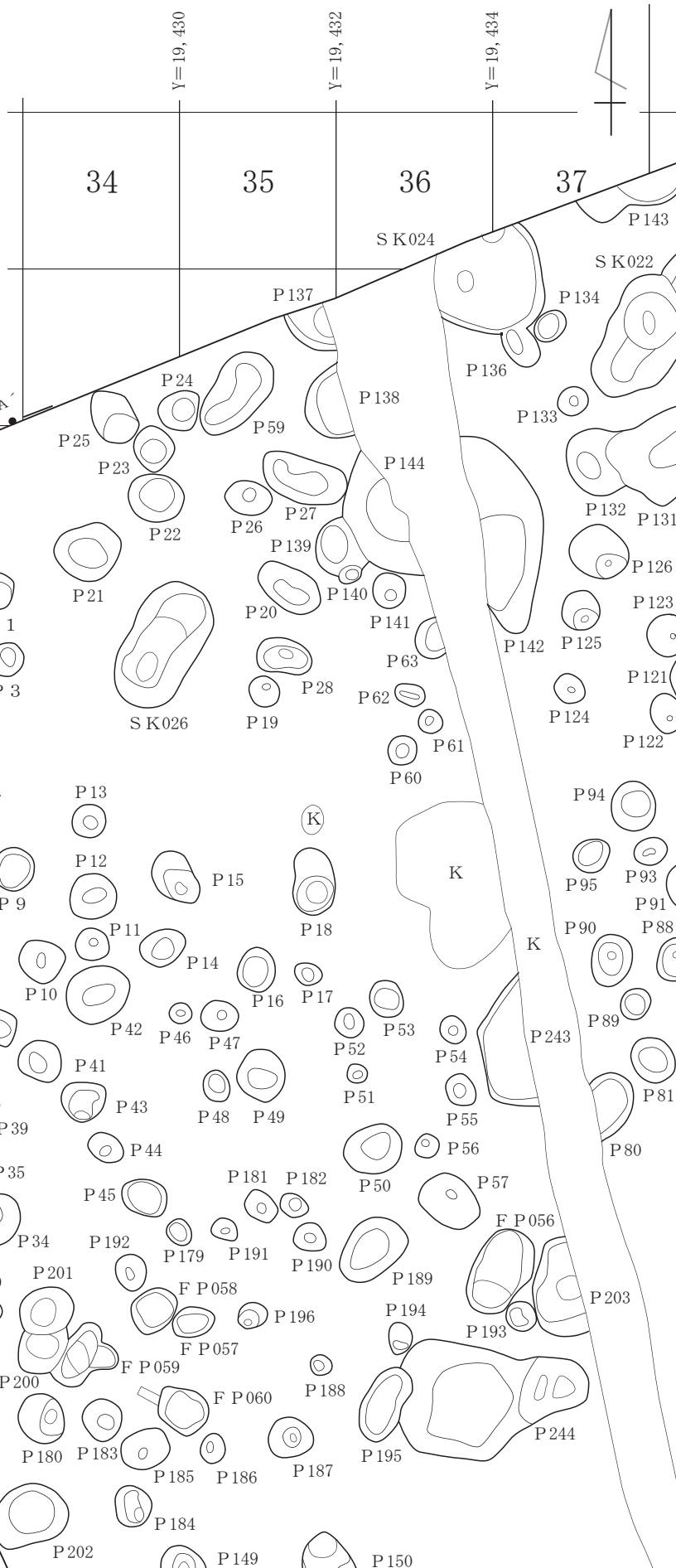
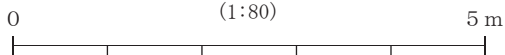
X=-65,010

G 6

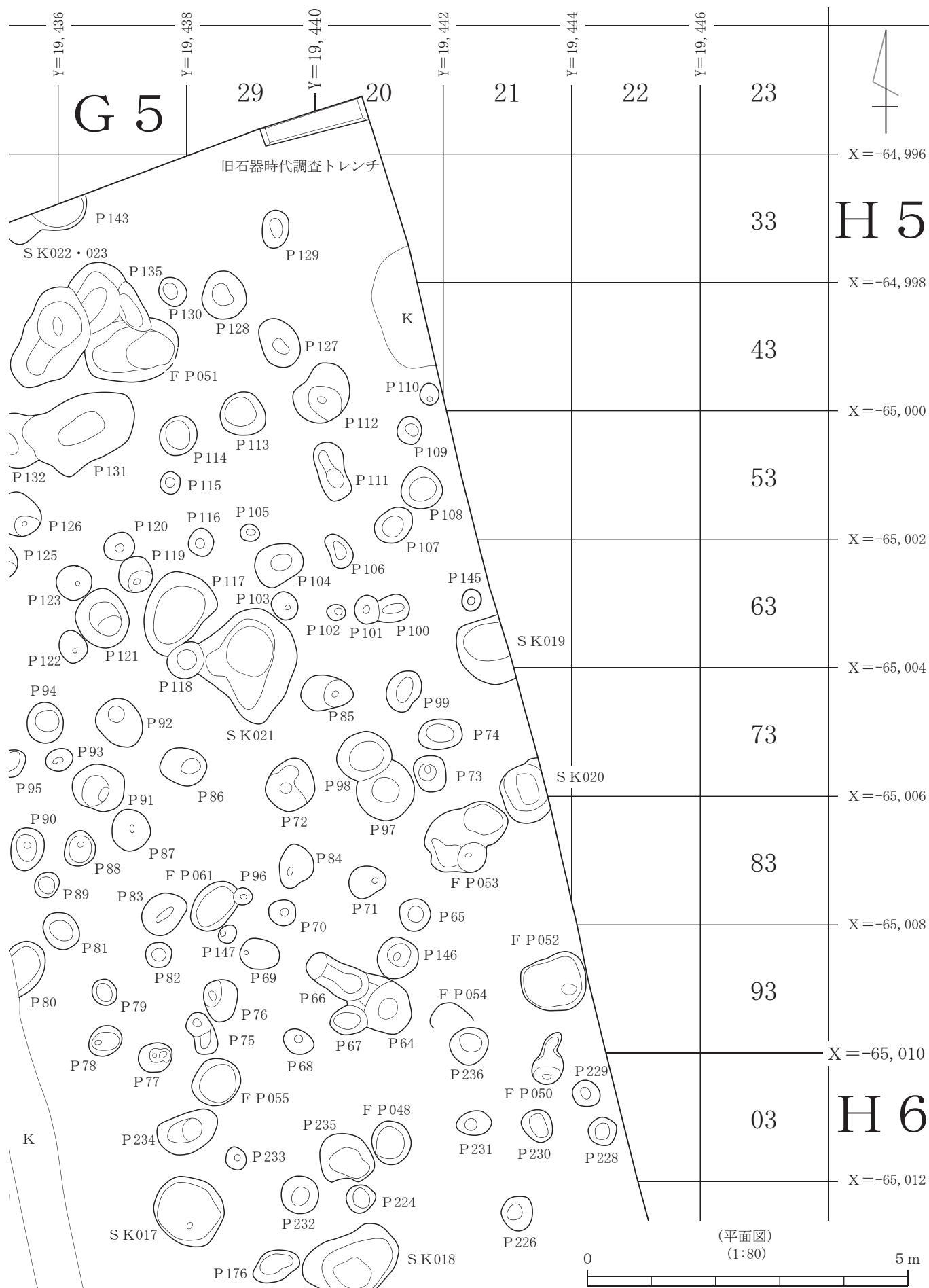
02

X=-65,012

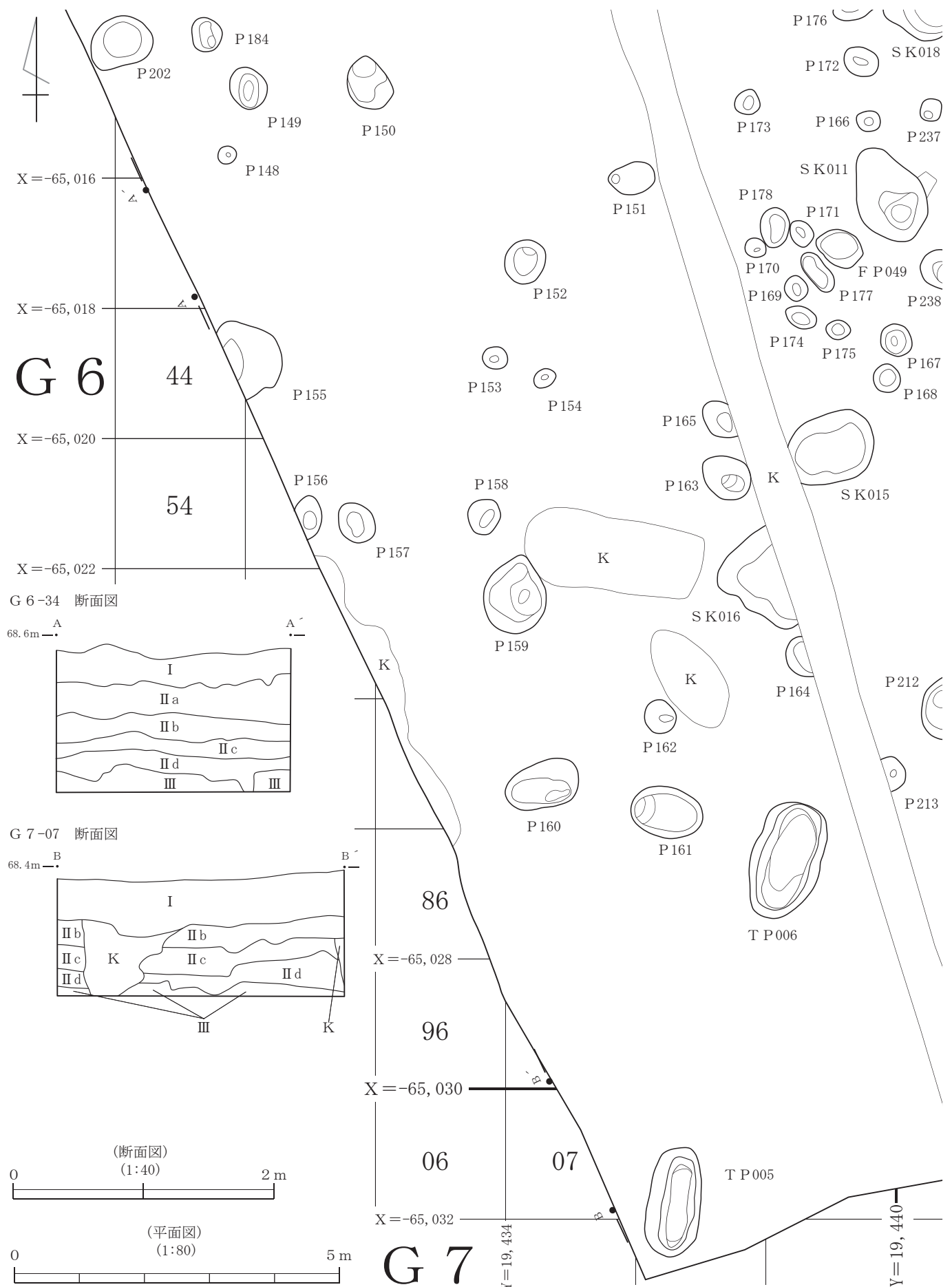
(平面図)
(1:80)



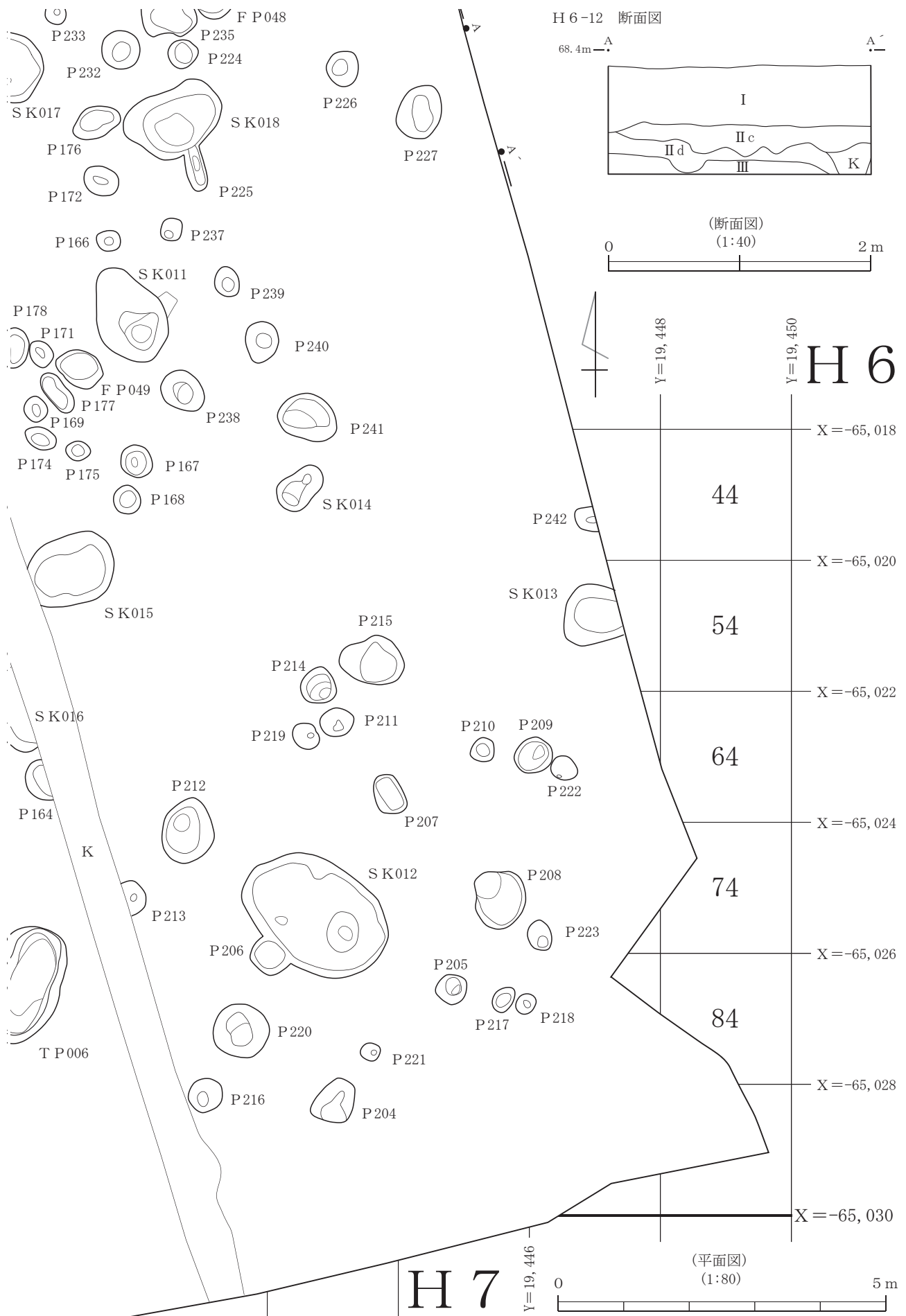
第4図 調査区北西部



第5図 調査区北東部



第6図 調査区南西部



Ⅱ 検出された遺構と遺物

1. 調査の概要

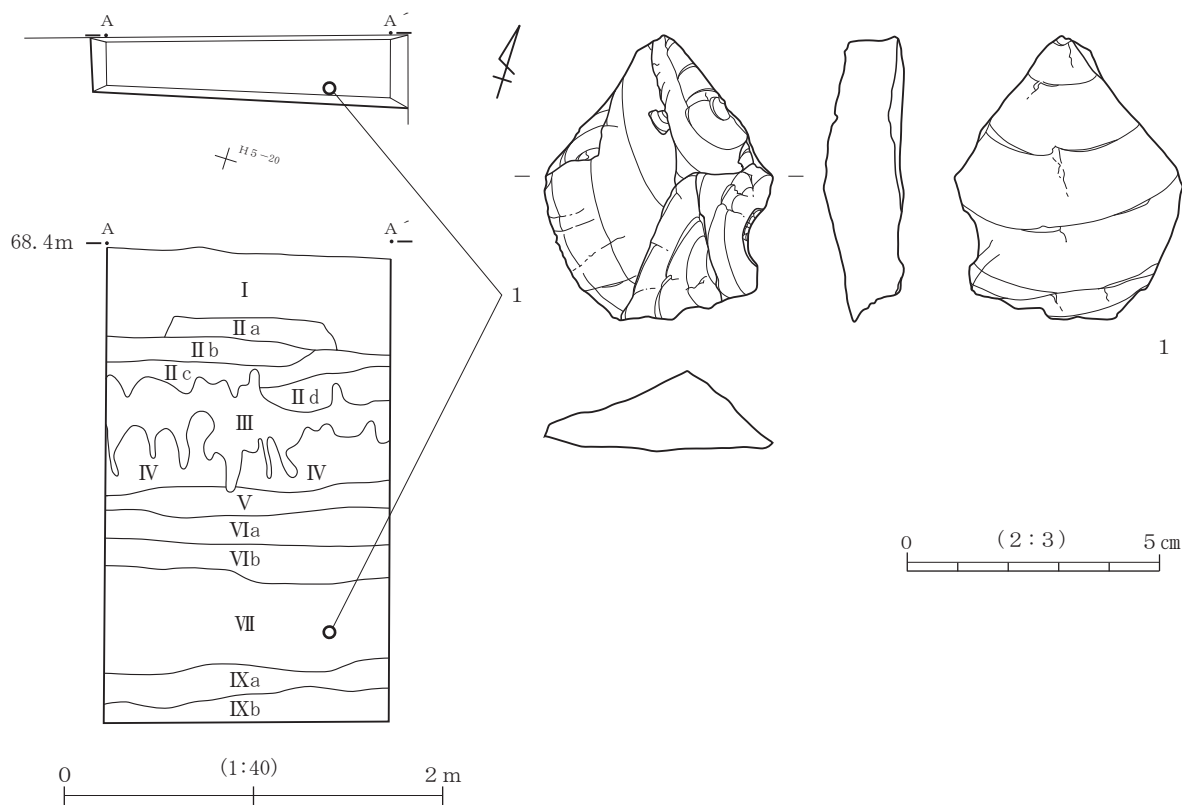
今回の調査区は、標高約 68 m の台地平坦部にあたり、調査区西側は緩斜面にあたる。今回の調査で検出された遺構は、縄文時代早期の炉穴 14 基、陥穴 2 基、土坑 16 基、ピット 244 基である。出土遺物を伴わないものも多く含むが、調査区全域から縄文時代早期を主体とする遺物包含層が検出され、他時代の遺物がほとんど出土しないことから、すべて同時期の遺構と判断した。また、ピットに関しては樹木等による攪乱も多数含む可能性も否めないが、判断ができないため、すべて遺構として報告する。なお、遺構出土土器は、「3. 縄文時代 (5) 遺構外出土遺物 A. 土器」の区分で分類した。

基本層序はⅠ層：現表土層（褐色）、Ⅱa層：暗褐色土層、Ⅱb層：新期テフラ層、Ⅱc層：暗褐色土層、Ⅱd層：ソフトローム漸移層、Ⅲ層：ソフトローム層、Ⅳ層：ハードローム層、Ⅴ層：第1黒色帯、Ⅵa層：始良丹沢火山灰層、Ⅵb層：黄褐色土層、Ⅶ層：第2黒色帯上部層、Ⅸa層：第2黒色帯下部上層、Ⅸb層：第2黒色帯間層である。Ⅱb層は調査区北部・南部においては、良好に確認できるが、調査区中央部においては疎らにしか確認することができない。調査前に実施した樹木の伐根の影響を受けたものと推測される。

2. 旧石器時代（第8図）

旧石器時代は、調査区北東部の G 5 - 29・H 5 - 20 において、1.7 m × 0.3 m の範囲で調査を行った。調査は第2黒色帯下層確認面まで行い、二次加工を有する剥片 1 点が出土した。

出土した二次加工を有する剥片は、珪質頁岩の剥片を素材とし、最大長 5.62 cm、最大幅 4.47 cm、最大厚 1.60 cm、重量 31.86 g である。右側面中央部に細かな剥離痕が認められる。出土位置は標高 66.335 m のⅦ層：第2黒色帯上部層である。



第8図 旧石器時代調査トレンチ断面図、出土石器

3. 縄文時代

(1) 炉穴 (第9・10図)

F P 048 (旧 : S F 001)

H 6-00 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。燃烧部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 69 cm、短軸は 63 cm、深さは 14 cm である。火床は不定形を呈する。遺物は、縄文土器 78.90 g (第Ⅱ群 77.89 g、第Ⅹ群 1.01 g)、礫 8.90 g (チャート 8.90 g) が出土した。1 は胴部片で、外面に横位の条痕文が施される。胎土に繊維は含まない。

F P 049 (旧 : S F 002)

G 6-39 グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。燃烧部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 75 cm、短軸は 53 cm、深さは 14 cm である。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、石器 1 点 0.37 g (剥片 1 点 0.37 g) が出土した。

F P 050 (旧 : S F 003)

H 6-01 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-15° - E である。長軸は 83 cm、短軸は 48 cm、深さは 19 cm であり、燃烧部の長軸は 48 cm、短軸は 42 cm である。足場は比較的平坦であり、燃烧部に向かい緩傾斜する。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

F P 051 (旧 : S F 004)

G 5-48 グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-81° - E である。長軸は 148 cm、深さは 28 cm であり、燃烧部の長軸は 62 cm、短軸は 51 cm である。S K 022・023、P 135 と重複するため短軸長は不明である。足場は比較的平坦であり、燃烧部に向かい緩傾斜する。火床は長楕円形を呈する。火床の上層にも強く焼きしめる層 (4 層) が存在することから、ある程度堆積が進んだ後に再度利用された可能性も考えられる。遺物は、縄文土器 426.52 g (第Ⅱ群 385.92 g、第Ⅹ群 40.60 g)、礫 441.52 g (チャート 196.47 g、流紋岩 91.94 g、砂岩 145.72 g、凝灰岩 7.39 g) が出土した。1 は口縁部片、2～4 は胴部片である。1 の口唇部は角頭状を呈する。1～4 は太い沈線が施文され、1・2 は斜位、3 は縦位、4 は横位に施される。

F P 052 (旧 : S F 005)

H 5-91 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-79° - E である。長軸は 102 cm、短軸は 89 cm、深さは 19 cm である。底面から焼土がまとまって検出されることから炉穴と判断したが、明確な燃烧部・足場・火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 89.07 g (第Ⅱ群 89.07 g)、礫 260.88 g (チャート 69.32 g、砂岩 180.00 g、玉髓 11.56 g) が出土した。1 は胴部片で、太い沈線が斜位に施される。2 は無文であり、底部付近と思われる。胎土に繊維は含まない。

F P 053 (旧 : S F 006)

H 5-81 グリッドを中心に位置する。平面形は不定形を呈し、主軸は N-59° - E である。長軸は 138 cm、短軸は 102 cm、深さは 5 cm である。底面から焼土がまとまって検出されることから炉穴と判断したが、明確な燃烧部・足場・火床は確認できなかった。南側の窪みは後世の攪乱の可能性が高い。遺物は、縄文土器 173.70 g (第Ⅱ群 166.65 g、第Ⅹ群 7.05 g)、礫 27.27 g (チャート 27.27 g) が出土した。1 は胴部片で、4 本の平行沈線を基本として、幾何学文を構成する。2 は無文であり、底部付近と思われる。胎土に繊維は含まない。

F P 054 (旧 : S F 007)

H 5-91 グリッドを中心に位置する。焼土検出時に遺構と判断したため、遺構の大部分は掘削してしまい、燃烧部の一部が残るのみである。底面に明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 121.43 g (第Ⅱ群 121.06 g、第Ⅹ群 0.37 g)、石器 1 点 9.41 g (剥片 1 点 9.41 g)、礫 28.96 g (砂岩 28.96 g) が

出土した。1は胴部片で、外面に横位の擦痕を残す。内面は縦位のナデ調整が施される。胎土に小礫を多く含む。

F P 055 (旧 : S F 008)

G 6-09 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 75 cm、短軸は 68 cm、深さは 23 cm である。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 68.26 g (第Ⅱ群 67.61 g、第Ⅹ群 0.65 g)、石器 1 点 0.32 g (二次加工を有する剥片 1 点 0.32 g)、礫 19.15 g (砂岩 19.15 g) が出土した。

F P 056 (旧 : S F 009)

G 6-06 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-26° - E である。長軸は 114 cm、短軸は 73 cm、深さは 18 cm である。形状から南側の窪みを燃焼部、北側の平坦面を足場と推測するが、焼土は燃焼部からは検出されず、燃焼部から足場にかけての緩斜面から検出された。燃焼部から掻き出されたものであろうか。焼土同様に、燃焼部から明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 10.63 g (第Ⅱ群 8.50 g、第Ⅹ群 2.13 g)、石器 1 点 1.03 g (剥片 1 点 1.03 g)、礫 86.31 g (チャート 13.77 g、流紋岩 24.86 g、砂岩 6.45 g、ホルンフェルス 41.23 g) が出土した。1は胴部片で、太い沈線が横位に施される。

F P 057 (旧 : S F 010)

G 6-05 グリッドを中心に位置する。平面形は楕円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 54 cm、短軸は 39 cm、深さは 10 cm である。覆土から大量の焼土が検出されるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 6.72 g (第Ⅱ群 6.72 g)、礫 95.77 g (砂岩 95.77 g) が出土した。

F P 058 (旧 : S F 011)

G 6-04 グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 62 cm、短軸は 51 cm、深さは 7 cm である。覆土全体から焼土や炭化物が検出されるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

F P 059 (旧 : S F 012)

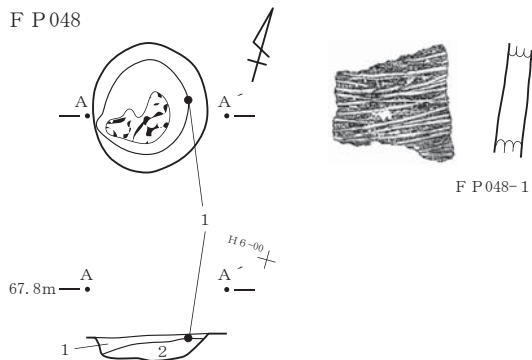
G 6-04 グリッドを中心に位置する。平面形は不定形を呈する。長軸は 88 cm、深さは 26 cm である。P 200 と重複するため短軸長は不明である。中心部が最も窪んでいるため、中心が燃焼部で、3 方向に足場が形成された可能性も考えられるが、明確な火床やまとまった焼土は検出されなかった。遺物は、縄文土器 166.35 g (第Ⅱ群 166.35 g)、礫 292.76 g (チャート 120.24 g、砂岩 172.52 g) が出土した。1は口縁部片、2～4は胴部片である。1の口唇部は外削ぎ状を呈し、太い沈線が横位に施される。2は細い沈線が矢羽状に施される。3は帯状格子目文が横位、帯状斜線文が斜位に施される。4は細い沈線が横位、斜位に施される。

F P 060 (旧 : S F 013)

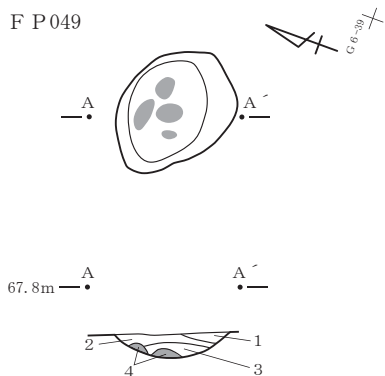
G 6-15 グリッドを中心に位置する。平面形は円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 69 cm、短軸は 54 cm、深さは 13 cm である。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 38.30 g (第Ⅱ群 22.61 g、第Ⅹ群 15.69 g)、礫 134.74 g (チャート 101.98 g、砂岩 32.76 g) が出土した。

F P 061 (旧 : S F 014)

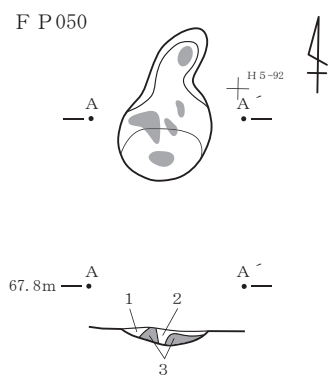
G 5-89 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-40° - E である。長軸は 87 cm、短軸は 59 cm、深さは 21 cm である。8 層下に火床が確認できた。焼土は覆土全体から確認でき、底面形もレンズ状を呈することから、燃焼部と足場の区分は不明確である。遺物は、縄文土器 52.97 g (第Ⅱ群 52.97 g)、礫 220.18 g (チャート 3.27 g、砂岩 211.87 g、ホルンフェルス 5.04 g) が出土した。1は無文であり、底部付近と思われる。胎土に繊維は含まない。



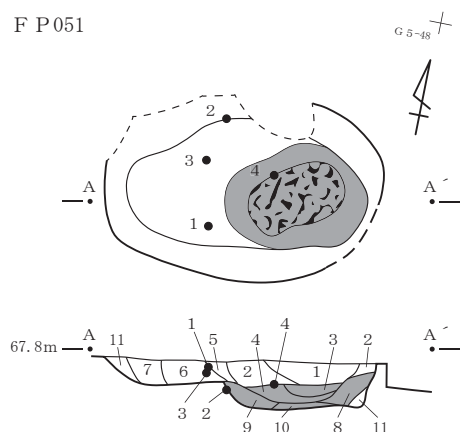
- 1 暗赤褐色 しまり：弱い 焼土少量含む
2 にぶい黄褐色 しまり：強い 焼土多量含む



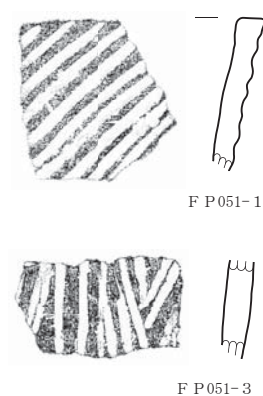
- 1 暗褐色 焼土少量含む
2 暗赤褐色 しまり：強い 焼土少量含む
3 にぶい黄褐色 しまり：強い 焼土多量含む
4 赤褐色 しまり：弱い 焼土層



- 1 淡赤橙色 しまり：やや弱い 焼土多量含む
2 黒褐色 しまり：弱い 焼土少量含む
3 明赤褐色 しまり：弱い 焼土層



- 1 暗褐色 しまり：強い 焼土少量含む
2 褐色 しまり：弱い 焼土、ローム粒子、ロームブロック少量含む
3 暗赤褐色 しまり：弱い 焼土層
4 淡赤橙色 しまり：強い 焼土層
5 暗褐色 しまり：強い ローム粒子多量含む
6 褐色 しまり：強い ローム粒子、ロームブロック多量含む



F P 051-1

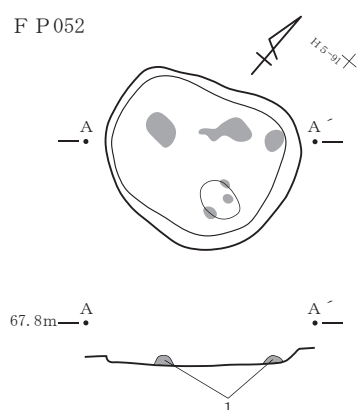


F P 051-2

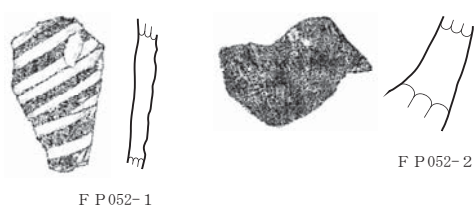
F P 051-3

F P 051-4

- 7 暗褐色 しまり：弱い ローム粒子、ロームブロック少量含む
8 赤褐色 しまり：強い 焼土層
9 暗赤褐色 しまり：弱い 焼土層
10 明赤褐色 しまり：弱い 焼土層
11 にぶい黄褐色 しまり：強い ローム粒子、ロームブロック少量含む

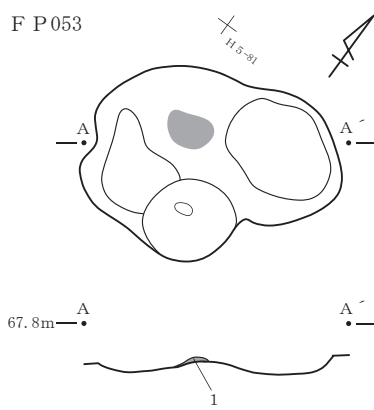


- 1 赤褐色 しまり：弱い 焼土層

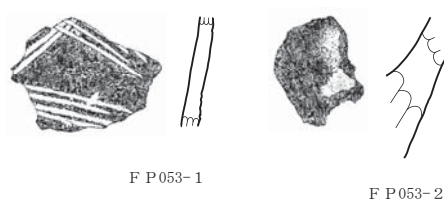


F P 052-1

F P 052-2

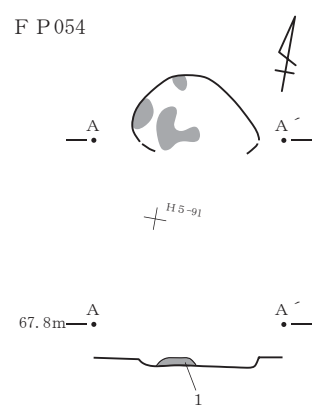


- 1 赤褐色 しまり：弱い 焼土層

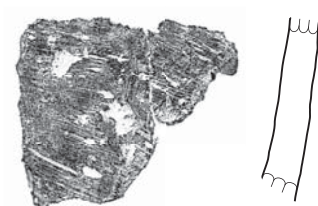


F P 053-1

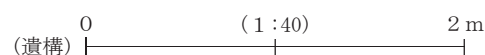
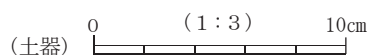
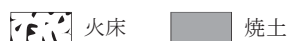
F P 053-2



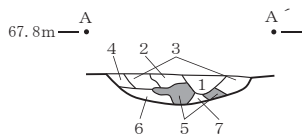
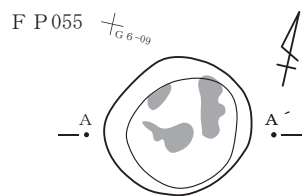
- 1 淡赤橙色 しまり：弱い 焼土層



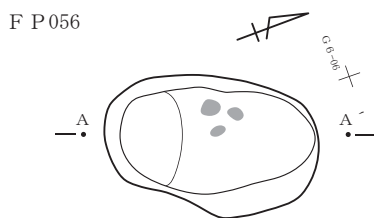
F P 054-1



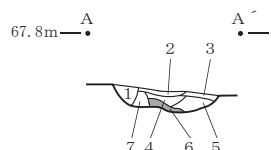
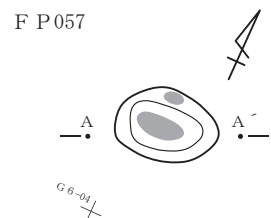
第9図 縄文時代炉穴、出土土器①



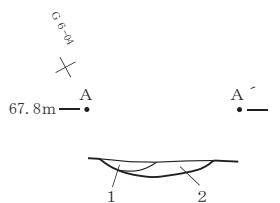
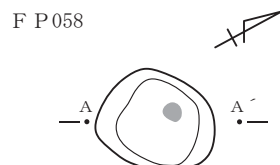
- | | | | |
|---|------|----------|-----------|
| 1 | 暗赤褐色 | しまり：弱い | 焼土少量含む |
| 2 | 淡赤橙色 | しまり：強い | 焼土多量含む |
| 3 | 暗褐色 | しまり：やや弱い | 焼土少量含む |
| 4 | 暗褐色 | しまり：強い | 焼土少量含む |
| 5 | 赤褐色 | しまり：弱い | 焼土層 |
| | | | ローム粒子少量含む |
| 6 | 褐色 | しまり：弱い | 焼土少量含む |
| 7 | 暗褐色 | しまり：弱い | 焼土少量含む |



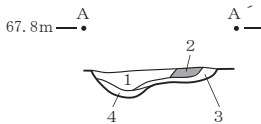
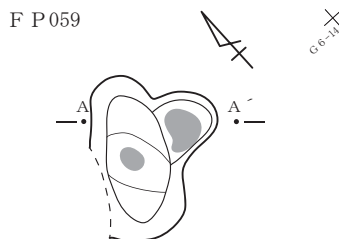
F P 056-1



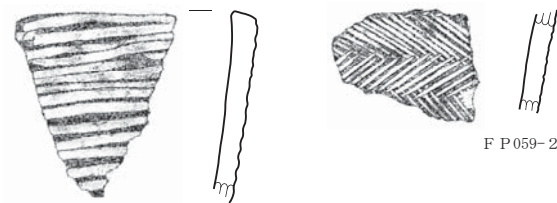
- | | | | |
|---|------|----------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |
| 2 | 暗赤褐色 | しまり：やや強い | 焼土多量含む |
| 3 | 淡赤橙色 | しまり：強い | 焼土多量含む |
| 4 | 淡赤褐色 | しまり：強い | 焼土多量含む |
| 5 | 黄褐色 | しまり：弱い | ロームブロック多量、
焼土少量含む |
| 6 | 橙色 | しまり：弱い | 焼土層 |
| | | | ロームブロック多量含む |
| 7 | 黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、
ロームブロック多量含む |



- | | | | |
|---|------|--------|----------------|
| 1 | 暗赤褐色 | しまり：強い | 焼土多量含む |
| 2 | 褐色 | しまり：弱い | 焼土、
炭化物少量含む |



- | | | | |
|---|------|----------|--------------|
| 1 | 暗赤褐色 | しまり：やや弱い | 焼土少量含む |
| 2 | 淡赤橙色 | しまり：弱い | 焼土層 |
| 3 | 褐色 | しまり：弱い | 焼土、ローム粒子少量含む |
| 4 | 暗褐色 | しまり：やや弱い | 焼土少量含む |



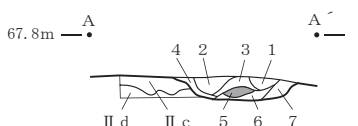
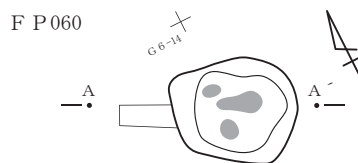
F P 059-1



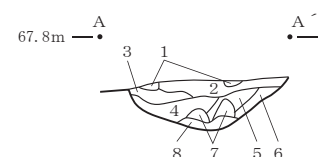
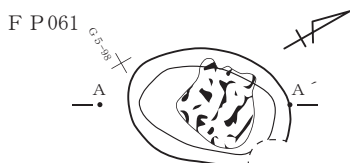
F P 059-3



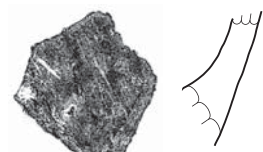
F P 059-4



- | | | | |
|---|------|----------|-----------------------------|
| 1 | 淡赤褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |
| 2 | 暗赤褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |
| 3 | 赤褐色 | しまり：強い | 焼土多量含む |
| 4 | 褐色 | しまり：弱い | 焼土少量含む |
| 5 | 淡赤褐色 | しまり：弱い | 焼土層 |
| 6 | 黄褐色 | しまり：やや弱い | 焼土、ローム粒子、
ロームブロック多量含む |
| 7 | 黄褐色 | しまり：やや強い | ローム粒子、ロームブロック多量含む
焼土少量含む |



- | | | | |
|---|------|----------|----------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |
| 2 | 暗褐色 | しまり：やや強い | 焼土少量含む |
| 3 | 褐色 | しまり：強い | 焼土多量含む |
| 4 | 淡赤褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |
| 5 | 黄褐色 | しまり：強い | 焼土少量、ローム粒子、
ロームブロック多量含む |
| 6 | 淡赤褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |
| 7 | 赤褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |
| 8 | 明赤褐色 | しまり：弱い | 焼土多量含む |

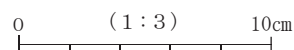


F P 061-1



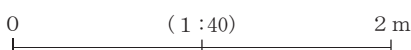
(土器)

(1 : 3)



(遺構)

(1 : 40)



第 10 図 縄文時代炉穴、出土土器②

(2) 陥穴 (第 11 図)

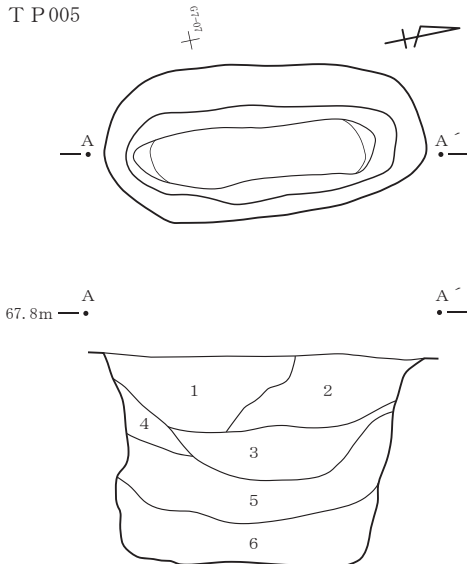
T P 005 (旧 : S K 001)

G 7-08 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-11° - Eである。長軸は171 cm、短軸は80 cm、深さは113 cmである。断面形は、長軸が逆台形、短軸がV字形を呈する。底面は平坦で、ピットは確認できなかった。遺物は、縄文土器 289.92 g (第Ⅰ群 49.72 g、第Ⅱ群 228.54 g、第Ⅹ群 11.66 g)、礫 412.94 g (チャート 142.21 g、流紋岩 4.02 g、砂岩 204.68 g、ホルンフェルス 62.03 g) が出土した。1・2は胴部片である。1は縦位に撚糸文1が疎らに施される。稲荷台式と推測する。2は太い沈線が縦位に施される。

T P 006 (旧 : S K 002)

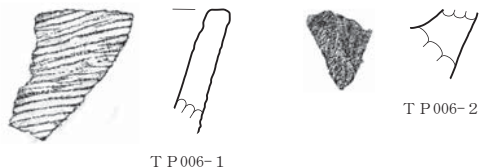
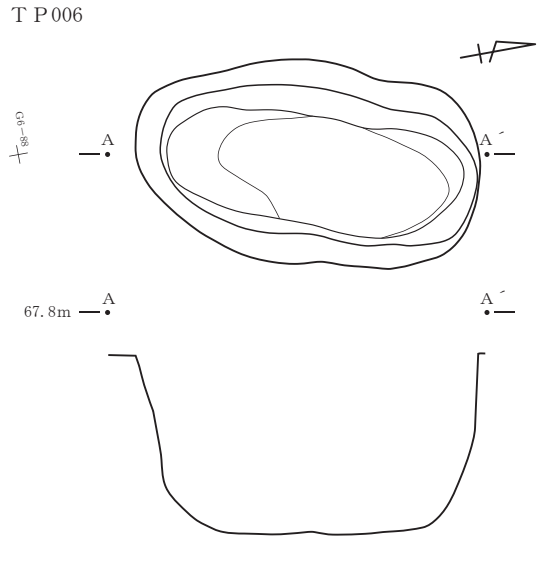
G 6-89 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-19° - Eである。長軸は182 cm、短軸は109 cm、深さは100 cmである。断面形は、長軸・短軸ともに逆台形を呈する。底面は平坦で、ピットは確認できなかった。遺物は、縄文土器 285.70 g (第Ⅱ群 279.25 g、第Ⅹ群 6.45 g)、石器 3点 122.54 g (礫器 1点 114.90 g、剥片 2点 7.64 g)、礫 989.25 g (チャート 82.78 g、流紋岩 43.40 g、砂岩 853.69 g、ホルンフェルス 9.38 g) が出土した。1は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈し、横位の条痕文が施される。2は無文であり、底部付近と思われる。1・2は胎土に繊維を含まない。3は半分に分れた砂岩の扁平礫を素材とする礫器である。調整は左側面のみに施される。上・下部は欠損するが、下部は欠損後も使用された痕跡が確認できる。

T P 005



- | | | |
|-------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | しまり：強い | ローム粒子多量含む |
| 2 暗褐色 | しまり：やや弱い | ローム粒子少量含む、1層より暗い |
| 3 黒褐色 | しまり：強い | ローム粒子少量含む |
| 4 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 5 暗褐色 | しまり：やや弱い | ローム粒子少量含む |
| 6 黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |

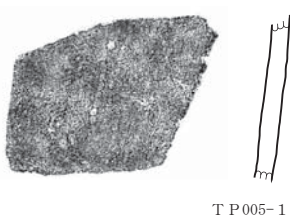
T P 006



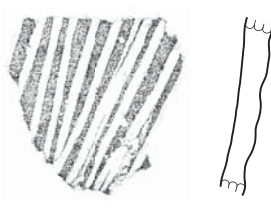
T P 006-1

T P 006-2

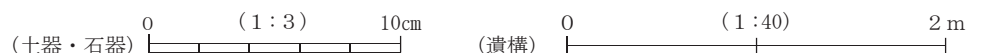
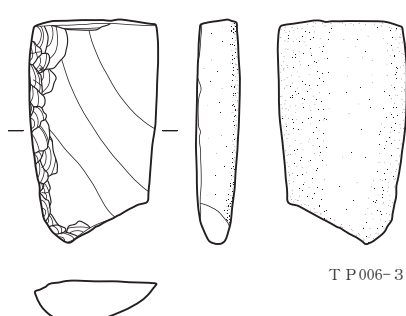
T P 006-3



T P 005-1



T P 005-2



第 11 図 縄文時代陥穴、出土土器・石器

(3) 土坑 (第12～14図)

SK 011 (旧: SK 003)

G 6-39 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-23° -Wである。長軸は155 cm、短軸は106 cm、深さは47 cmである。遺物は、縄文土器178.92 g (第Ⅱ群162.72 g、第Ⅲ群8.81 g、第Ⅳ群7.39 g)、石器1点1.97 g (二次加工を有する剥片1点1.97 g)、礫1,523.49 g (チャート208.04 g、流紋岩392.56 g、砂岩891.07 g、ホルンフェルス31.82 g) が出土した。1～3は胴部片である。1は3本の平行沈線を基本とし、幾何学文を構成する。2は細い沈線、3は太い沈線が斜位に施される。

SK 012 (旧: SK 004)

H 6-71 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-59° -Wである。長軸は231 cm、短軸は161 cm、深さは30 cmである。P 206 と重複するが、新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器282.11 g (第Ⅱ群266.40 g、第Ⅳ群15.71 g)、石器4点1.97 g (二次加工を有する剥片1点0.80 g、剥片3点1.17 g)、礫598.14 g (チャート86.57 g、流紋岩136.59 g、砂岩356.79 g、ホルンフェルス18.19 g) が出土した。

SK 013 (旧: SK 005)

H 6-53 グリッドに位置する。主軸はN-82° -Wであり、深さは21 cmである。遺構東部は調査区外に展開するため、形状・長軸長・短軸長は不明である。遺物は、縄文土器21.70 g (第Ⅱ群19.97 g、第Ⅳ群1.73 g)、石器1点0.34 g (剥片1点0.34 g)、礫121.82 g (チャート92.20 g、砂岩29.62 g) が出土した。

SK 014 (旧: SK 006・G 6-P 36)

H 6-41 グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-43° -Eである。長軸は80 cm、短軸は53 cm、深さは24 cmである。遺物は、縄文土器162.23 g (第Ⅱ群151.80 g、第Ⅳ群10.43 g)、石器2点1.22 g (剥片2点1.22 g)、礫199.36 g (チャート8.91 g、流紋岩58.45 g、砂岩102.04 g、ホルンフェルス29.96 g) が出土した。

SK 015 (旧: SK 007)

G 6-59 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-22° -Eである。短軸は105 cm、深さは21 cmである。遺構西部は攪乱の影響を受けているため、長軸長は不明である。遺物は、縄文土器362.87 g (第Ⅱ群335.03 g、第Ⅳ群27.84 g)、石器4点1.62 g (剥片4点1.62 g)、礫1,006.12 g (チャート379.33 g、流紋岩63.61 g、砂岩470.74 g、ホルンフェルス29.29 g、凝灰岩63.15 g) が出土した。1は無文の尖底部である。胎土に繊維は含まない。

SK 016 (旧: SK 008)

G 6-69 グリッドを中心に位置する。平面形は不定形を呈する。深さは26 cmである。遺構東部は攪乱の影響を受けているため、主軸・長軸長・短軸長は不明である。遺物は、縄文土器637.46 g (第Ⅱ群603.75 g、第Ⅳ群33.71 g)、石器5点5.99 g (剥片5点5.99 g)、礫1,903.73 g (チャート428.81 g、流紋岩381.86 g、砂岩929.03 g、ホルンフェルス123.13 g、凝灰岩40.90 g) が出土した。1・2は胴部片である。1は横位の沈線文下に、格子目文が施される。2は斜位の沈線文に縦位の沈線文を重ねる。

SK 017 (旧: SK 011)

G 6-19 グリッドを中心に位置する。平面形は円形を呈し、主軸はN-25° -Wである。長軸は114 cm、短軸は102 cm、深さは30 cmである。遺構内南部に径10 cm、深さ9 cmのピットを有する。遺物は、縄文土器171.43 g (第Ⅱ群166.19 g、第Ⅳ群5.24 g)、石器2点2.83 g (剥片2点2.83 g)、礫504.64 g (チャート129.03 g、流紋岩30.46 g、砂岩234.55 g、ホルンフェルス14.20 g、頁岩96.40 g) が出土した。1は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈し、やや外反する。外面は条痕文が斜位に施される。胎土に繊維は含まない。

SK 018 (旧: SK 010)

H 6-10 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-75° -Eである。長軸は154 cm、

短軸は 102 cm、深さは 39 cm である。P 225 と重複するが、新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器 335.07 g (第Ⅱ群 315.37 g、第Ⅹ群 19.70 g)、石器 1 点 0.29 g (剥片 1 点 0.29 g)、礫 1,067.61 g (チャート 204.88 g、流紋岩 439.69 g、砂岩 336.40 g、ホルンフェルス 14.65 g、凝灰岩 71.99 g) が出土した。
S K 019 (旧：S K 012)

H 5-61 グリッドを中心に位置する。主軸は N-76° - E である。短軸は 104 cm、深さは 20 cm である。遺構東部は調査区外に展開するため、形状・長軸長は不明である。遺物は、縄文土器 119.10 g (第Ⅱ群 115.51 g、第Ⅹ群 3.59 g)、礫 66.31 g (流紋岩 19.18 g、砂岩 16.87 g、ホルンフェルス 30.26 g) が出土した。1 は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈し、太い沈線が斜位に施される。補修孔を有する。
S K 020 (旧：S K 013)

H 5-71 グリッドを中心に位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸は N-16° - W である。長軸は 89 cm、深さは 35 cm である。遺構東部は調査区外に展開するため、短軸長は不明である。遺物は、縄文土器 238.12 g (第Ⅱ群 236.33 g、第Ⅹ群 1.79 g)、礫 467.78 g (チャート 64.41 g、流紋岩 159.12 g、砂岩 244.25 g) が出土した。
S K 021 (旧：S K 018)

G 5-69 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-1° - W である。長軸は 179 cm、深さは 26 cm である。P 118 と重複しているため、短軸長は不明である。P 118 との新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器 608.84 g (第Ⅱ群 588.38 g、第Ⅹ群 20.46 g)、石器 2 点 2.84 g (剥片 2 点 2.84 g)、礫 283.70 g (チャート 27.71 g、流紋岩 18.54 g、砂岩 237.45 g) が出土した。1 は口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈する。口縁部直下に横位の太い短沈線文が施される。
S K 022・023 (旧：S K 014)

S K 022 は G 5-47 を中心に位置し、平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-35° - E である。長軸は 157 cm、短軸は 99 cm、深さは 53 cm である。S K 023 は G 5-48 を中心に位置する。主軸は N-41° - E で、深さは 28 cm である。S K 022 と重複するため、平面形・長軸長・短軸長は不明である。S K 022 の方が新しい。S K 022・023 は F P 051、P 135 とともに重複するが、新旧関係は不明である。F P 051 と重複することから、炉穴と関係する遺構の可能性も考えられるが、覆土から焼土は検出されていない。遺物は 2 基合計で、縄文土器 1,004.63 g (第Ⅱ群 983.24 g、第Ⅹ群 21.39 g)、石器 7 点 71.16 g (磨石類 1 点 64.81 g、二次加工を有する剥片 2 点 5.24 g、剥片 4 点 1.11 g)、礫 1,020.06 g (チャート 148.74 g、流紋岩 85.06 g、砂岩 623.73 g、ホルンフェルス 111.05 g、凝灰岩 51.48 g) が出土した。S K 022- 1・2 は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈する。1 は横位の太い沈線文が施される。2 は帯状格子目文を横位に 2 段施文し、その区画間に鋸歯状の平行沈線文が施される。S K 023- 1 は無文の尖底部である。形状は尖底であるが、一部平坦面が確認できる。胎土に繊維は含まない。

S K 024 (旧：S K 015)

G 5-46 グリッドを中心に位置する。平面形は楕円形を呈する。深さは 49 cm である。遺構北西部は調査区外に展開するため、主軸・長軸長・短軸長は不明である。P 136 と重複しているが、新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器 628.26 g (第Ⅱ群 596.54 g、第Ⅹ群 31.72 g)、石器 1 点 0.10 g (剥片 1 点 0.10 g)、礫 399.09 g (チャート 85.47 g、流紋岩 68.91 g、砂岩 231.33 g、凝灰岩 13.38 g) が出土した。1・2 は胴部片である。1 は横位の細い沈線文と半裁竹管による刺突文が施される。2 は外面に横位の擦痕を残す。3 は尖底部である。上部に横位の条痕文が施される。2・3 は胎土に繊維を含まない。

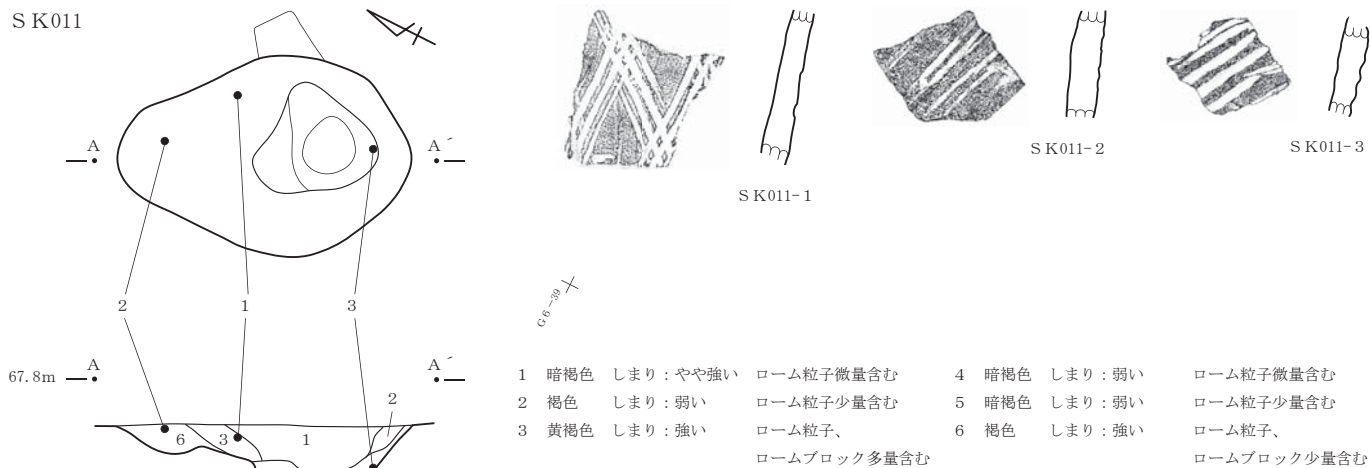
S K 025 (旧：S K 017)

G 5-52 グリッドを中心に位置する。平面形は楕円形を呈する。短軸は 122 cm、深さは 38 cm である。遺構北部は調査区外に展開するため、主軸・長軸長は不明である。遺物は、縄文土器 79.16 g (第Ⅱ群 79.16 g)、石器 1 点 0.21 g (剥片 1 点 0.21 g)、礫 173.98 g (チャート 52.53 g、流紋岩 5.70 g、砂岩 115.75 g) が出土した。

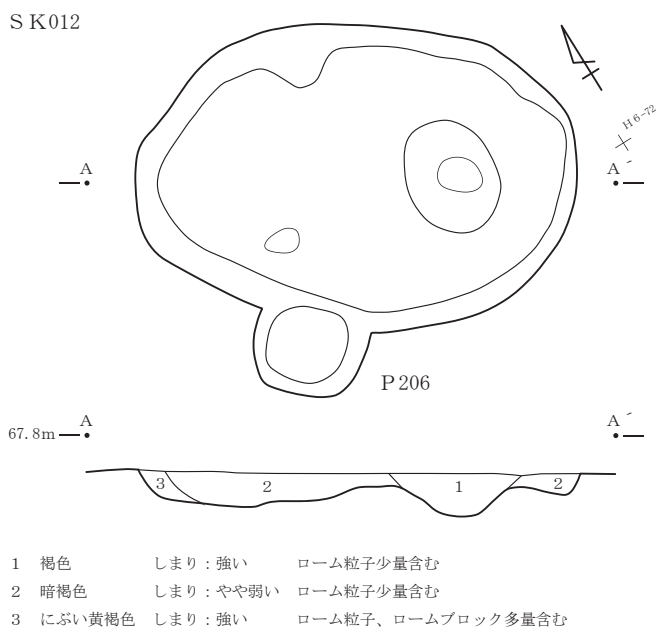
S K 026 (旧 : S K 016)

G 5-64 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-35° - Eである。長軸は167 cm、短軸は93 cm、深さは38 cmである。遺物は、縄文土器 489.15 g (第Ⅱ群 468.70 g、第Ⅲ群 5.58 g、第Ⅳ群 14.87 g)、石器 2 点 1.92 g (剥片 2 点 1.92 g)、礫 230.50 g (チャート 65.97 g、砂岩 164.53 g) が出土した。1は無文の尖底部である。胎土に繊維は含まない。

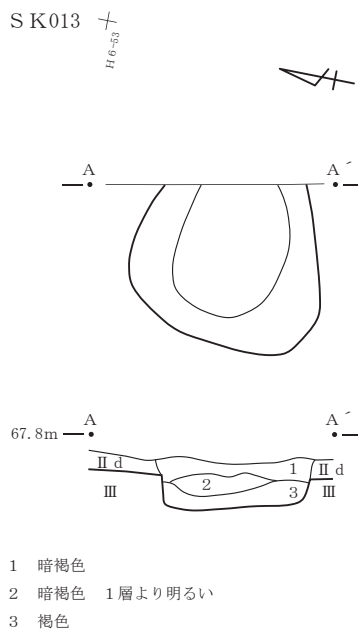
S K 011



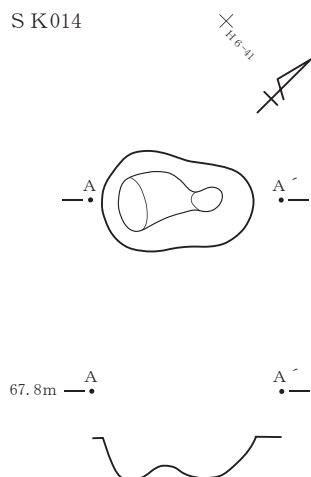
S K 012



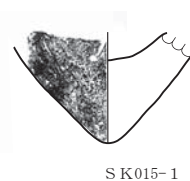
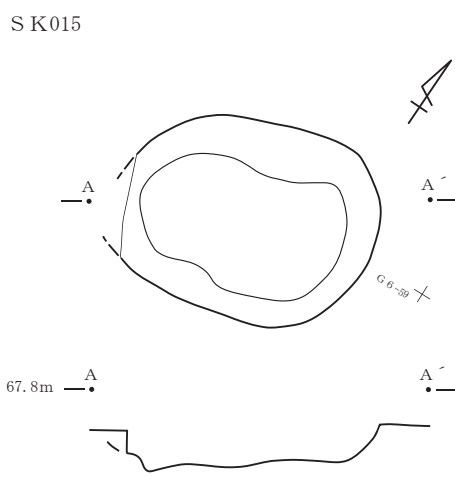
S K 013



S K 014



S K 015



S K 015-1

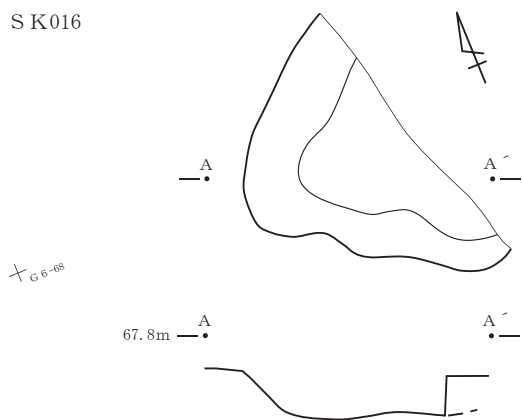
(土器)

0 (1:3) 10cm

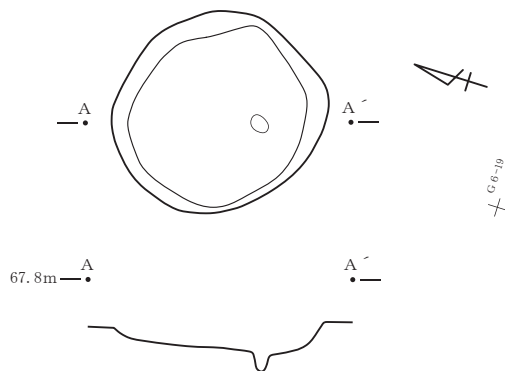
(遺構)

0 (1:40) 2m

S K016



S K017



S K016-1

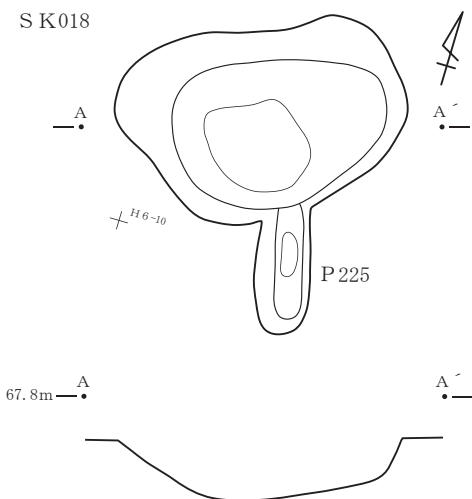


S K016-2

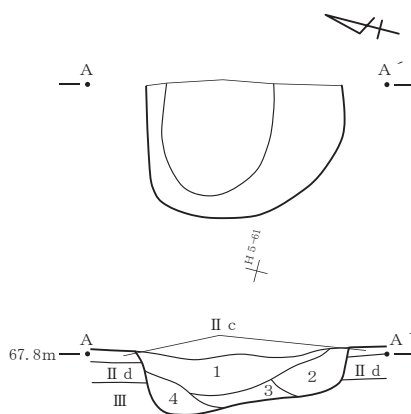


S K017-1

S K018



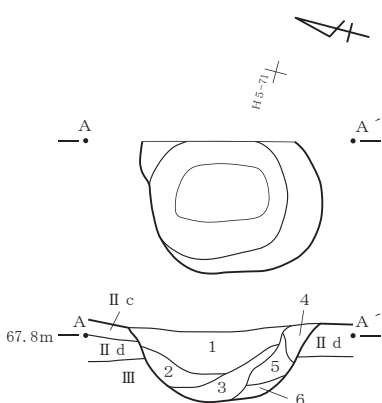
S K019



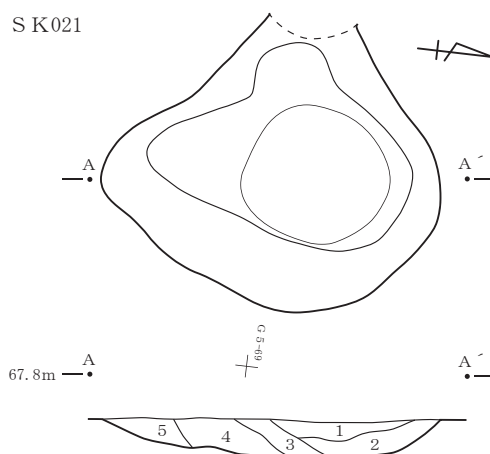
S K019-1

- | | | |
|----------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子少量含む |
| 2 褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 3 暗黄褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 4 にぶい黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |

S K020



S K021



S K021-1

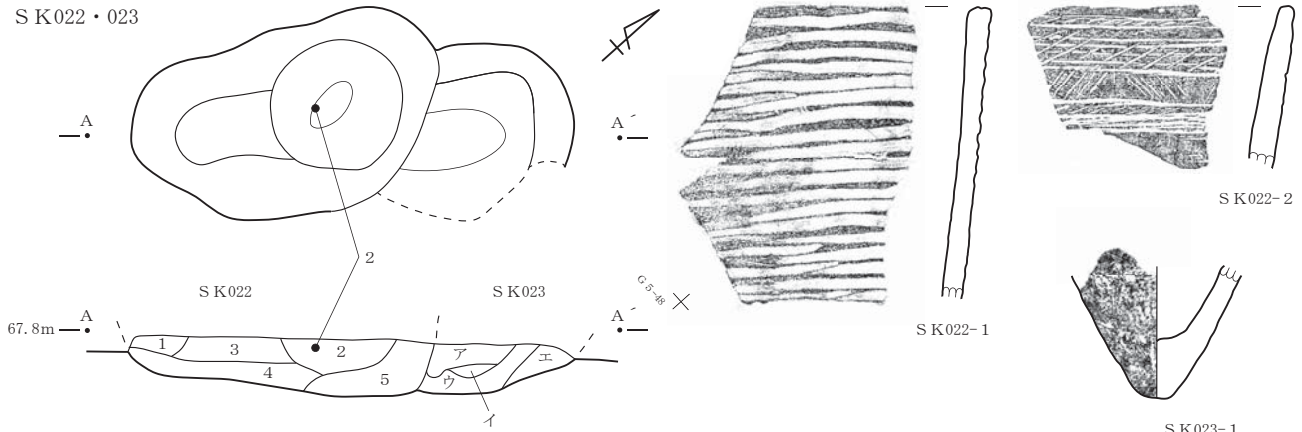
- | | | |
|----------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子少量含む |
| 2 黒褐色 | しまり：弱い | ローム粒子少量含む |
| 3 暗褐色 | しまり：やや弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 4 褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 5 にぶい黄褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 6 黄褐色 | しまり：強い | ローム粒子少量含む |

- | | | |
|--------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、焼土少量含む |
| 2 褐色 | しまり：やや弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 3 暗褐色 | しまり：強い | ローム粒子少量含む |
| 4 暗黄褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 5 褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |

(土器) 0 (1:3) 10cm

(遺構) 0 (1:40) 2m

S K022・023



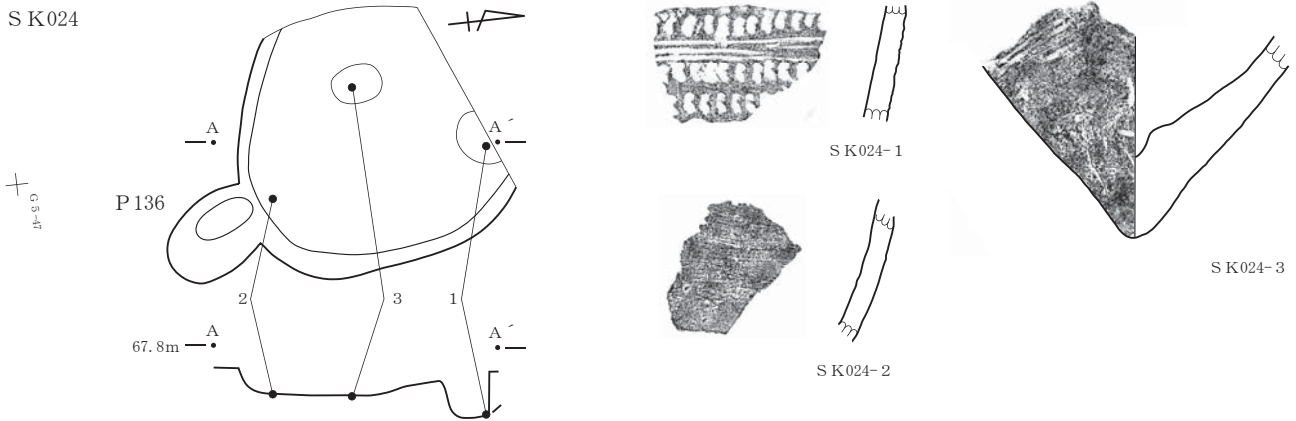
S K022

- | | | |
|----------|----------|-------------------|
| 1 褐色 | しまり：弱い | ローム粒子少量含む |
| 2 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 3 明黄褐色 | しまり：やや弱い | ローム粒子少量含む |
| 4 明黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 5 にぶい黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |

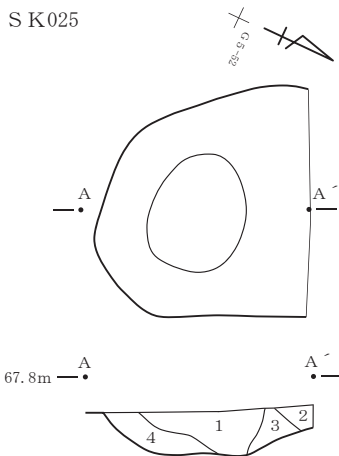
S K023

- | | | |
|----------|--------|-------------------|
| ア 暗褐色 | しまり：強い | ローム粒子少量含む |
| イ 褐色 | しまり：弱い | ローム粒子少量含む |
| ウ にぶい黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| エ 黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子多量含む |

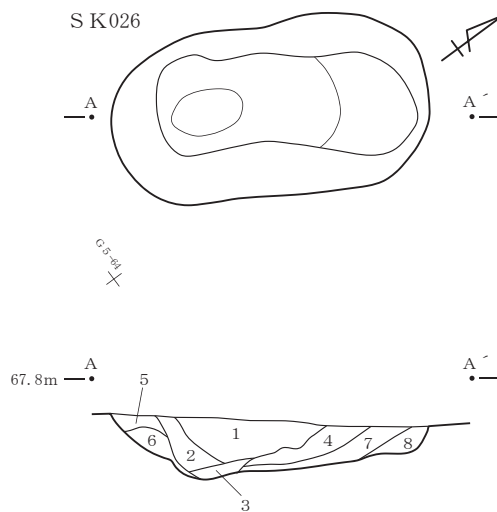
S K024



S K025



S K026



- | | | |
|--------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 2 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子少量含む |
| 3 明黄褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 4 褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |

- | | | |
|----------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、焼土少量含む |
| 2 暗褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 3 暗黄褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 4 暗褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 5 褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 6 にぶい黄褐色 | しまり：弱い | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 7 にぶい黄褐色 | しまり：強い | ローム粒子、ロームブロック多量含む |
| 8 褐色 | しまり：強い | ローム粒子少量含む |

(土器)
(1:3)
0 10cm

(遺構)
(1:40)
0 2m

第14図 縄文時代土坑、出土土器③

(4) ピット

調査区全域から 244 基検出された。形状や底面形から、攪乱や風倒木等も含む可能性もあるが、判断がでないため、すべて遺構とした。遺物は、縄文土器 9,950.56g (第Ⅰ群 14.85 g、第Ⅱ群 9,447.38g、第Ⅲ群 79.54g、第Ⅵ群 5.75 g、第Ⅹ群 403.04 g)、土偶 1点 7.69g、石器 64点 95.90g (石鏃 1点 1.23 g、石核 3点 31.95 g、二次加工を有する剥片 1点 2.56 g、剥片 59点 60.16 g)、礫 26,929.20g(チャート 5,414.29g、流紋岩 5,967.76 g、砂岩 11,069.03g、安山岩 1,632.27g、ホルンフェルス 1,069.99 g、凝灰岩 1,308.00g、頁岩 203.79g、その他 264.07g) が出土した。時期は出土遺物からすべて縄文時代早期のものと推測する。詳細は第 1～3 表のとおりである。なお、出土遺物は (5) 遺構外出土遺物に合わせて記載する。

第 1 表 ピット観察表①

遺構名	旧遺構名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P1	G5-1	G5-63	楕円形	42	39	24	
P2	G5-2	G5-53	円形	87	-	16	土器:第Ⅱ群23.74g、第Ⅲ群2.69g 第Ⅹ群12.39g 石器:剥片2点0.15g 礫:2,976.19g
P3	G5-3	G5-63	円形	49	43	17	
P4	G5-4	G5-63	円形	45	39	19	
P5	G5-5	G5-73	楕円形	-	50	44	土器:第Ⅱ群17.90g 石器:二次加工を有する剥片1点2.56g
P6	G5-6	G5-73	楕円形	73	61	30	土器:第Ⅱ群22.08g 礫:33.50g
P7	G5-7	G5-73	楕円形	59	46	25	土器:第Ⅱ群37.09g 礫:221.84g
P8	G5-8	G5-73	円形	55	50	15	土器:第Ⅱ群14.12g 礫:21.10g
P9	G5-9	G5-73	円形	56	54	16	
P10	G5-10	G5-84	楕円形	60	54	31	土器:第Ⅱ群33.46g 礫:51.98g
P11	G5-11	G5-84	円形	42	41	20	土器:第Ⅱ群27.24g 石器:剥片1点0.65g 礫:23.82g
P12	G5-12	G5-84	円形	62	58	13	土器:第Ⅹ群1.69g 礫:47.50g
P13	G5-13	G5-74	円形	44	43	16	土器:第Ⅱ群38.43g 礫:67.45g
P14	G5-14	G5-84	長楕円形	60	44	13	土器:第Ⅱ群16.19g、第Ⅹ群0.96g 礫:96.36g
P15	G5-15	G5-74	不定形	74	51	29	土器:第Ⅱ群104.44g、第Ⅹ群14.54g 石器:剥片1点0.75g 礫:108.32g
P16	G5-16	G5-85	円形	55	47	11	土器:第Ⅱ群7.63g 礫:263.62g
P17	G5-17	G5-85	円形	36	27	10	礫:48.77g
P18	G5-18	G5-85	長楕円形	84	53	14	土器:第Ⅱ群110.16g、第Ⅹ群6.69g 石器:剥片1点0.12g 礫:76.80g
P19	G5-19	G5-65	円形	40	36	18	土器:第Ⅱ群28.92g 礫:196.69g
P20	G5-20	G5-65	長楕円形	87	49	11	土器:第Ⅱ群52.90g、第Ⅹ群2.45g 礫:8.38g
P21	G5-21	G5-54	楕円形	86	69	26	土器:第Ⅱ群75.13g、第Ⅹ群5.26g 礫:80.68g
P22	G5-22	G5-54	円形	71	61	13	礫:41.74g
P23	G5-23	G5-54	楕円形	59	51	14	土器:第Ⅱ群28.49g 石器:剥片1点0.01g 礫:56.77g
P24	G5-24	G5-44	楕円形	56	51	19	土器:第Ⅱ群13.50g 石器:剥片1点0.12g 礫:51.81g
P25	G5-25	G5-54	楕円形	74	52	23	土器:第Ⅱ群78.27g 礫:33.70g
P26	G5-26	G5-55	円形	59	44	15	土器:第Ⅱ群56.16g 礫:72.60g
P27	G5-27	G5-55	長楕円形	113	57	17	土器:第Ⅱ群67.14g、第Ⅹ群2.77g 礫:66.91g
P28	G5-28	G5-65	長楕円形	71	44	19	
P29	G5-30	G5-61	隅丸方形	93	82	24	土器:第Ⅱ群34.48g、第Ⅹ群2.71g 石器:剥片1点0.33g 礫:203.42g
P30	G5-31	G5-61	円形	29	27	20	
P31	G5-32	G5-72	円形	44	37	17	土器:第Ⅱ群30.13g 礫:68.49g
P32	G5-33	G5-62	楕円形	133	127	44	土器:第Ⅱ群141.39g、第Ⅲ群20.41g 第Ⅹ群2.84g 石器:石鏃1点1.23g、剥片2点1.49g 礫:959.06g
P33	G5-34	G5-63	円形	63	57	19	
P34	G5-35	G5-93	円形	70	60	18	土器:第Ⅱ群20.09g 礫:139.04g
P35	G5-36	G5-93	円形	56	52	14	土器:第Ⅱ群18.33g 礫:10.54g
P36	G5-37	G5-93	不定形	81	69	15	土器:第Ⅱ群93.66g、第Ⅹ群16.65g 石器:剥片2点0.63g 礫:506.19g

遺構名	旧遺構名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P37	G5-38	G5-83	円形	54	45	8	
P38	G5-39	G5-83	円形	47	45	9	土器:第Ⅱ群15.75g
P39	G5-40	G5-93	円形	45	38	12	土器:第Ⅱ群4.68g 礫:48.24g
P40	G5-41	G5-83	楕円形	55	43	8	礫:25.00g
P41	G5-42	G5-94	楕円形	56	54	20	土器:第Ⅱ群88.75g、第Ⅹ群1.89g 石器:剥片3点1.45g 礫:80.75g
P42	G5-43	G5-84	円形	84	69	19	土器:第Ⅱ群69.48g、第Ⅲ群15.10g 第Ⅹ群1.14g 礫:170.49g
P43	G5-44	G5-94	楕円形	57	52	19	土器:第Ⅱ群55.03g、第Ⅹ群3.58g 礫:172.80g
P44	G5-45	G5-94	楕円形	46	35	22	土器:第Ⅱ群5.17g 礫:66.23g
P45	G5-46	G5-94	楕円形	55	46	8	土器:第Ⅱ群2.26g 礫:44.59g
P46	G5-47	G5-84	円形	29	26	7	
P47	G5-48	G5-85	円形	48	39	18	
P48	G5-49	G5-95	円形	41	33	8	
P49	G5-50	G5-95	楕円形	68	62	15	土器:第Ⅰ群14.85g、第Ⅱ群42.97g 礫:78.07g
P50	G5-61	G5-96	円形	75	60	22	
P51	G5-62	G5-96	円形	26	25	11	
P52	G5-63	G5-86	円形	38	37	14	
P53	G5-64	G5-86	円形	48	41	10	
P54	G5-65	G5-86	円形	36	32	13	
P55	G5-66	G5-96	円形	43	35	13	
P56	G5-67	G5-96	円形	32	30	19	土器:第Ⅱ群6.52g 礫:25.08g
P57	G5-68	G5-96	楕円形	79	60	31	土器:第Ⅱ群100.77g 礫:276.61g
P58	G5-81	G5-93	楕円形	85	74	20	土器:第Ⅱ群80.25g 礫:70.66g
P59	G5-83 G5-103	G5-45	長楕円形	121	58	20	土器:第Ⅱ群253.16g 礫:27.69g
P60	G5-84 G5-104	G5-76	円形	37	36	12	土器:第Ⅱ群7.21g、第Ⅹ群2.95g 石器:剥片3点1.81g 礫:135.30g
P61	G5-85 G5-105	G5-66	円形	31	29	13	土器:第Ⅱ群75.37g
P62	G5-86 G5-106	G5-66	楕円形	39	27	16	土器:第Ⅱ群131.18g、第Ⅹ群0.85g 石器:剥片1点0.29g
P63	G5-87 G5-107	G5-66	楕円形	-	-	19	土器:第Ⅱ群45.33g
P64	H5-1	H5-90	楕円形	-	79	22	土器:第Ⅱ群129.95g、第Ⅹ群27.02g 石器:剥片1点0.35g
P65	H5-2	H5-80	円形	50	48	14	土器:第Ⅱ群26.58g
P66	H5-3	H5-90	長楕円形	103	52	14	土器:第Ⅱ群77.52g 石器:剥片1点1.64g 礫:265.60g
P67	H5-4	H5-90	楕円形	59	45	11	土器:第Ⅹ群8.30g
P68	H5-5	G5-99	楕円形	49	37	25	土器:第Ⅱ群16.68g
P69	H5-6	G5-99	楕円形	62	48	2	土器:第Ⅱ群18.44g 礫:75.13g
P70	H5-7	G5-89	円形	42	40	19	土器:第Ⅱ群9.11g
P71	H5-8	H5-80	楕円形	57	49	24	土器:第Ⅱ群6.54g 礫:88.88g
P72	H5-9	G5-79	楕円形	83	76	29	土器:第Ⅱ群189.20g 礫:131.70g

単位:cm

第2表 ピット観察表②

遺構名	旧遺構名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P73	H5-10	H5-70	楕円形	56	49	30	土器:第Ⅱ群32.57g
P74	H5-11 H5-36	H5-70	楕円形	68	46	12	土器:第Ⅱ群27.95g 石器:剥片1点3.65g 礫7.57g
P75	H5-12	G5-99	不定形	67	47	52	土器:第Ⅱ群41.04g 石器:剥片1点1.52g 礫84.08g
P76	H5-13	G5-99	楕円形	65	52	14	土器:第Ⅱ群26.92g 礫61.33g
P77	H5-14	G6-08	円形	53	45	23	
P78	H5-15	G5-98	円形	54	44	26	土器:第Ⅱ群80.89g 石器:剥片1点0.30g 礫139.87g
P79	H5-16	G5-98	円形	41	38	10	土器:第Ⅱ群1.18g 礫63.02g
P80	H5-17	G5-97	楕円形	-	66	11	土器:第Ⅱ群37.95g、第Ⅲ群1.62g 礫331.43g
P81	H5-18	G5-98	円形	61	51	18	石器:剥片1点0.93g 礫:70.89g
P82	H5-19	G5-98	円形	40	39	13	礫:75.93g
P83	H5-20	G5-88	楕円形	74	57	26	土器:第Ⅱ群31.84g、第Ⅲ群2.05g 礫:134.37g
P84	H5-21	G5-89	不定形	68	53	20	土器:第Ⅱ群14.23g 礫:4.00g
P85	H5-22	H5-70	楕円形	82	56	26	土器:第Ⅱ群54.19g、第Ⅲ群10.29g 礫:61.88g
P86	H5-23	G5-79	楕円形	72	58	20	土器:第Ⅱ群84.33g 石器:剥片1点0.32g 礫:171.88g
P87	H5-24	G5-88	円形	64	59	20	
P88	H5-25	G5-88	円形	55	47	28	土器:第Ⅱ群2.36g
P89	H5-26	G5-87	円形	40	36	11	土器:第Ⅱ群2.16g 礫:15.23g
P90	H5-27	G5-87	楕円形	67	51	35	土器:第Ⅱ群18.14g 礫:36.57g
P91	H5-28	G5-78	楕円形	82	69	25	土器:第Ⅱ群9.48g、第Ⅲ群2.06g 石器:石核1点4.18g 礫:277.11g
P92	H5-29	G5-78	楕円形	79	65	21	土器:第Ⅱ群34.89g、第Ⅲ群6.29g 礫:300.32g
P93	H5-30	G5-78	楕円形	44	34	9	礫:35.25g
P94	H5-31	G5-77	円形	63	55	15	土器:第Ⅱ群11.71g 礫:55.05g
P95	H5-32	G5-77	円形	49	42	9	
P96	H5-33	G5-89	円形	28	27	21	土器:第Ⅱ群13.13g
P97	H5-34	H5-70	円形	94	90	39	土器:第Ⅱ群78.32g 礫:308.84g
P98	H5-35	H5-70	円形	85	-	21	土器:第Ⅱ群42.82g 礫:5.27g
P99	H5-37	H5-70	楕円形	66	51	16	土器:第Ⅱ群85.50g 礫:171.38g
P100	H5-38	H5-60	楕円形	-	41	7	土器:第Ⅱ群41.88g 石器:剥片1点5.90g 礫:86.16g
P101	H5-39	H5-60	楕円形	44	-	9	
P102	H5-40	H5-60	楕円形	29	24	8	
P103	H5-41	G5-69	円形	44	40	52	土器:第Ⅱ群49.05g 礫:17.10g
P104	H5-42	G5-69	楕円形	76	62	16	土器:第Ⅱ群91.18g、第Ⅲ群3.07g 石器:剥片1点5.33g 礫:123.39g
P105	H5-43	G5-59	円形	29	26	8	
P106	H5-44	H5-60	長楕円形	55	34	14	土器:第Ⅱ群4.30g 礫:38.95g
P107	H5-45	H5-50	楕円形	64	49	9	土器:第Ⅱ群15.00g
P108	H5-46	H5-50	楕円形	65	63	9	土器:第Ⅱ群92.01g、第Ⅲ群1.64g 礫:44.47g
P109	H5-47	H5-50	円形	43	40	17	土器:第Ⅱ群63.79g 石器:剥片1点0.41g
P110	H5-48	H5-40	円形	34	30	35	
P111	H5-49	H5-50	長楕円形	91	42	17	土器:第Ⅱ群40.44g、第Ⅲ群0.25g 礫:53.55g
P112	H5-50	H5-40	楕円形	95	73	35	土器:第Ⅱ群189.41g 石器:剥片1点0.22g 礫:261.75g
P113	H5-51	G5-59	円形	70	67	11	土器:第Ⅱ群56.01g
P114	H5-52	G5-58	円形	63	56	12	土器:第Ⅱ群13.17g 礫:131.09g
P115	H5-53	G5-58	円形	35	32	7	土器:第Ⅱ群14.36g
P116	H5-54	G5-69	円形	44	39	17	土器:第Ⅱ群80.35g 礫:83.55g

単位: cm

遺構名	旧遺構名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P117	G5-44 H5-55	G5-68	長楕円形	131	91	15	土器:第Ⅱ群90.82g、第Ⅲ群13.86g 礫:379.72g
P118	H5-56	G5-68	円形	60	-	17	
P119	H5-57	G5-68	円形	55	54	19	土器:第Ⅱ群44.40g、第Ⅲ群2.29g 礫:1,915.63g
P120	H5-58	G5-68	円形	48	42	40	
P121	H5-59	G5-68	楕円形	90	77	24	土器:第Ⅱ群111.73g、第Ⅲ群8.07g
P122	H5-60	G5-68	円形	50	43	51	土器:第Ⅱ群14.08g 礫:233.95g
P123	H5-61	G5-68	円形	55	54	23	
P124	H5-62	G5-67	円形	39	36	25	
P125	H5-63	G5-67	円形	50	49	14	土器:第Ⅱ群23.37g 石器:剥片1点1.08g
P126	H5-64	G5-57	楕円形	76	68	18	
P127	H5-65	G5-49	楕円形	79	57	27	土器:第Ⅱ群77.00g 礫:114.69g
P128	H5-66	G5-49	円形	75	68	28	土器:第Ⅱ群53.74g、第Ⅲ群0.48g 石器:剥片1点0.17g 礫:117.99g
P129	H5-67	G5-39	楕円形	59	41	14	土器:第Ⅱ群31.84g、第Ⅲ群6.42g
P130	H5-68	G5-48	円形	47	42	8	
P131	H5-69	G5-58	不定形	170	105	36	土器:第Ⅱ群103.57g、第Ⅲ群4.99g 石器:剥片1点0.18g 礫:171.42g
P132	H5-70	G5-57	楕円形	87	-	19	土器:第Ⅱ群82.93g、第Ⅲ群16.17g 礫:188.93g
P133	H5-71	G5-47	円形	39	36	27	
P134	H5-72	G5-47	楕円形	45	34	14	
P135	H5-73	G5-48	楕円形	-	-	19	
P136	H5-74	G5-47	楕円形	-	39	26	土器:第Ⅱ群76.00g 礫:54.15g
P137	H5-75	G5-45	楕円形	-	-	21	土器:第Ⅱ群81.98g
P138	H5-76	G5-45	楕円形	-	-	18	土器:第Ⅱ群54.82g 礫:136.88g
P139	H5-77	G5-56	楕円形	-	-	22	土器:第Ⅱ群17.56g
P140	H5-78	G5-56	楕円形	30	20	11	
P141	H5-79	G5-66	円形	46	44	21	
P142	H5-80	G5-57	長楕円形	260	-	36	土器:第Ⅱ群247.11g、第Ⅲ群6.17g 石器:剥片5点7.44g 礫:196.57g
P143	H5-81	G5-38	不定形	-	-	29	
P144	H5-82	G5-56	楕円形	-	-	82	土器:第Ⅱ群370.03g、第Ⅲ群13.48g 第Ⅳ群16.87g 石器:石核1点8.90g、剥片2点0.99g
P145	H5-83	H5-61	円形	38	28	8	土器:第Ⅱ群8.87g 礫:74.31g
P146	H5-84	H5-90	円形	65	63	18	
P147	H5-85	G5-99	円形	31	26	21	
P148	G6-1	G6-24	円形	29	26	53	土器:第Ⅱ群43.45g
P149	G6-2	G6-25	円形	64	55	24	
P150	G6-3	G6-25	楕円形	83	64	15	土器:第Ⅱ群89.80g
P151	G6-4	G6-37	楕円形	72	49	23	土器:第Ⅱ群28.95g
P152	G6-5	G6-37	円形	68	62	24	石器:剥片1点0.19g
P153	G6-6	G6-46	円形	38	34	19	礫:428.28g
P154	G6-7	G6-47	円形	35	26	23	土器:第Ⅱ群36.89g、第Ⅲ群7.33g 礫:67.30g
P155	G6-8	G6-45	不定形	-	-	35	土器:第Ⅱ群53.91g、第Ⅲ群1.80g 礫:230.16g
P156	G6-9	G6-55	楕円形	-	-	14	土器:第Ⅱ群8.17g 礫:366.59g
P157	G6-10	G6-55	円形	66	54	39	土器:第Ⅱ群22.33g 礫:129.92g
P158	G6-11	G6-56	円形	56	48	17	礫:83.67g
P159	G6-12	G6-67	楕円形	122	96	43	石器:剥片1点13.32g 礫:108.71g
P160	G6-13	G6-77	長楕円形	114	71	30	礫:82.15g

第3表 ピット観察表③

遺構名	旧遺構名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P161	G6-14	G6-78	長楕円形	112	77	17	土器:第Ⅹ群8.44g 石器:剥片2点0.87g 礫:113.69g
P162	G6-15	G6-78	円形	52	48	42	
P163	G6-16	G6-58	円形	81	66	31	礫:553.39g
P164	G6-17	G6-69	円形	-	-	20	土器:第Ⅱ群8.56g、第Ⅹ群1.04g 礫:108.46g
P165	G6-20	G6-48	不定形	-	-	14	
P166	G6-21	G6-29	円形	36	31	16	土器:第Ⅱ群79.43g、第Ⅹ群1.37g 礫:873.52g
P167	G6-23	G6-49	円形	50	46	26	土器:第Ⅱ群53.95g
P168	G6-24	G6-49	円形	44	42	14	土器:第Ⅱ群18.24g
P169	G6-25	G6-39	円形	40	35	15	土器:第Ⅱ群120.13g、第Ⅹ群0.48g
P170	G6-26	G6-38	円形	32	30	14	土器:第Ⅱ群14.95g、第Ⅹ群0.59g 石器:剥片1点0.16g
P171	G6-27	G6-39	円形	42	34	17	
P172	G6-28	G6-29	円形	55	45	19	
P173	G6-29	G6-28	円形	39	38	16	土器:第Ⅱ群26.13g
P174	G6-30	G6-49	楕円形	50	32	16	土器:第Ⅱ群76.15g、第Ⅹ群10.40g 礫:77.46g
P175	G6-31	G6-49	円形	37	30	10	土器:第Ⅱ群21.58g 礫:9.64g
P176	G6-37	G6-19	楕円形	76	48	17	土器:第Ⅱ群52.37g 石器:剥片1点0.26g 礫:90.95g
P177	G6-38	G6-39	長楕円形	69	31	15	
P178	G6-39	G6-39	楕円形	61	44	11	
P179	G6-47 G6-80	G6-04	円形	34	29	9	
P180	G6-28 G6-48	G6-14	円形	65	56	29	土器:第Ⅱ群112.35g、第Ⅵ群5.75g 土偶:7.69g 礫:180.00g
P181	G6-49	G6-05	楕円形	45	35	34	
P182	G6-50	G6-05	楕円形	37	28	8	
P183	G6-51	G6-14	円形	54	50	21	土器:第Ⅱ群79.22g 礫:289.62g
P184	G6-52	G6-14	円形	53	46	19	土器:第Ⅱ群13.88g 礫:59.52g
P185	G6-53	G6-14	楕円形	62	48	29	土器:第Ⅱ群31.00g、第Ⅹ群4.87g 礫:135.33g
P186	G6-54	G6-15	円形	38	31	29	
P187	G6-55	G6-15	円形	57	51	23	土器:第Ⅱ群20.21g 礫:145.58g
P188	G6-56	G6-15	円形	29	25	5	
P189	G6-57	G6-06	楕円形	94	67	17	土器:第Ⅱ群66.26g、第Ⅹ群0.94g 礫:208.21g
P190	G6-58	G6-05	円形	42	38	17	土器:第Ⅱ群19.57g 礫:139.00g
P191	G6-59	G6-05	楕円形	34	28	14	
P192	G6-60	G6-04	円形	46	39	35	土器:第Ⅱ群13.76g
P193	G6-69	G6-07	円形	38	37	14	土器:第Ⅹ群0.49g
P194	G6-70	G6-06	楕円形	40	29	14	土器:第Ⅱ群35.62g 礫:3.49g
P195	G6-71	G6-16	長楕円形	100	53	26	土器:第Ⅱ群122.93g、第Ⅹ群3.29g 礫:317.64g
P196	G6-72	G6-05	円形	37	33	18	
P197	G6-73	G6-03	楕円形	87	62	35	土器:第Ⅱ群104.02g 礫:266.03g
P198	G6-74	G6-13	円形	70	57	29	
P199	G6-75	G6-03	円形	35	29	12	土器:第Ⅲ群7.35g 礫:3.24g
P200	G6-76	G6-04	楕円形	-	-	24	土器:第Ⅱ群77.28g 礫:39.26g
P201	G6-77	G6-04	円形	69	59	19	土器:第Ⅱ群54.87g 礫:131.68g
P202	G6-82	G6-14	楕円形	99	76	21	

単位:cm

遺構名	旧遺構名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P203	G6-81 G6-87	G6-07	不定形	126	-	8	土器:第Ⅱ群12.27g 礫:92.96g
P204	H6-1	H6-91	楕円形	76	62	29	土器:第Ⅱ群41.58g、第Ⅹ群0.91g 礫:78.94g
P205	H6-2	H6-82	円形	49	46	20	土器:第Ⅱ群20.65g 石器:剥片1点0.25g 礫:74.81g
P206	H6-3	H6-81	円形	59	-	14	土器:第Ⅱ群44.85g 石器:剥片1点1.39g 礫:58.40g
P207	H6-4	H6-61	長楕円形	64	43	11	土器:第Ⅱ群21.71g、第Ⅹ群0.85g
P208	H6-5	H6-72	不定形	90	74	25	土器:第Ⅱ群42.05g 石器:剥片1点0.18g 礫:582.54g
P209	H6-6	H6-63	円形	58	53	25	土器:第Ⅱ群94.32g 石器:剥片2点0.40g 礫:117.97g
P210	H6-7	H6-62	円形	38	36	15	礫:4.61g
P211	H6-8	H6-61	円形	51	44	20	土器:第Ⅱ群18.21g 礫:91.48g
P212	H6-9	H6-70	楕円形	101	89	31	土器:第Ⅱ群19.96g、第Ⅹ群8.11g 石器:剥片1点0.99g 礫:73.77g
P213	H6-10	H6-70	円形	-	-	27	礫96.11g
P214	H6-11	H6-51	円形	53	52	20	土器:第Ⅱ群5.38g、第Ⅹ群0.72g 礫:36.69g
P215	H6-12	H6-51	不定形	97	75	21	土器:第Ⅱ群4.37g 礫:157.92g
P216	H6-13	H6-90	円形	53	51	19	
P217	H6-14	H6-82	円形	42	30	10	土器:第Ⅱ群6.54g 礫:3.36g
P218	H6-15	H6-82	円形	33	28	17	石器:剥片1点1.53g 礫:91.94g
P219	H6-16	H6-61	円形	44	37	15	土器:第Ⅱ群15.46g 石器:剥片1点0.26g 礫:75.25g
P220	H6-17	H6-80	円形	85	84	23	土器:第Ⅱ群94.89g、第Ⅹ群5.30g 礫:194.31g
P221	H6-18	H6-81	円形	30	28	35	礫:50.01g
P222	H6-19	H6-63	円形	42	35	61	
P223	H6-6 H6-20	H6-73	楕円形	46	35	19	
P224	H6-1 H6-21	H6-10	円形	46	43	21	
P225	H6-2 H6-22	H6-20	長楕円形	-	29	24	土器:第Ⅱ群10.54g
P226	H6-3 H6-23	H6-11	円形	53	49	14	土器:第Ⅱ群20.65g、第Ⅹ群3.91g
P227	H6-4 H6-24	H6-12	楕円形	85	63	23	土器:第Ⅱ群32.55g、第Ⅹ群3.80g 礫:723.09g
P228	H6-5 H6-25	H6-02	円形	45	44	20	
P229	H6-6 H6-26	H6-02	円形	41	40	28	
P230	H6-7 H6-27	H6-01	楕円形	52	45	10	
P231	H6-8 H6-28	H6-01	楕円形	55	37	12	礫:101.50g
P232	H6-9 H6-29	G6-19	円形	59	58	28	土器:第Ⅱ群152.76g 礫:147.77g
P233	H6-10 H6-30	G6-09	円形	36	32	39	
P234	H6-11 H6-31	G6-09	長楕円形	98	61	22	土器:第Ⅱ群20.50g、第Ⅹ群4.67g 礫:481.51g
P235	H6-12 H6-32	H6-00	不定形	88	82	25	土器:第Ⅱ群3.46g
P236	H6-13 H6-33	H5-91	楕円形	62	60	22	土器:第Ⅱ群13.59g、第Ⅹ群5.94g 石器:剥片1点0.31g 礫:318.3g
P237	G6-32 H6-41	H6-20	円形	34	32	16	土器:第Ⅱ群85.60g、第Ⅹ群1.20g 石器:剥片1点0.31g 礫:381.37g
P238	G6-22 H6-42	H6-30	楕円形	70	56	28	土器:第Ⅱ群382.59g
P239	G6-33 H6-43	H6-20	楕円形	46	36	23	土器:第Ⅱ群146.15g 礫:89.45g
P240	G6-34 H6-44	H6-30	楕円形	63	50	23	土器:第Ⅱ群60.56g、第Ⅹ群5.92g 礫:321.32g
P241	G6-35 H6-45	H6-31	楕円形	94	68	21	土器:第Ⅱ群15.74g、第Ⅹ群0.42g 石器:剥片1点0.13g 礫:287.97g
P242	H6-46	H6-43	楕円形	-	-	15	土器:第Ⅱ群37.95g、第Ⅹ群19.40g 石器:剥片1点0.17g
P243	SX001	G5-97	楕円形	-	-	12	土器:第Ⅱ群425.93g、第Ⅹ群24.38g 礫:576.00g
P244	SX002	G6-16	不定形	-	149	28	土器:第Ⅱ群514.21g、第Ⅲ群6.11g 第Ⅹ群28.63g 石器:石核1点18.87g、剥片1点1.21g 礫:1,225.75g

(5) 遺構外出土遺物

A. 土器

土器は 91,601.26 g 出土した。大部分が破片資料であり、器形復元可能なものはなかった。出土土器は、縄文土器 (90,085.65 g、98.35%) が大半を占め、それ以外は土師器 (第Ⅸ群) (10.37 g、0.01%) と時期不明・破片 (第Ⅹ群) (1,505.24 g、1.64%) がわずかに出土する。縄文土器は、早期 (第Ⅰ～Ⅴ群) (90,018.84 g、99.92%)、早期末から前期前半 (第Ⅵ群) (15.20 g、0.02%)、前期末から中期初頭 (第Ⅷ群) (51.61 g、0.06%) であり、早期のものがほとんどを占める。また、早期縄文土器の内訳は、撚糸文系 (第Ⅰ群) (350.39 g、0.39%)、沈線文系 (第Ⅱ群) (89,318.70 g、99.22%)、押型文系 (第Ⅲ群) (280.91 g、0.31%)、繊維入無文 (第Ⅳ群) (68.84 g、0.08%) で、沈線文系がほとんどを占める。土器は調査区全域から出土しており、その中でも調査区北部からまとまって出土している。撚糸文系・押型文系は出土数は少ないが、撚糸文系は調査区北西部、押型文系は調査区北部から比較的まとまって出土している。沈線文系は調査区全域から出土しているが、特に G 6 グリッド北部からまとまって出土している。

出土土器は、「大別型式 (群)」に分類し、その中で更に細分できるものについては「細別型式 (施文方法 (類))」という形で分類した。なお、細別形式 (類) の % は同群内での重量の割合を示す。

第Ⅰ群 撚糸文系 (第 15 図 1～10)

1 は口縁部片、2～10 は胴部片である。1 の口縁部はわずかに肥大し、直上する。口縁部下には縦位の撚糸文 r が施される。2～6 は撚糸文 r、7 は撚糸文 l が縦位に施される。施文は 2～6 は比較的密に行われるが、7 は疎らである。8 は非常に細かく密な撚糸文 r が横位に施される。9 は単節縄文 L R、10 は無節縄文 R が斜位に施される。

第Ⅱ群 沈線文系

第 1 類 帯状格子目文 (第 15 図 11～17) (2,290.56 g、2.56%)

11・12 は口縁部片、13～17 は胴部片である。11 の口唇部は尖頭状を呈し、口縁部直下に横位沈線施文後、帯状格子目文が鋸歯状に施される。12 の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下に横位・斜位に沈線文を施文後、斜位に帯状格子目文が施される。13・14 は横位沈線文区画内に帯状格子目文が鋸歯状に施される。本類は、帯状格子目文の幅が狭く、多段平行沈線文間の施文の三戸 2 式、帯状格子目文の幅が広く、幅広の平行沈線文間の施文の三戸 3 式と推測する。

第 2 類 沈線文＋刺突文 (第 15 図 18～32) (2,167.62 g、2.43%)

18～25 は口縁部片、26～32 は胴部片である。18 の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に 3 個 1 単位の耳状突起を有する。口縁部直下から 3 段の横位三角形刺突文、横位沈線文、横位三角形刺突文が施される。口縁部直下の刺突文は、耳状突起貼付け後に施される。胎土に小礫を多く含む。19 の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下には 3 条 1 単位の横位沈線文 3 段間に角状工具による刺突文が施文され、その下に押引文が斜位に施される。20 の口唇部は角頭状を呈し、口縁部下の横位沈線文区画内に上から格子目文、3 段の刺突文が施される。21 の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下に横位沈線文が施される。沈線文間には半裁竹管による刺突文が施される。22・23 の口唇部は角頭状を呈し、22 は口縁部直下に、23 は横位沈線文間に三角形刺突文が施される。24 の口唇部は尖頭状を呈し、口縁部直下に 2 段の刺突文が横位に施される。その下に 2 段の横位沈線文が施文され、沈線文間には斜位沈線文が鋸歯状に施される。25 の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に半裁竹管による刺突文が施される。26・27 は横位多段の平行沈線区画間に刺突文が施される。26 の文様構成は 21 と類似する。28 は 3 条 1 単位の平行沈線文で構成され、横位の沈線文施文後に斜位の沈線文が施される。斜位沈線文間には半裁竹管による刺突文が施される。29 は斜位の沈線文施文後に縦位の沈線文が施される。斜位沈線文間には三角形刺突文が施される。30 は角状工具による刺突文施文後に横位の沈線文が施される。31 は斜位沈線文間に 3 段の刺突文が施される。共に半裁竹管による施文であるが、上部 2 段は小型の半裁竹管、下部 1 段は大型の半裁竹管により施される。32 は 3 条 1 単位の斜位・横位平行沈線文間に半裁竹管による刺突文が施される。本類はすべて細い沈線文で構成される。本類は横位

多段の沈線文間に斜位沈線文、格子目文、刺突文を施す三戸2式が主体と推測する。

第3類 細沈線文（第16図33～45）（4,729.61 g、5.30%）

33・34は口縁部片、35～42は胴部片、43～45は底部片である。33の口唇部は丸頭状を呈し、横位の沈線文施文後、斜位の沈線文が鋸歯状に施される。補修孔を有する。34の口唇部は内削ぎ状を呈し、横位の沈線文が施される。35は横位の沈線文が施される。36・37は格子目文が施される。38は横位の沈線文下に斜位の沈線文が乱雑に施される。39は6条1単位の平行沈線文が鋸歯状に施される。40は4～5条1単位の平行沈線文が横位・斜位に施される。41・42は底部付近と思われる。41は横位の沈線文間に縦位の沈線文が施される。42は上部は太い沈線文が斜位に施文され、下部は細い沈線文による帯状斜線文が2段施される。43・44は尖底であり、所謂乳房状を呈する。44は底部先端に若干平坦部が確認できる。43は横位沈線文、44は縦位・横位の沈線文が施される。44の器厚は薄く、胎土は灰白色を呈し、他の土器と様相が異なる。45は平底である。底部直上に3条の沈線文を施文し、その上部に斜位の沈線文が施される。本類は、横位沈線文区画内に格子目文や平行沈線文が施される三戸1式から三戸2式が主体と推測する。

第4類 太沈線文（第16図46～63、第17図64～71）（45,976.58 g、51.47%）

46～61は口縁部片、62～71は胴部片である。46・47の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下には、縦位短沈線文帯が施される。縦位短沈線文帯下に、46は横位の細沈線文、47は格子目文が施される。48の口唇部は外削ぎ状を呈し、口縁部直下に斜位短沈線文帯が施される。49・50の口唇部は角頭状を呈し、口縁部下に格子目文が施文される。50は内面に横位のナデ調整の痕跡を残す。51の口唇部は角頭状を呈する。口縁部直下に横位の沈線文を施文し、その下に斜位の沈線文が施される。52の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に縦位短沈線文帯が施される。46や47と類似の文様構成と推測する。53～55は横位の沈線文が施文され、口唇部は53が内削ぎ状、54・55が角頭状を呈する。55は一部格子目になるように薄い斜位沈線文が施される。56・57は口縁部直下に横位の短沈線文が施文され、口唇部は56が角頭状、57が内削ぎ状を呈する。56は補修孔を有する。58の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下に斜位の沈線文が施される。器厚は薄い。59の口唇部は角頭状を呈し、斜位の沈線文が施される。補修孔を有する。60の口唇部は内削ぎ状を呈し、刻目文が施される。口縁部下には斜位の沈線文が施される。61の口唇部は角頭状を呈し、細い沈線により格子目文が施される。口縁部下は横位の沈線文が施される。62は格子目文が施される。63は鋸歯状に沈線文が施される。64は横位の沈線文が密に施される。65は斜位の短沈線文が施される。66・67は斜位の沈線文が施文され、66はやや乱雑に施される。68・69は横位沈線文間に短沈線文（刺突文か）が施される。70は矢羽状に沈線文が施される。71は斜位の沈線文が施される。本類は三戸式から田戸下層式で構成される。

第5類 貝殻腹縁文（第17図72～75）（13.43 g、0.02%）

72～75は胴部片である。72は斜位の条痕文施文後に縦位の貝殻腹縁文が施される。73は斜位の貝殻腹縁文が施される。矢羽状だろうか。74・75は横位の貝殻腹縁文が施される。本類は小片資料のみではあるが、三戸2式以降と推測する。

第6類 貝殻背圧痕文（第17図76～83）（215.23 g、0.24%）

76は口縁部片、77～83は胴部片である。76の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に耳状突起を有する。貝殻背圧痕文は疎らに施される。77は横位の沈線文下に貝殻背圧痕文が疎らに施される。78は貝殻背圧痕文を密に施文後、横位の沈線文が施される。79は縦位の円形刺突文間に貝殻背圧痕文が密に施される。80は密に、81・82は疎らに貝殻背圧痕文が施される。82は縦位帯状に施される。83は底部付近と思われる。貝殻背圧痕文は疎らに施される。76に見られる耳状突起は三戸2式、細久保1式以降に見られることから、本類も同時期のものであるだろうか。

第7類 刺突文（第17図84～90）（658.87 g、0.74%）

84～86は口縁部片、87～90は胴部片である。口縁部片の口唇部は、84が内削ぎ状、85が尖頭状、86が角頭状を呈する。85は口唇部に刻目文が施される。87はへら状工具、それ以外は半裁竹管による刺突文である。半裁竹管による刺突文のうち、86・90は外側竹管、それ以外は内側竹管である。90は底部付近と思われる。本類は、刺突文自体で土器全体の文様を構成するとは考え難く、沈線文とで構成される三戸式か

ら田戸下層式と推測する。

第8類 条痕文（第17図91～97、第18図98～105）（14,238.46 g、15.94%）

91～98は口縁部片、99～102は胴部片、103～105は底部片である。口縁部片の口唇部は、91～94が角頭状、95・96が丸頭状、97が尖頭状、98が内削ぎ状を呈する。102は底部付近と思われる。103・104は尖底を呈するが、103は所謂天狗の鼻状に近い形状である。105は先端部が欠損しているが、尖底と思われる。91～93・95・102は斜位、97・98・100・103・104は横位、99・105は縦位、96・101は格子目状に条痕文が施される。94は口縁部直下に横位の条痕文を施文し、その下に斜位の条痕文が施される。91は内面上部に横位の擦痕を残す。92は内面に横位ナデ調整がよく残る。102～104は、底部付近に無文帯を有する。本類は三戸式が主体と推測する。

第9類 無文（第18図106～114）（19,028.34 g、21.30%）

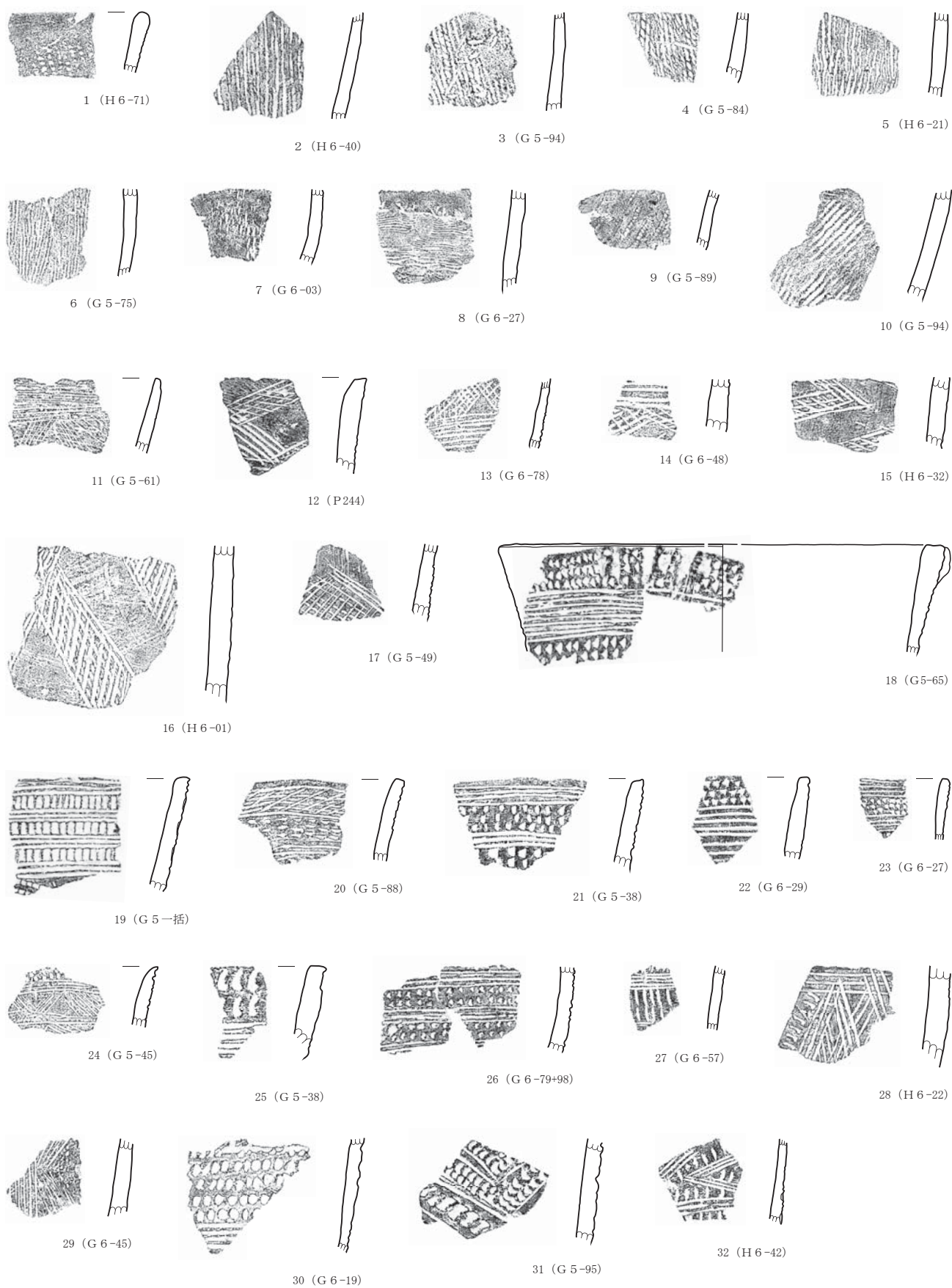
106～109は口縁部片、110～114は底部片である。106～109の口唇部は丸頭状を呈する。107・109は縦位に粗いケズリ整形が施される。108は内外面に擦痕を残す。109は補修孔を有する。110は平底、111～114は尖底を呈する。110は内外面ともににぶい赤褐色であり、外面・底部ともに細かなナデ調整が施される。111は尖底部付近に輪積痕が確認でき、114は輪積痕に沿って剥離したものと思われる。112は縦位の細かなケズリ整形が施される。107・109・112は外面のケズリ整形から撚糸文期平板式の可能性もあるが、本遺跡出土沈線文期土器の胎土に類似することから、本群に分類した。本類は分類上、施文がないため、三戸式、田戸下層式、田戸上層式の区分は難しい。ただ、底部において天狗の鼻状のものがいないことから、三戸式のものだろうか。

第Ⅲ群 押型文系（第18図115～133）

115～121は口縁部片、122～133は胴部片である。口縁部片の口唇部は、115～117・121が丸頭状、118～120が角頭状を呈する。121は口唇部に刻目文が施される。115～120・122～128は山形の押型文が施文される。115～119・122～126・128は横位、120・127は縦位に施される。121・129～132はポジティブな楕円形の押型文が施文される。121・129～131は横位、132は縦位に施される。133は上部に横位のポジティブな楕円形、下部に横位の山形の押型文が施される。117・119は口唇部直下に無文帯を有する。128は半裁竹管による刺突文が施される。116は胎土に小礫、121～124・129・131は胎土に金雲母を含む。本類は小片資料のみであるが、押型文間の無文帯へ刺突文施文のものや異種原体横位施文のものを含むことから細久保1・2式と推測する。

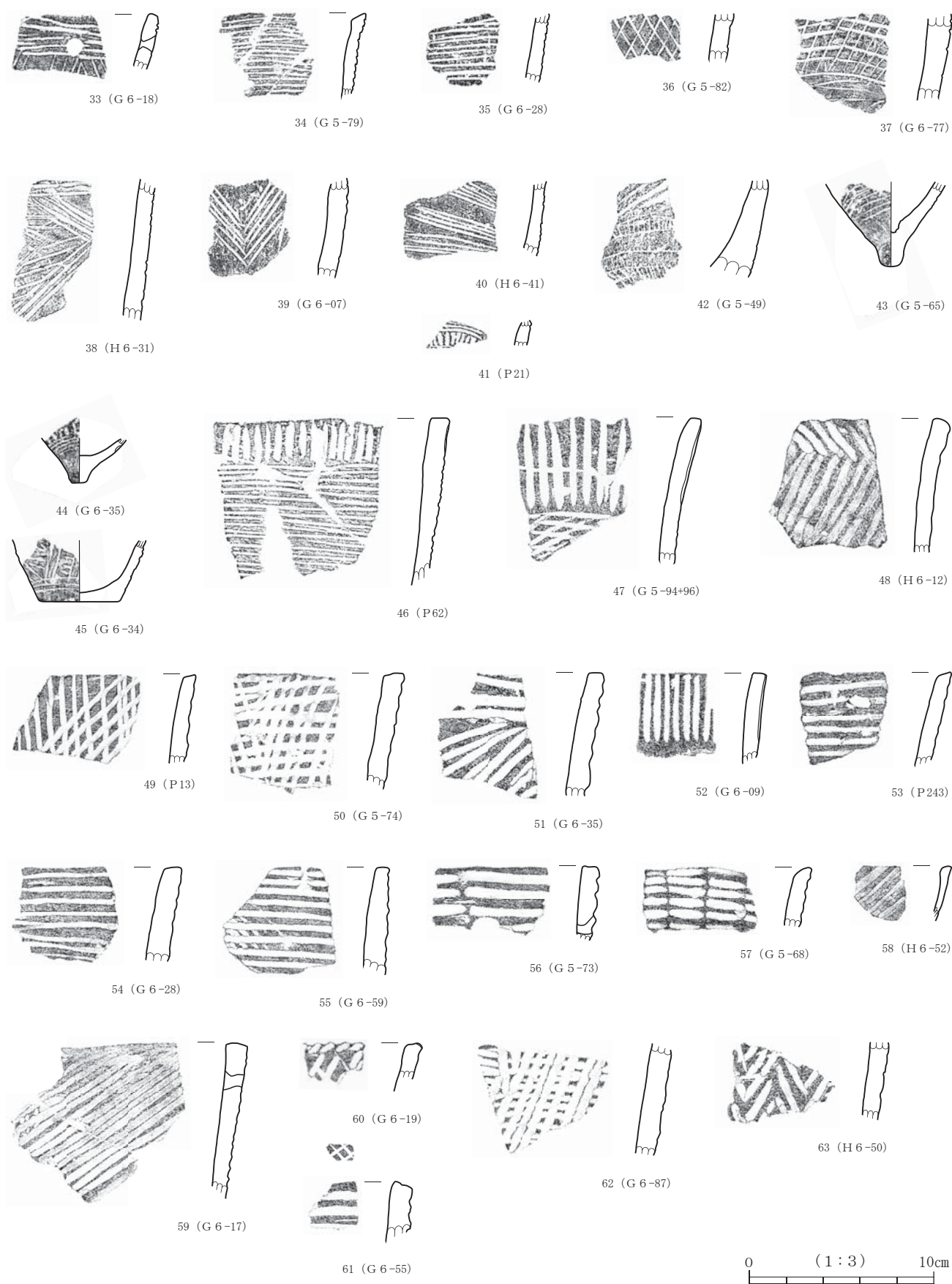
B. 土偶（第22図）

1は早期中葉沈線文期の土偶である。両腕部が欠損しているが、ほぼ完形の状態である。形状はバイオリン形で、頭部状突起を有する。胴部は、上部と下部に分かれて出土した。胴上部はG 6-15 グリッド、胴下部はP 180からの出土である。出土地点は隣接しており、意図的に破損させてから廃棄しているかは不明である。最大長6.0 cm、胴下部の最大幅2.9 cm、最大厚0.9 cm、重量15.52 gである。欠損する両腕部の幅は胴下部よりも広がるものと思われる。文様は表裏面ともに施される。表面は、頭部状突起に沈線文、胴部に刺突文が施される。頭部状突起の沈線文は、上端に1条、下端に2条の横位の沈線文を施文し、横位沈線文間に斜位の沈線文が施される。胴上部にある横位の5か所の刺突文のうち、中心の1か所は不明であるが、左側の2か所は左上から、右側の2か所は右上から刺突される。右側の2か所と左側2か所・中央1か所は傾きが異なっており、連続して刺突されたものではないと推測する。胴上部から下部にかけての縦位の刺突文はほぼ真上からの刺突である。裏面には、全面に薄く細い沈線文が施される。表裏面ともほぼ平坦であるが、表面の両腕中央部は若干窪む。胴上部と下部の割れ口より、芯棒の痕跡は確認できなかった。2は土版状の土製品であり、丁寧な成形で、細かな沈線文が施されることから、土偶と判断した。部位・形状は不明である。最大厚は1.9 cmであり、全面においてほぼ一定である。文様は表面のみ確認でき、欠損していない縁辺に沿って沈線文が施文され、そこから2条の帯状格子目文が斜位に施される。三戸式期の所産だろうか。

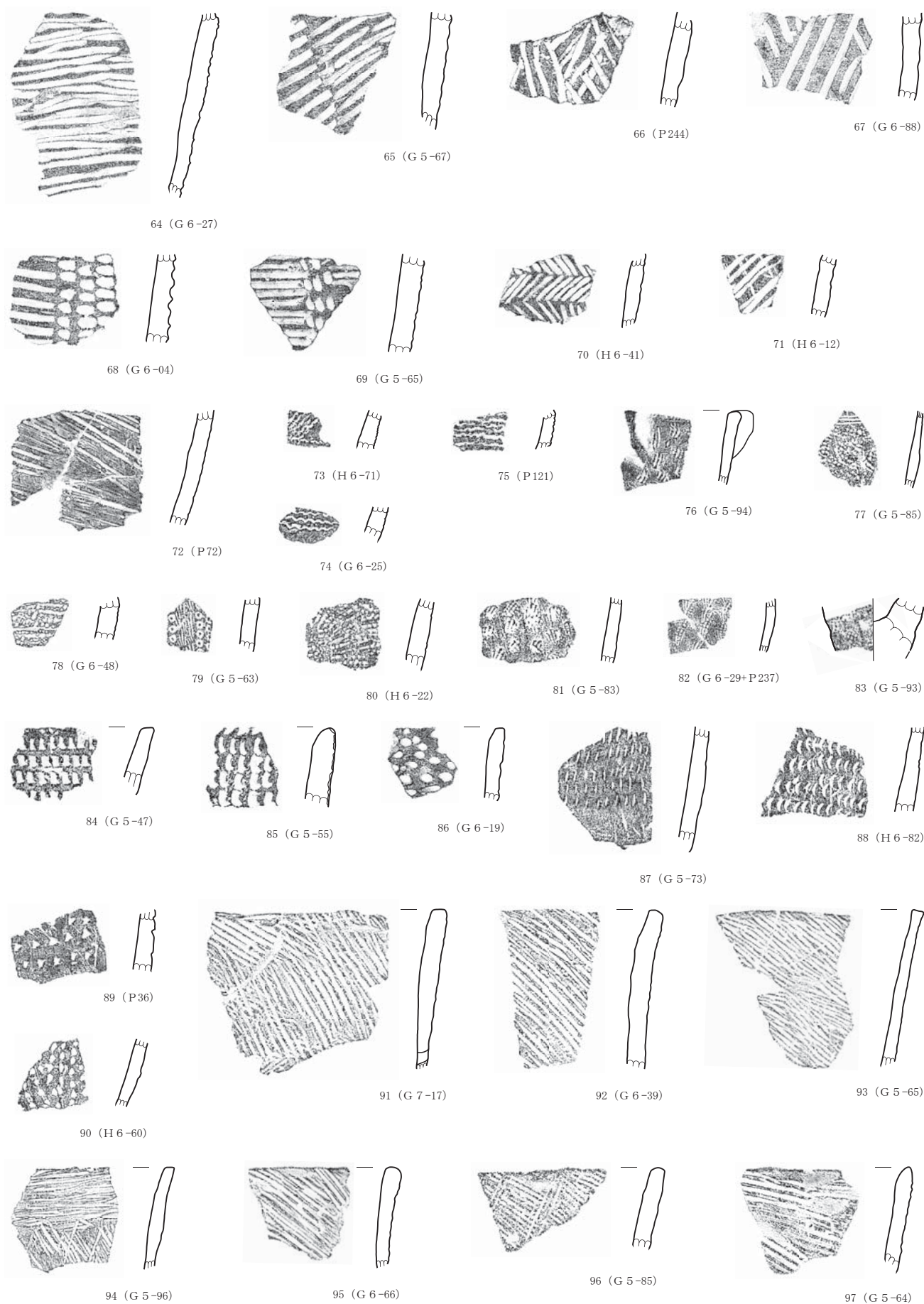


0 (1:3) 10cm

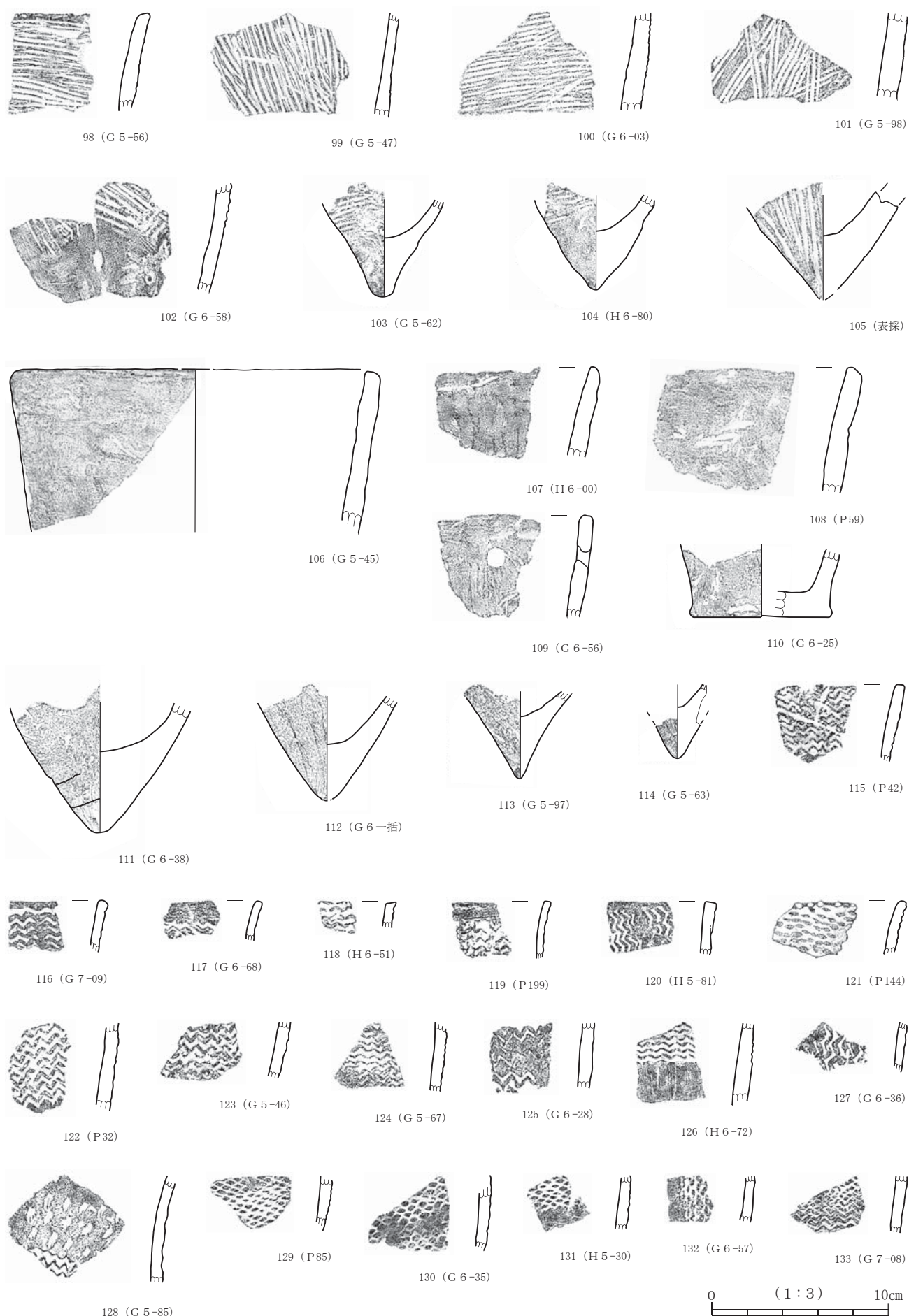
第15図 縄文土器①



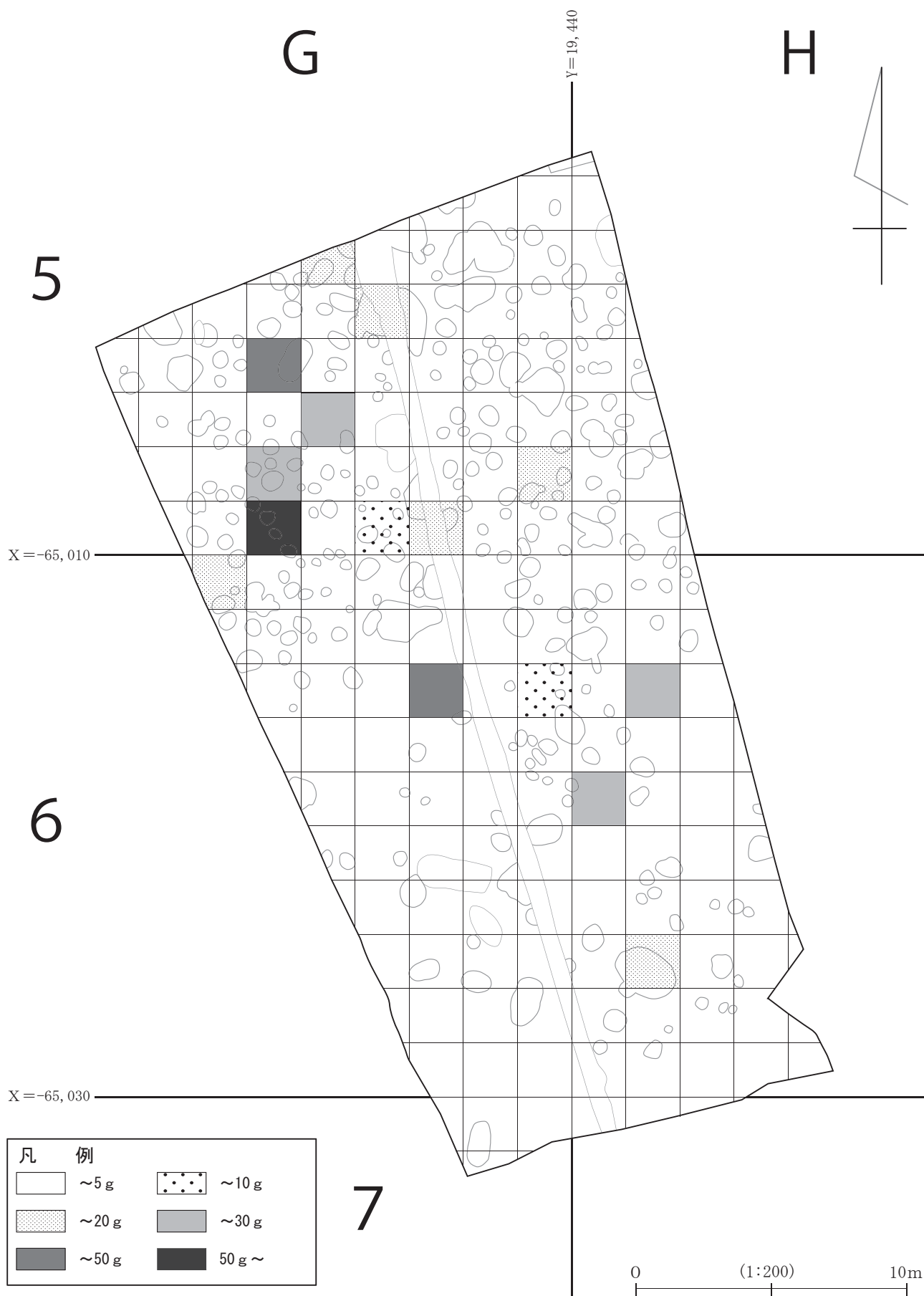
第16図 縄文土器②



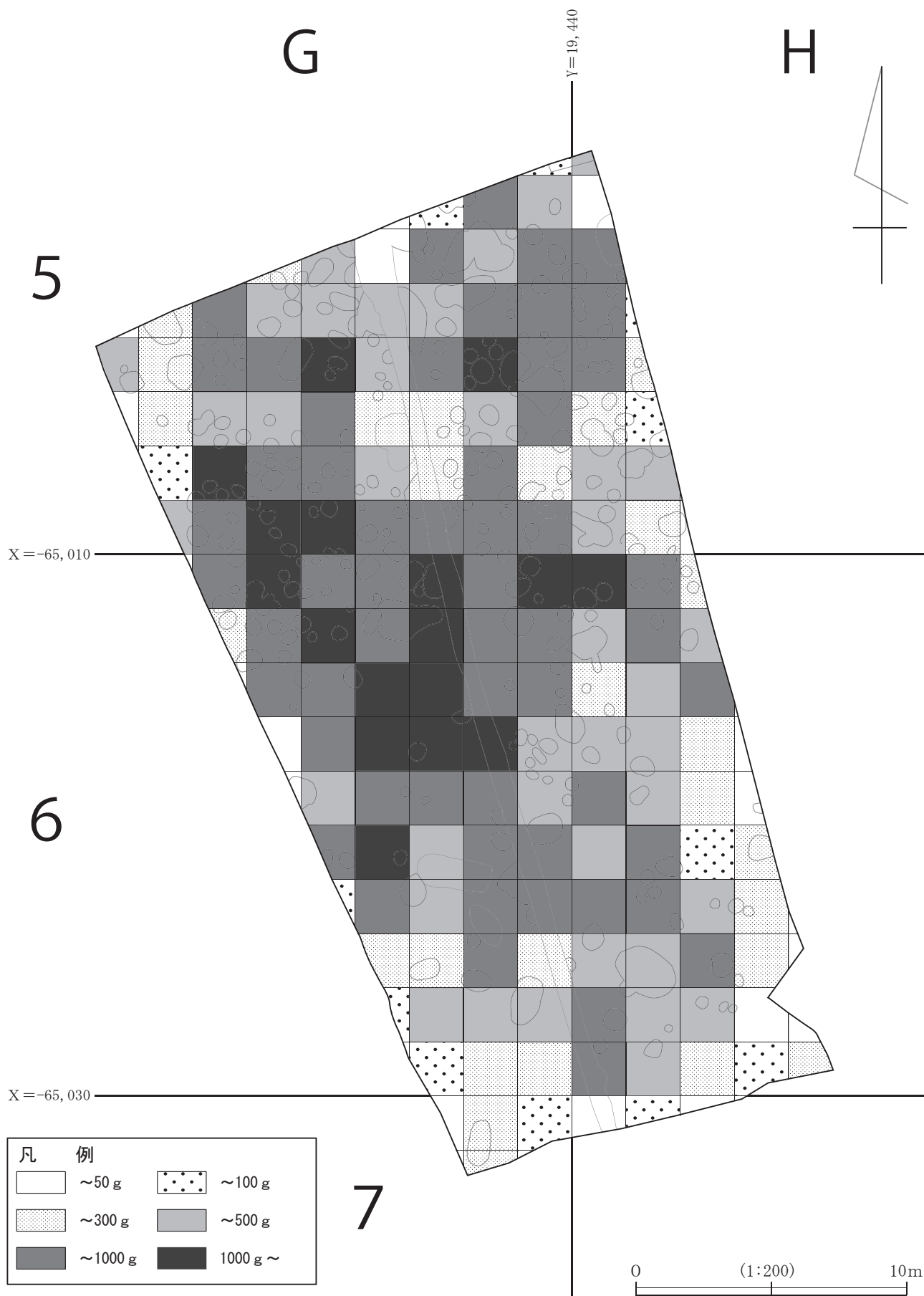
第 17 図 縄文土器③



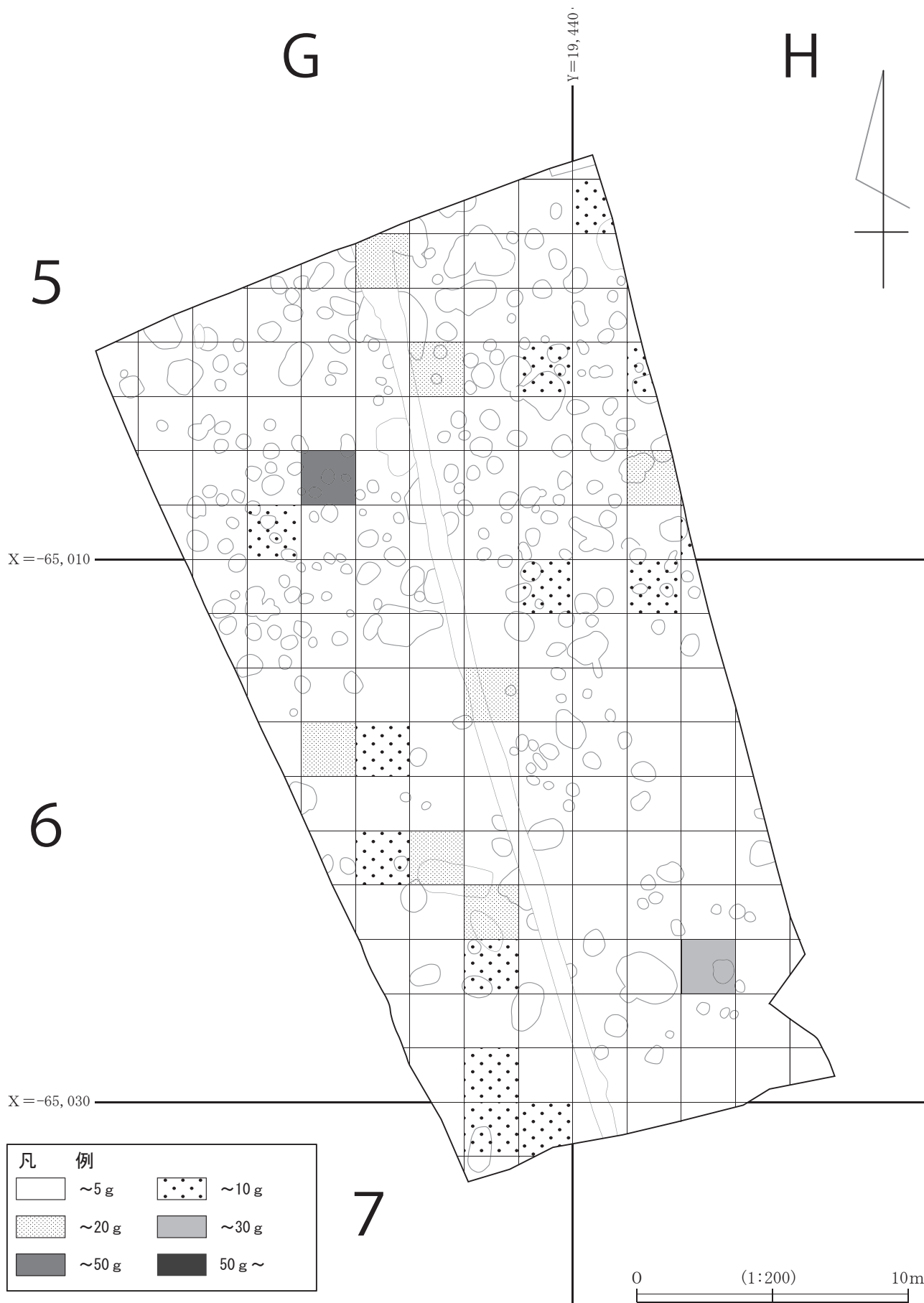
第18図 縄文土器④



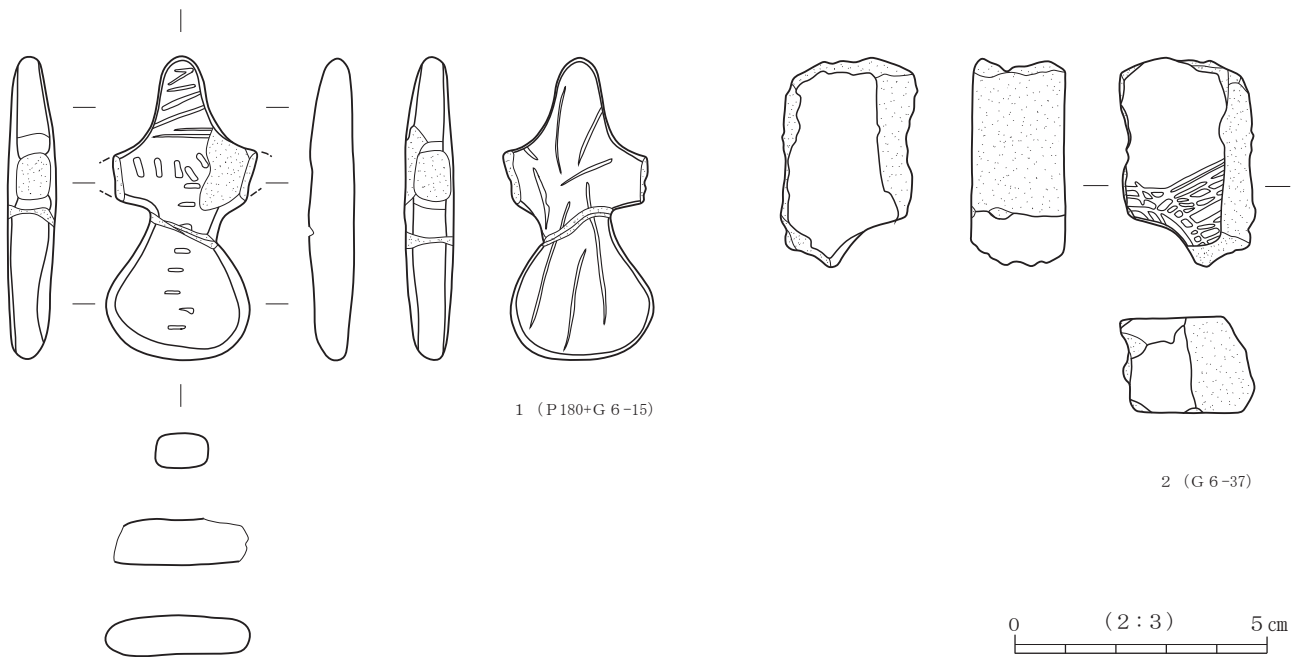
第19図 縄文土器出土状況（第I群）



第 20 図 縄文土器出土状況 (第Ⅱ群)



第 21 図 縄文土器出土状況（第Ⅲ群）



第22図 土偶

C. 礫 (第23図)

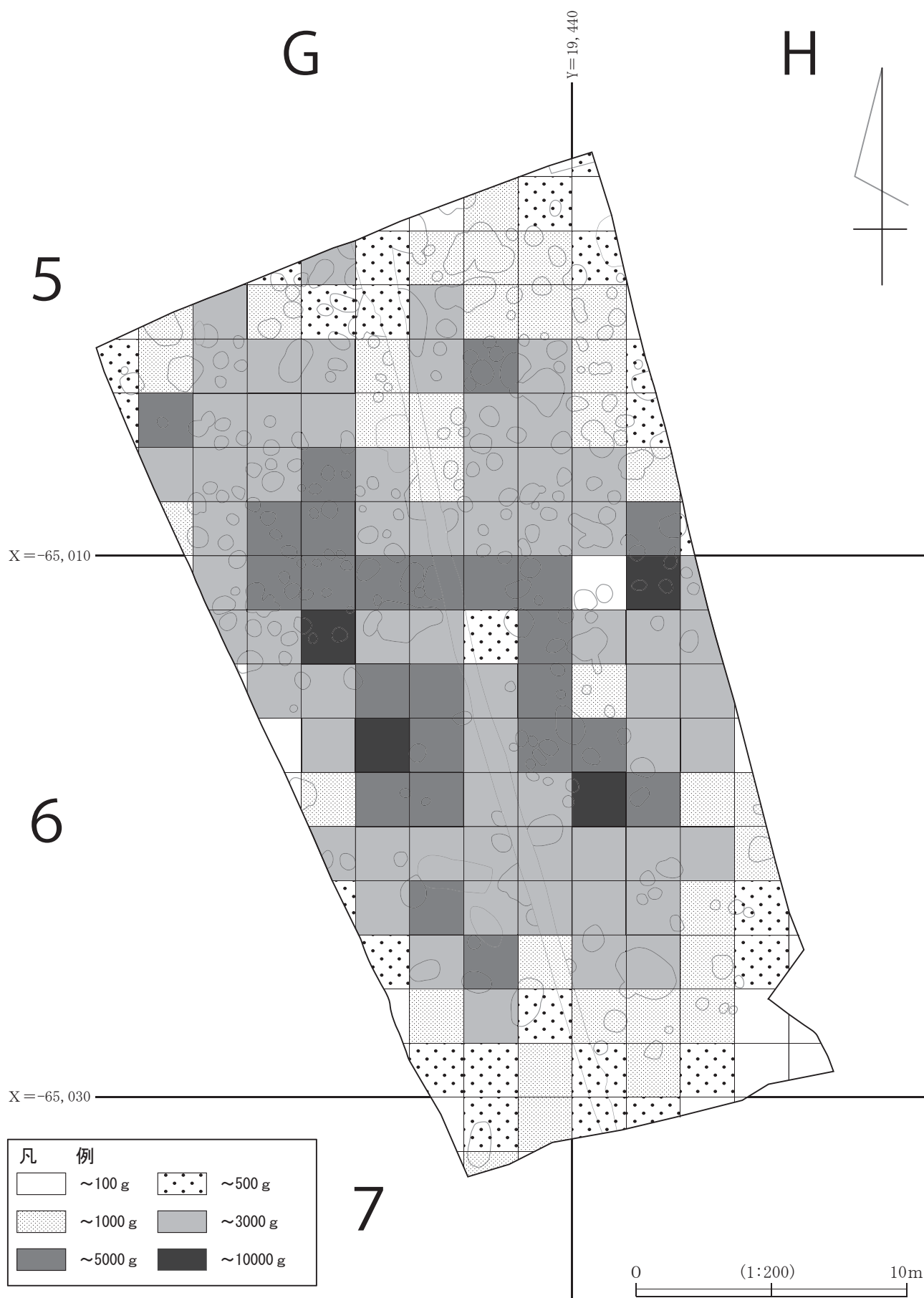
礫は調査区全域より出土しており、分布傾向は見られず、礫群等も確認できなかった。出土礫は、石材・遺存状況で分類した。石材については、過去の発掘調査で出土した礫の分類サンプルを利用し、分類を行った。遺存状況に関しては、完形（一部欠損でも全体形状が把握できるものも含む）と欠損で分類した。また、完形のものについては大きさで細分した。

礫は8,217点、270,725.27 g 出土した。石材は重量比で見ると、砂岩 117,290.83 g (43.3%)、流紋岩 60,982.21 g (22.5%)、チャート 57,310.05 g (21.2%)、凝灰岩 13,084.94 g (4.8%)、ホルンフェルス 12,897.59 g (4.8%)、安山岩 5,862.19 g (2.2%)、頁岩 2,022.63 g (0.7%)、その他 1,274.83 g (0.5%) であり、砂岩の出土量が特出している。遺存状況は個数比で見ると、完形908点(11.1%)、欠損7,309点(88.9%) であり、欠損しているものが圧倒的に多い。被熱については、判断が困難であり、個体数も多いことから今回は分類をしなかった。完形のものの大きさは3 cm未満が49点(5.4%)、3 cm以上5 cm未満が381点(42.0%)、5 cm以上7 cm未満が391点(43.1%)、7 cm以上10 cm未満が83点(9.1%)、10 cm以上が4点(0.4%) であり、3 cm以上7 cm未満のものが圧倒的に多く、10 cmを超えるものはほとんどなかった。

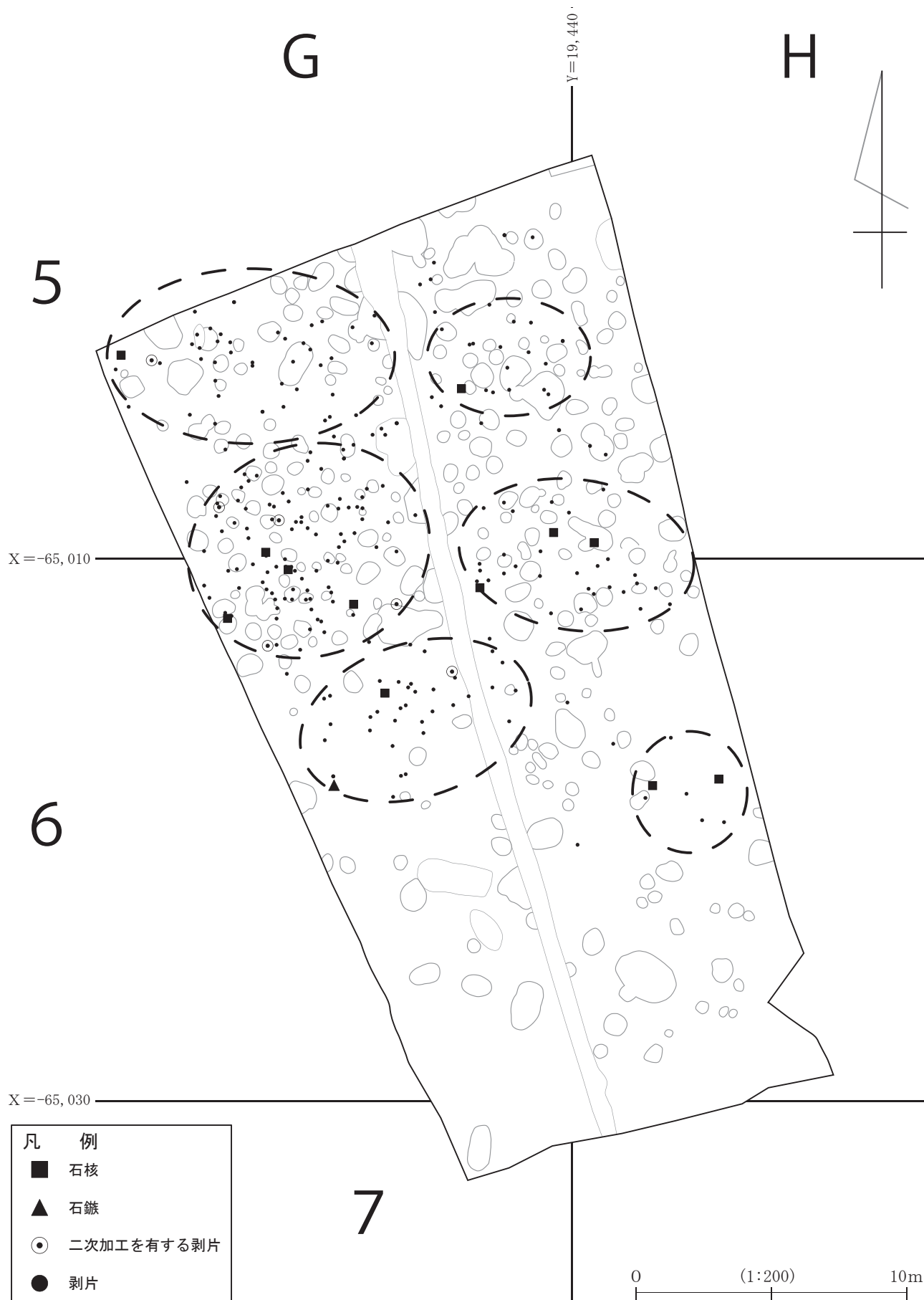
D. 石器 (第24・25図)

石器は429点、5,022.12 g 出土した。内訳は石鏃（未成品含む）5点6.51 g、二次加工を有する剥片7点18.15 g、石核16点124.11 g、剥片383点421.84 g、磨石類14点3,943.26 g、礫器3点485.42 g、軽石製品1点22.83 g である。磨石類・礫器以外はすべて黒曜石製である。黒曜石製品は可能な限り出土位置を記録した（第24図）。出土位置は調査区中央から北部に集中しており、いくつかのブロックを形成する。特にG 5・G 6グリッドの境界付近からは、複数の石核、二次加工を有する剥片、多数の剥片が出土しており、石器製作が行われていた可能性が高い。

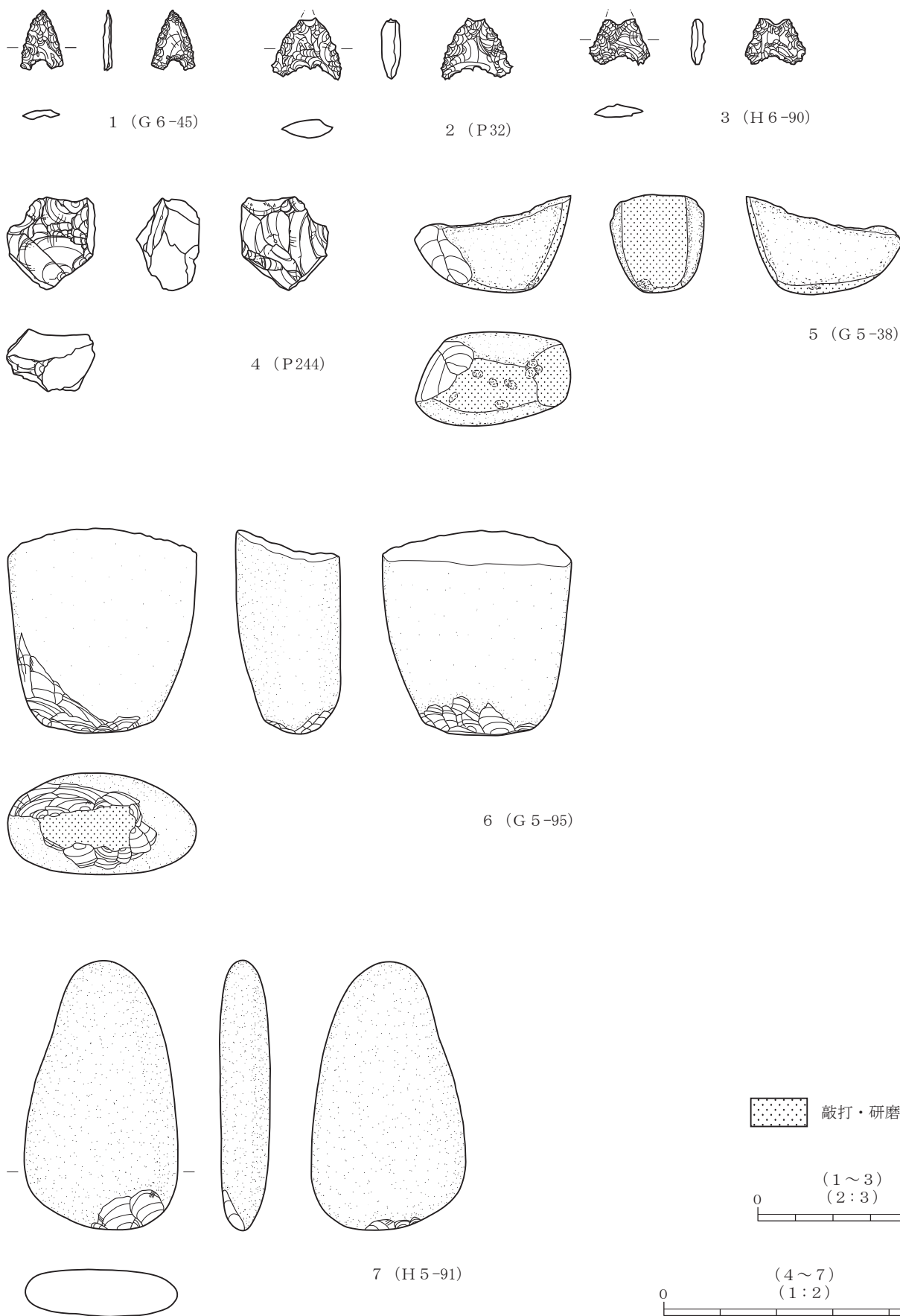
1～3は石鏃であり、黒曜石を素材とする。すべて凹基である。いずれも白色の混入物を含む。2・3は先端部が欠損する。4は黒曜石の石核である。打面転移を繰り返し、各縁辺から大小の剥片が剥離される。白色の混入物を含む。5・6は磨石類であり、砂岩製の扁平礫を素材とする。下面や側面に敲打や研磨痕を残す。下面からの剥離は敲打の際に生じたものと推測する。7は礫器であり、ホルンフェルス製の扁平礫を素材とする。素材礫の形状をそのまま生かし、下面がわずかに剥離する。



第 23 図 礫出土状況



第 24 図 石器出土状況



第 25 図 石器

第4表 土器重量表 (小グリップ別) ①

遺構名	第Ⅰ群 椀系文系			第Ⅱ群 沈線文系						第Ⅲ群 押型文系			第Ⅳ群 縄文入 無文	第Ⅴ類 条底文系	第Ⅵ群 早期末～ 前期前	第Ⅶ群 前期	第Ⅷ群 前期末～ 中期初	第Ⅸ群 土師器	第Ⅹ群 時期不明 ・碎片	合計
	帯状 格子目文	沈線文+ 刺突文	細沈線文	本沈線文	腹縁文	目殻 背圧痕文	刺突文	条痕文	無文											
G5-29				46.67				20.70	6.30										2.89	76.56
G5-36				19.40																19.40
G5-37								59.36												59.36
G5-38		56.22	96.08	314.84				165.35	99.83										5.94	738.26
G5-39		45.50	8.32	252.05				62.83	71.26											439.96
G5-44				102.14				22.89												125.03
G5-45	11.84	51.11	21.46	154.84				39.23	229.80											508.28
G5-46				2.53					29.61	12.25										44.39
G5-47	15.32	8.27	46.86	161.45			43.62	95.14	181.05				9.47						7.28	561.18
G5-48	10.17		59.62	65.12				104.63	213.67											460.49
G5-49	39.73		85.10	402.85				22.26	50.17											600.11
G5-52				123.51				21.44	42.28											187.23
G5-53		20.13	9.26	400.04				128.91	129.28				5.99		15.20				27.84	721.45
G5-54			43.40	103.03				50.46	301.43										7.60	521.12
G5-55				147.66			30.44	80.40	88.11											346.61
G5-56	14.11			264.40				102.69	19.48										10.59	411.27
G5-57	17.40		17.56	156.41				55.53	100.14										41.58	388.62
G5-58		19.01	26.89	394.03				198.20	101.33										12.91	752.37
G5-59		34.03	65.95	458.37				54.21	110.78											781.31
G5-61	32.51		25.43	162.84				50.59	36.29										6.23	313.89
G5-62				151.27				81.45	50.81				8.94							292.47
G5-63			42.70	160.23		9.19		213.41	138.35										25.48	589.36
G5-64	31.81	25.98	36.07	454.25				187.95	190.19										6.97	933.22
G5-65		87.68	138.49	566.52		9.48		137.91	171.64										10.39	1,122.11
G5-66			52.64	224.98				32.74	56.78											367.14
G5-67			31.19	299.36				55.35	129.89	11.35									4.41	531.55
G5-68		49.14	98.58	645.12				190.54	257.51										26.91	1,267.80
G5-69		27.50	34.30	583.17				116.78	132.45	7.77										901.97
G5-72	18.36		36.75	74.81				82.13	28.45										4.03	244.53
G5-73	2.12			172.74			42.17	105.27	82.38										14.56	419.24
G5-74		19.14	25.28	151.07				157.68	117.65										11.53	482.35
G5-75	24.42	36.28	97.48	279.66			47.50	330.54	180.65										32.88	1,035.52
G5-76			31.78	201.03				9.67	26.36										8.70	277.54
G5-77			14.52	191.56			6.44			2.59										231.44
G5-78		30.32	30.32	234.64				39.29	91.97										16.20	442.74
G5-79	11.90	37.43	78.90	158.36				24.77	302.01										5.12	618.49
G5-81	17.13		14.63	76.40				31.62	89.55										1.52	230.85
G5-82		10.42	26.68	53.06				5.19	6.14										6.68	108.17
G5-83		69.76	82.38	66.06	596.18	48.61		109.43	96.03										24.82	1,093.27
G5-84	21.24	40.42	39.29	19.41	302.03			98.02	111.56										23.78	655.75
G5-85		41.32	94.45	583.77		8.17		135.14	89.43	34.69									20.46	1,007.43
G5-86		39.22	5.32	274.77				55.93	123.68	2.82			4.94						9.62	516.20
G5-87		12.99		151.82				50.27	95.27										7.81	318.16
G5-88	30.35	49.42		365.41				79.34	88.09	2.15										614.76
G5-89	13.18	13.15	5.62	178.27				26.53	32.59										5.78	275.12
G5-92		17.09	10.32	149.53			20.59	55.78	89.81											343.12
G5-93		15.30	37.79	374.89		30.91		194.81	136.65			14.48							21.19	826.02
G5-94	65.76	27.98	21.83	638.73		25.40	63.75	178.87	311.85	8.17									42.78	1,385.12
G5-95		56.79	85.83	130.45	383.14		14.14	140.56	267.39										6.72	1,085.02
G5-96	5.91	13.03	31.17	570.73				135.98	179.71										15.72	952.25
G5-97	16.22	9.05	33.89	388.87				195.17	244.59											887.79
G5-98		35.57	29.25	300.79				119.20	158.22										38.88	689.99
G5-99			31.37	527.47		21.55		106.28	102.39										10.05	799.11
G5-一括		67.53	87.78	370.82			10.23	76.38	72.98										1.66	687.38
G6-02				17.51																17.51
G6-03	15.77		17.57	444.49				187.55	160.17	4.21									15.51	845.27
G6-04		32.68	23.81	80.37	534.43			153.75	230.11										25.06	1,080.21

単位:g

第5表 土器重量表（小グループ別）②

単位：g

遺構名	第Ⅰ群 燃糸文系				第Ⅱ群 沈線文系				第三群 押型文系	第四群 縄文系 無文	第五類 条痕文系	第六群 早期末～ 前期前	第七群 前期	第八群 前期末～ 中期初	第九群 土師器	第十群 時期不明 ・碎片	合計
	帯状 格子目文	沈線文+ 刺突文	細沈線文	太沈線文	貝殻 腹縁文	貝殻 背圧痕文	刺突文	条痕文									
G6-05		25.35	34.73		566.23			129.84		104.64						31.67	892.46
G6-06		8.20	27.21	25.24	699.15			76.30	142.01							20.00	998.11
G6-07		43.98		43.44	736.70			118.26	323.00	11.81						18.78	1,295.97
G6-08		94.08	15.74	81.21	369.79		51.80	204.01	123.21								939.84
G6-09		82.50		49.70	842.43			171.45	267.91	3.31						25.26	1,450.29
G6-13		56.11			113.41			84.45	25.23								279.20
G6-14			19.22	103.75	308.14		22.01	149.80	263.04							14.15	880.11
G6-15		149.66	44.30	74.09	904.32			66.44	198.57							33.17	1,470.55
G6-16				50.73	704.77			12.59	203.11							9.42	980.62
G6-17			83.53	10.92	651.13		6.61	64.78	359.72							21.09	1,197.78
G6-18			15.43	43.50	463.25			156.42	142.83							33.95	855.38
G6-19		78.50	32.33	43.33	450.65		15.28	142.44	155.07							14.87	932.47
G6-23					54.99												54.99
G6-24		20.15		37.36	265.32		21.74	27.52	213.17							19.72	604.98
G6-25			53.46	87.73	383.91	7.38		80.13	324.62	3.70						12.63	953.56
G6-26		21.14	23.20	25.69	1,257.77		22.00	112.95	524.07							37.66	2,024.48
G6-27	39.05	37.58	17.48	55.82	847.18			163.19	470.34							15.93	1,646.57
G6-28			9.17	39.83	336.53		3.74	282.34	165.92	16.45						16.29	870.27
G6-29		74.07	13.39	85.84	309.16		4.46	139.88	185.61							13.78	834.69
G6-34				28.04	45.52				10.68								84.24
G6-35			13.79	41.59	363.83			67.41	141.97	18.60						16.19	663.38
G6-36		7.81		4.13	545.66			317.37	293.39	8.66						8.31	1,185.33
G6-37		23.99	69.88	65.98	449.11			396.00	70.43							30.17	1,105.56
G6-38		11.96	3.73	9.10	339.27			195.41	517.70							24.99	1,102.16
G6-39		15.92		24.57	107.76			213.85	80.07							10.92	453.09
G6-45			20.38	13.26	195.11			97.75	118.54	3.20						11.57	453.81
G6-46		4.81		12.60	384.26			118.49	313.92	9.90							843.98
G6-47			9.62	18.75	401.85		3.71	105.98	37.85							12.57	590.33
G6-48		52.29	26.47	63.14	194.02		11.05	178.03	185.00							7.25	717.25
G6-49		20.42		23.46	217.36			65.60	61.20							1.79	389.83
G6-55				15.37	405.99			218.56	133.90							4.75	778.57
G6-56		15.63		70.80	566.32			52.39	301.61	6.50						1.02	1,013.47
G6-57			6.94	13.52	198.98			101.33	78.06	14.50						6.14	419.47
G6-58				39.25	207.27			139.25	133.80							2.92	522.49
G6-59			19.05	11.08	319.47			152.70	216.75								719.05
G6-65				13.21	61.67												74.88
G6-66		9.34		442.80		15.04	3.42	113.05	46.50							0.55	630.70
G6-67		6.47	30.98	26.91	250.02		11.79	80.62	59.44								465.23
G6-68		6.30		45.30	493.74			132.86	129.10	10.73				51.61		0.85	870.49
G6-69			35.07	63.41	255.54			82.92	95.01								544.13
G6-76		29.33		25.85	83.58	12.18		19.08	23.51								181.35
G6-77				65.09	177.15				17.69	2.65						6.88	269.46
G6-78		9.11		25.27	270.41			56.95	266.34	5.88						2.10	636.06
G6-79		24.78	20.63		84.19			28.17									157.77
G6-86					98.44												98.44
G6-87		37.50		53.68	164.84			43.81	43.48								343.31
G6-88			19.21	12.05	272.82			75.26	46.02							8.31	433.67
G6-89				23.63	192.13			60.64	55.37								331.77
G6-97					34.06			29.07									63.13
G6-98			16.14		128.36			83.05	7.39	6.90							241.84
G6-99		29.38			142.81			38.75	40.00							1.55	252.49
G6一括		6.65	21.35	43.59	451.91			174.58	207.17							7.73	912.98
G7-08					72.81			43.33	37.42	9.42							162.98
G7-09					10.98			24.86	28.37	8.04							72.25
G7-17			7.78	5.88	31.72			159.67								8.94	213.99
G7-18					34.39												34.39

第6表 土器重量表 (小グループ別) ③

遺構名	第Ⅰ群 燃系文系	第Ⅱ群 沈線文系										第Ⅲ群 押型文系	第Ⅳ群 縄進入 無文	第Ⅴ類 条痕文系	第Ⅵ群 早期末～ 前期前	第Ⅶ群 前期	第Ⅷ群 前期末～ 中期初	第Ⅸ群 土師器	第Ⅹ群 時期不明 ・碎片	合計	
		帯状 格子目文	沈線文+ 刺突文	細沈線文	太沈線文	貝殻 腹線文	貝殻 背圧痕文	刺突文	条痕文	無文											
H5-10				6.62						15.93											22.55
H5-20		5.09	39.72	174.36						65.38	40.78										325.33
H5-30										47.41		8.31									55.72
H5-40		41.83	23.71	367.49						55.48	61.76								4.17		554.44
H5-50		58.87	53.70	81.64	567.91					30.50	154.31										946.93
H5-51					50.23						19.31										69.54
H5-60		20.14	25.81	34.88	308.12					120.53	62.82								11.61		583.91
H5-61			81.00	93.19						9.89	99.79	6.11							8.48		298.46
H5-70			28.37	173.07						10.59	66.05								13.42		291.50
H5-71				5.14							57.20										62.34
H5-80				264.58						68.35	69.28								15.90		418.11
H5-81		15.22		60.94	178.71					48.46	57.36								7.70		368.39
H5-90		24.56	18.41		90.68					18.33	60.88										212.86
H5-一括				54.71							129.55								6.01		244.30
H6-00		34.74		50.16	580.91					64.70	276.45								18.35		1064.33
H6-01		125.16		13.51	260.25					46.19	303.29	6.56							15.80		791.64
H6-02					181.40					5.70	41.36	2.77							2.00		233.23
H6-10				14.49	151.34					78.56	80.44	3.72							18.73		347.28
H6-11		8.21	22.41	58.33	662.60					92.85	150.27								17.85		1015.63
H6-12				6.78	203.21					5.38	109.24								11.02		357.63
H6-20				25.51	116.53						5.07										147.11
H6-21	23.89	13.75			210.27					32.83	127.72										408.46
H6-22		73.11	47.65	337.55			21.10			111.00	62.37								2.08		654.86
H6-30			10.85	7.09	390.48					36.17	25.80								2.30		472.69
H6-31				45.70	196.07					30.14	44.71								8.17		324.79
H6-32		28.53			194.67					55.68									6.66		285.54
H6-33					13.39					6.32											19.71
H6-40	24.30		24.36	9.82	356.26					127.63	283.46								4.16		829.99
H6-41		4.60		52.91	202.20					130.00	64.38										454.09
H6-42		7.37	14.31		94.30					50.57	21.90								13.00		201.45
H6-43					9.94					28.49											38.43
H6-50		16.46		10.62	259.82					99.66	88.19								8.61		483.36
H6-51		43.71	5.77	93.08	182.81					33.03	218.13	3.02							22.58		602.13
H6-52		1.68		37.19	41.84					19.16									48.07		147.94
H6-53					125.70						30.98								5.52		162.20
H6-60		8.86	27.24	11.95	309.46					29.16	112.65								4.75		517.22
H6-61		4.61			295.04					62.32	159.55								3.73		529.68
H6-62			35.09	22.51	137.89					17.08	127.94								11.13		351.64
H6-63		21.28	23.77	6.10	128.67						18.91								5.87		204.60
H6-70				25.73	191.94					98.69	68.83								5.02		390.21
H6-71	19.81				163.65	6.05				21.50	133.67	58.06							16.02		418.76
H6-72		5.62		7.54	208.33					73.65	214.33	25.79							21.06		556.32
H6-73					163.12					22.91									1.34		187.37
H6-80		56.85			262.64					144.27	216.89								15.75		696.40
H6-81			6.63		253.42					148.86	49.67										458.58
H6-82				26.59	194.53					40.44	45.90	84.30	3.11						12.75		407.62
H6-83					40.84														7.04		47.88
H6-90		54.32	4.95		316.72					85.14	100.65								23.25		585.03
H6-91				5.56	245.89					144.35	56.94								8.53		461.27
H6-92				25.18	30.01					116.98	29.74								3.02		204.93
H6-93				4.36	89.26																93.62
H6-94					114.19																114.19
H6-一括					79.86																79.86
H7-01										10.21	48.75								1.75		68.97
表探		12.15	93.46	104.77	897.28					65.52	487.78	248.76							10.37		1930.18
合計	350.39	2,290.56	2,167.62	4,729.61	45,976.58	13.43	215.23	658.87	14,238.46	19,028.34	280.91	68.84	0.00	15.20	0.00	51.61			10.37	1,505.24	91,601.26

単位:g

Ⅲ 総括

旧石器時代

旧石器時代の調査範囲はトレンチ1か所のみであったが、第2黒色帯上部層から珪質頁岩製の二次加工を有する剥片が出土した。過去調査においても、南西部の打越岱遺跡（1）（2）からはハードローム層から第1黒色帯間で13点出土し、北西部の打越岱遺跡（3）からは旧石器時代のもものと推測される石器が出土することから、本遺跡のほぼ全域への展開が推測できる。また、今回出土した石器は本遺跡の最も古い段階のものであるが、小櫃川支流松川を挟んだ対岸に位置する文脇遺跡からは更に古い第2黒色帯下部層から石器集中地点が検出されている。松川流域の台地上には旧石器時代の遺跡が少なからず存在しており、時期や広がりについては検討する必要がある。

縄文時代

縄文時代の遺構は、炉穴14基、陥穴2基、土坑16基、ピット244基が検出された。調査区全域から縄文時代早期の包含層が検出されており、遺構も同時期の所産と推測する。遺構の配置は、炉穴・土坑・ピットは調査区北部に密集し、陥穴は調査区南部からの検出である。遺構密度は南部に比べ、北部の方が圧倒的に濃い。調査区南部は遺構密度と同様に出土遺物量も少ないが、北部と南部で出土遺物の時期差は見られなかった。

打越岱遺跡（1）（2）では撚糸文期の堅穴住居、条痕文期主体の炉穴、陥穴、土坑が検出されており、出土土器は早期縄文土器がほとんどを占める。早期縄文土器の内訳は、撚糸文系75%、条痕文系15%で、沈線文系はわずかに確認できるだけである。打越岱遺跡（3）では沈線文期から条痕文期にかけての炉穴が検出されており、出土土器は早期縄文土器がほとんどを占める。早期縄文土器の内訳は、撚糸文系22%、沈線文系54%、絨織入無文14%、条痕文系10%である。打越岱遺跡（1）（2）は遺跡南西部、打越岱遺跡（3）は遺跡北西部にあたり、検出遺構・出土遺物の時期は両地点で異なることが打越岱遺跡（3）発掘調査報告書においても指摘されている。本調査区の早期縄文土器の内訳は、沈線文系が99%を占め、隣接する打越岱遺跡（3）同様に沈線文系が最多である。各地点において差異はあるが、撚糸文期は舌状台地南部（打越岱遺跡（1）（2））、沈線文期は舌状台地中央部（打越岱遺跡（3）（4））、条痕文期以降は舌状台地基部（西萩原遺跡）といったおおまかな変遷が窺える。また、本調査区出土沈線文は三戸式から田戸下層式であり、三戸式が主体となると推測される。出土量は少ないが、押型文系の細久保式も出土しており、明確な相伴関係は示すことができないが、両者の関係を考える上で良好な資料といえるだろう。

出土礫については、砂岩（43.3%）・流紋岩（22.5%）・チャート（21.2%）が全体の8割以上を占め、欠損礫は全体の89%を占める。打越岱遺跡（1）（2）における石材の内訳は、チャート（30%）、砂岩（18%）、流紋岩（17%）、欠損礫は全体の72%、打越岱遺跡（3）における石材の内訳は、砂岩（37%）、流紋岩（23%）、チャート（21%）、欠損礫は全体の73%であり、石材の内訳においては遺跡南部と北部で若干の差はあるが、遺跡全体を通じて同様の傾向が見られる。

土偶

本調査区からは、ほぼ完形状態の土偶が見つかった。調査区全域から縄文時代早期沈線文期の土器が出土し、土偶の表裏面に沈線文と刺突文が施文されることから、縄文時代早期沈線文期の土偶と推測する。

関東圏における沈線文期の土偶の出土例としては、三戸式期の千葉県庚塚遺跡、埼玉県西大宮バイパスNo.4遺跡、田戸下層式期の千葉県鵜崎貝塚、茨城県二本松遺跡等から出土のものが挙げられる。庚塚遺跡・西大宮バイパスNo.4遺跡出土土偶はバイオリン形の胴下部と推測され、表裏面に帯状格子目文や綾杉文が施される。規格はいずれも同規模であり、胴下端からくびれ部までで5～7cm程である。鵜崎貝塚出土土偶はバイオリン形の胴下部と推測され、細い沈線文が施される。規格は、胴下端からくびれ部までで5cm程である。二本松遺跡出土土偶はバイオリン形の胴上部と推測され、円形刺突文が施される。規格は、胴上端からくびれ部までで3cm程である。本市周辺の西上総域における縄文時代早期土偶の出土例は、木更津市宮脇遺跡が

挙げられる。同遺跡出土土偶は早期撚糸文期のものと推測される3 cm程の胴上部1点、2 cm程の胴下部1点である。共に文様表現は無く、貼付けにより乳房が表現される。その他に、前期の可能性も指摘されるが、5 cm程の胴上部も1点出土している。

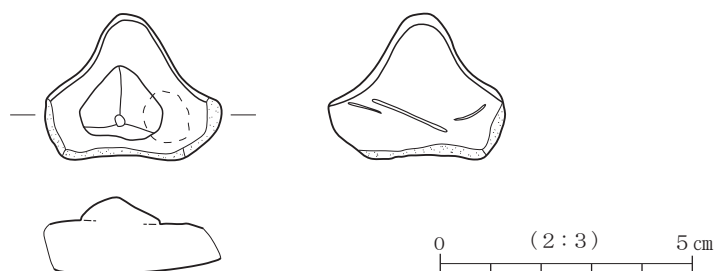
撚糸文期から沈線文期にかけての土偶の規格を、ほぼ完形のものは全長、胴上・下部のみのものは上・下端部からくびれ部までの2倍と鑑みると、撚糸文期のものは3～6 cm程の小型、沈線文三戸式期のものは10～14 cm程の大型のもの、沈線文田戸下層式期のものは6 cm程の小型のものと10 cm程の大型のものと推測され、三戸式期以降に大型化した様子が窺える。本遺跡出土土偶は全長6 cmで小型のものであり、本遺跡出土沈線文土器は三戸式から田戸下層式に当たる。撚糸文期、田戸下層式期から小型の土偶が出土していることから、類例はないが三戸式期においても継続して小型の土偶が出土してもおかしくはなく、本遺跡出土土偶は、出土土器同様に沈線文三戸式期から田戸下層式期のものと考えてよいだろう。

市内における縄文時代早期の土偶については、本遺跡と小櫃川の支流松川を挟んで対岸の台地上に位置する東上泉遺跡出土土偶が挙げられる。報告書では遺存する突起部を左腕部と推測しているが、乳房を表現した貼付けの傍に不自然な窪みがあることから、その窪みを乳房を表現した貼付けが剥がれ落ちたものと推測し、本報告書では遺存する突起部を頭部として表記した（第26図）。表面に文様表現は無いが、裏面全面に薄く細い沈線文が施されることから沈線文期の土偶と推測する。胴下部は残存していないが、本遺跡出土土偶とほぼ同規格の小型のものと推測して大きな差はないだろう。同遺跡出土沈線文系土器は田戸下層式を主体とし、三戸式も出土している。本遺跡と東上泉遺跡は、主体を成す土器が三戸式と田戸下層式とで異なるが、両遺跡とも三戸式から田戸下層式の土器が出土することから、両遺跡出土土偶はほぼ同時期のものと推測できる。その場合、両遺跡出土土偶に共通する裏面全体に施される薄く細い沈線文は、同時期もしくは当地域における文様表現の特徴の可能性も考えられる。

以上、本遺跡出土土偶に関する一考察である。出土土器の時期判断が未熟であり、沈線文期土偶の出土類例が少ないことから、推定の域を脱することはできない。いずれにせよ、縄文時代早期沈線文期の土偶については、今後の出土事例を基に慎重に検討する必要があるが、当時期の土偶としてほぼ完形の状態で発見された本遺跡出土土偶が大変貴重な資料であることは間違いない。

参考文献

- 栗田則久他 1987「庚塚遺跡」「東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」（財）千葉県文化財センター
 領塚正浩 1987「田戸下層式土器細分への覚書」『土曜考古』第12号 土曜考古学研究会
 野口行雄他 1989「打越岱遺跡」（財）君津郡市文化財センター
 山本哲也他 1993「木更津市宮脇遺跡出土の撚糸文期の土偶」『研究紀要Ⅵ』（財）君津郡市文化財センター
 原田昌幸 1995「日本の美術No. 345 土偶」至文堂
 土屋治雄他 2007「主要地方道千葉鴨川線埋蔵文化財調査報告書 - 袖ヶ浦市東上泉遺跡・神野台遺跡 -」（財）千葉県教育振興財団文化財センター
 西原崇浩他 2008「打越岱遺跡（3）」袖ヶ浦市教育委員会
 岡本東三 2016「中部押型紋土器をめぐる内外事情 - 「樋沢・細久保式」押型紋文化から沈線紋文化へ - 」『駿台史學』第156号 駿台史学会

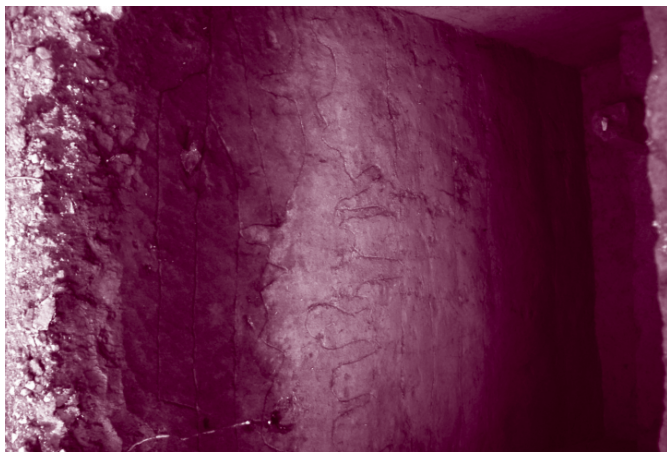


第26図 東上泉遺跡出土土偶（再実測）

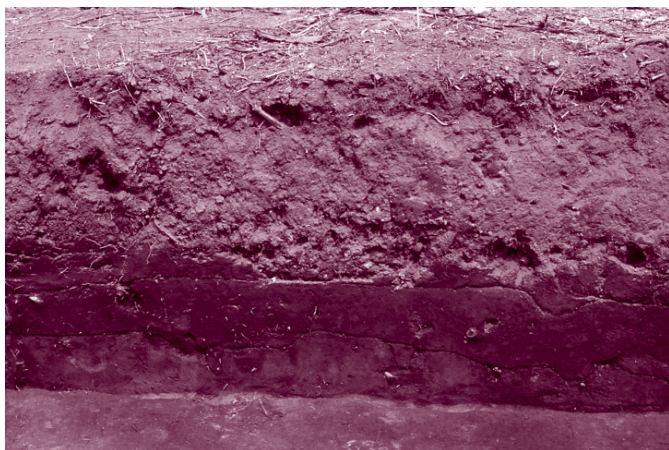
写真図版



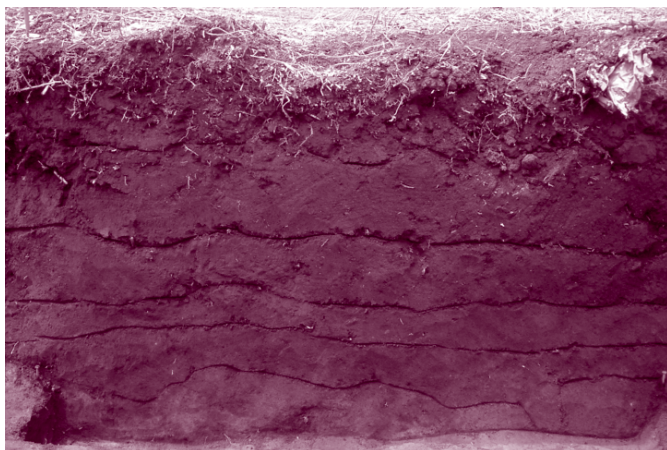
1. 調査前全景 (北→)



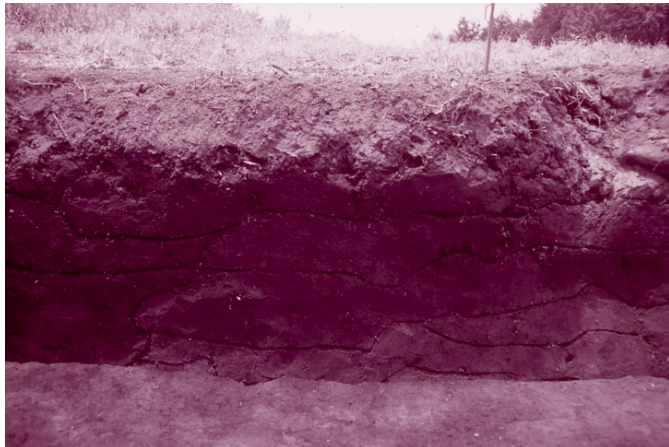
2. 旧石器時代遺物出土状況 (南東→)



3. 基本層序 (G 5-53) (南→)



4. 基本層序 (G 6-34) (東→)



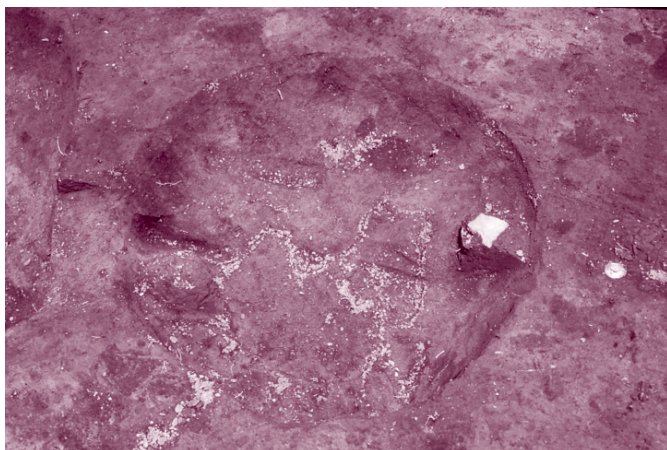
5. 基本層序 (G 7-07) (東→)



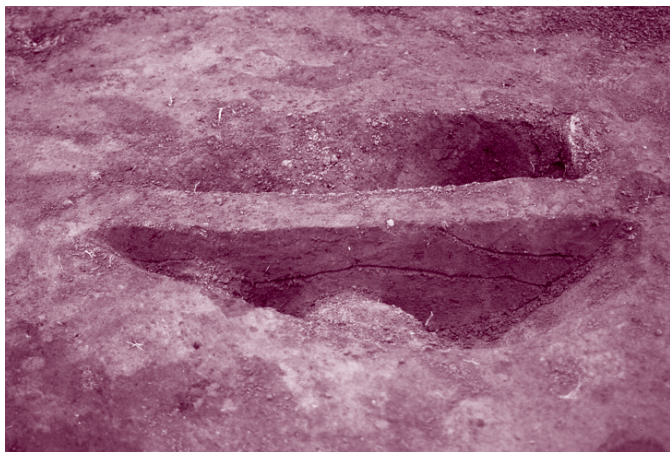
6. 調査区北東部遺構検出状況 (北西→)



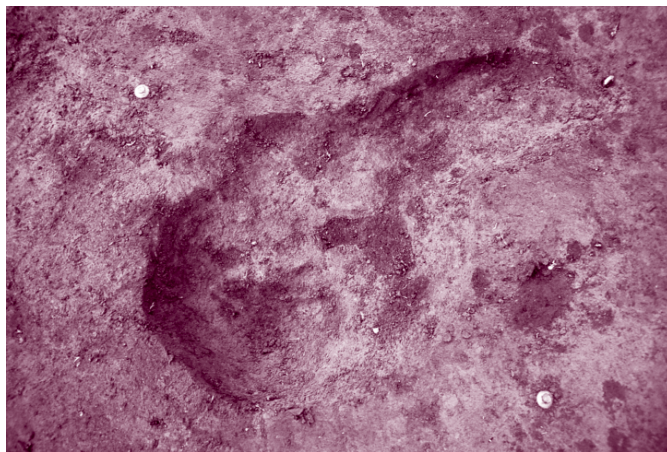
7. 調査区南部遺構検出状況 (北→)



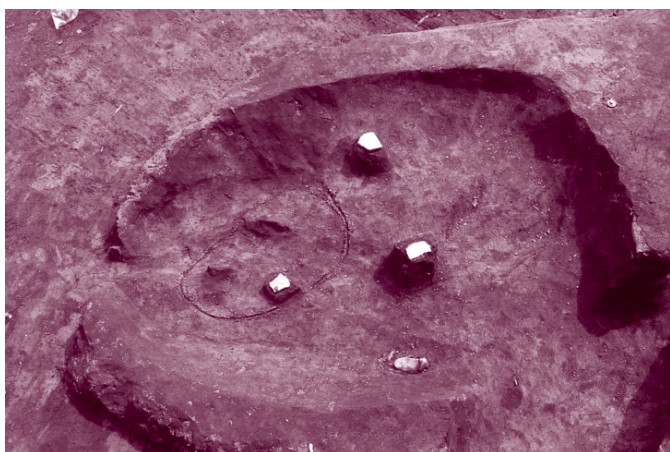
8. F P 048 完掘 (南東→)



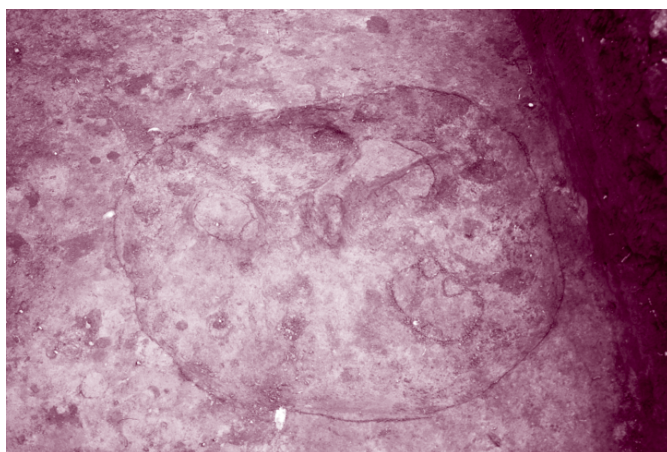
1. F P 049 断面 (西→)



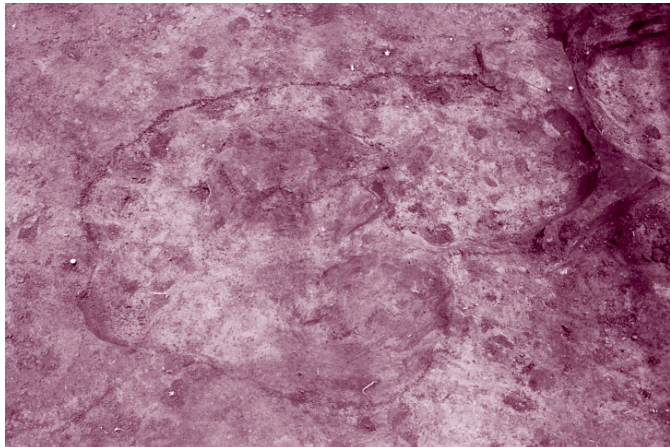
2. F P 050 完掘 (南東→)



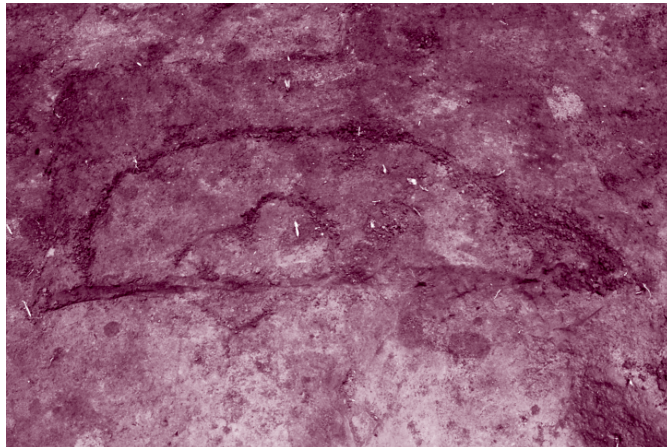
3. F P 051 遺物出土状況 (北→)



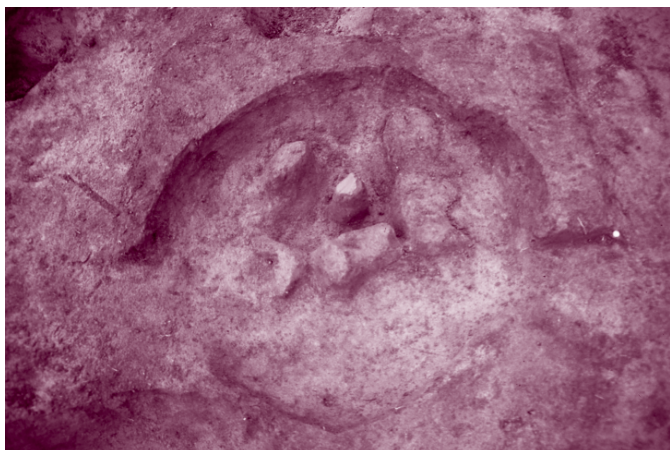
4. F P 052 完掘 (南→)



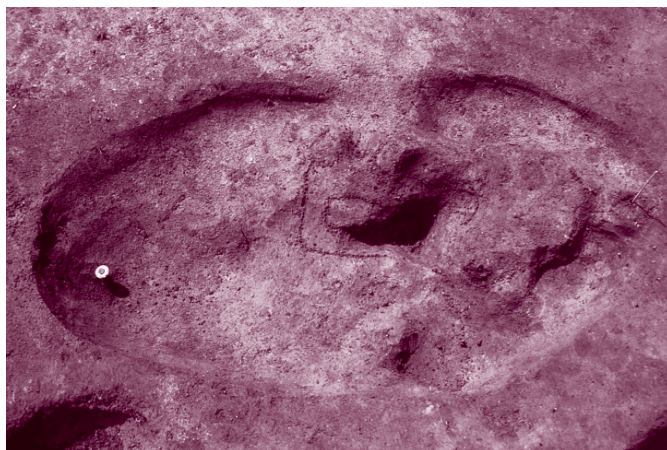
5. F P 053 完掘 (南東→)



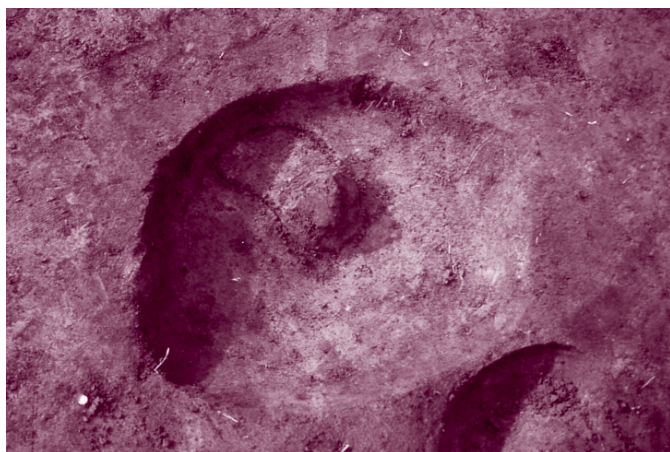
6. F P 054 完掘 (南→)



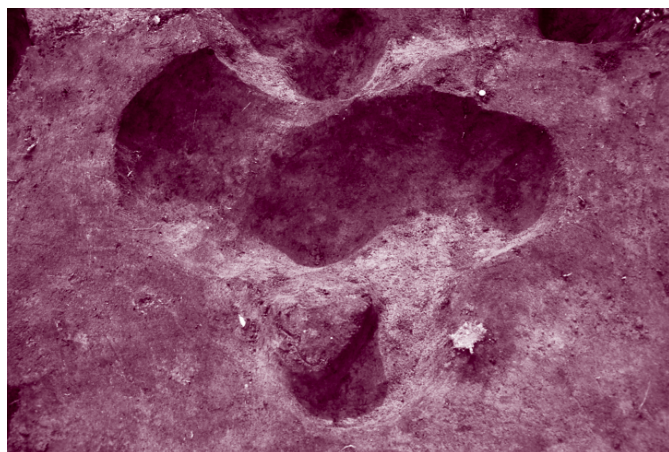
7. F P 055 完掘 (南→)



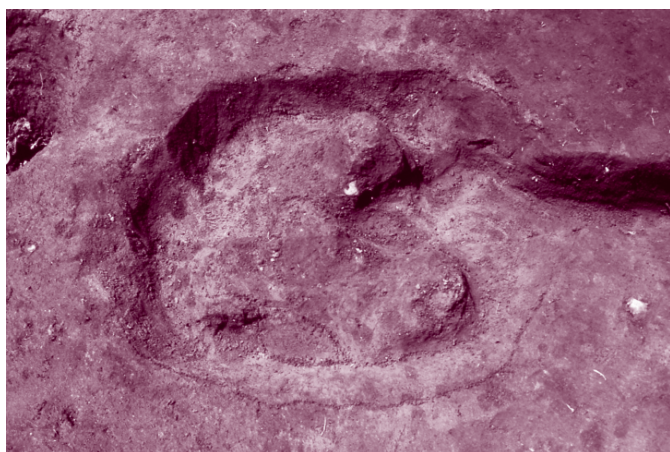
8. F P 056 完掘 (東→)



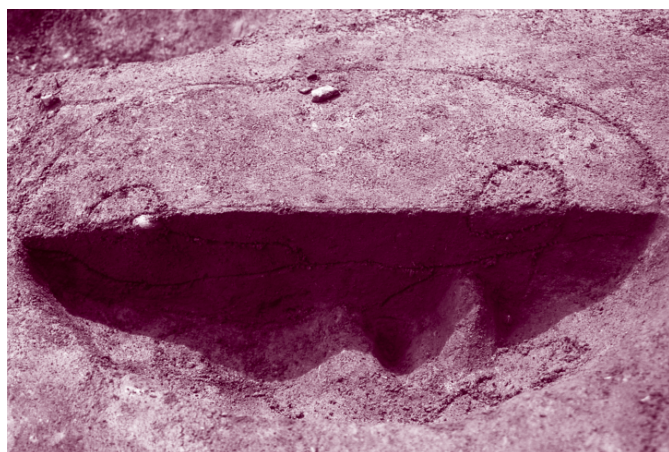
1. F P 058 完掘 (南→)



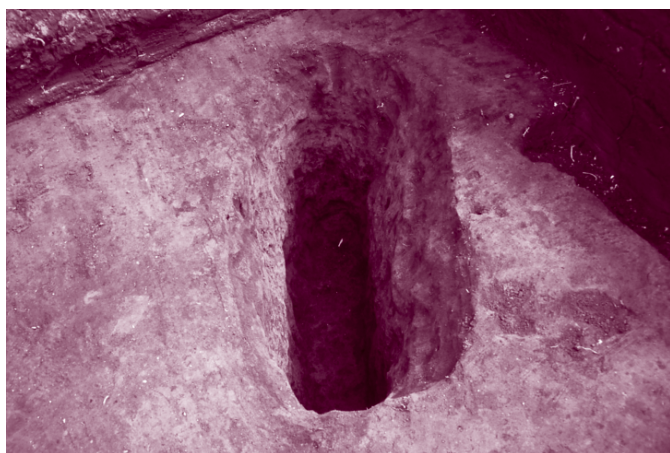
2. F P 059 完掘 (東→)



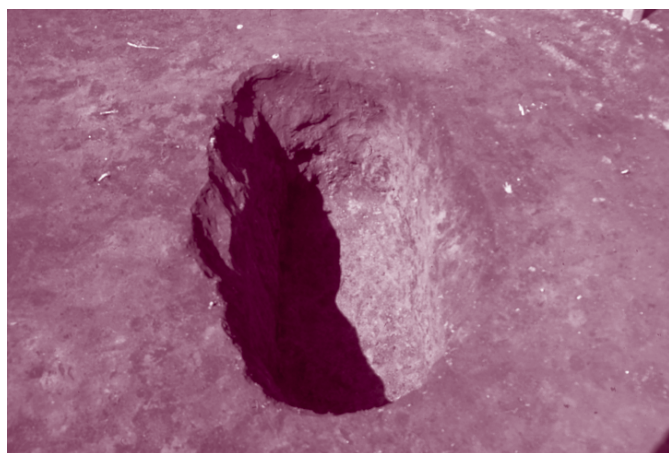
3. F P 060 完掘 (北→)



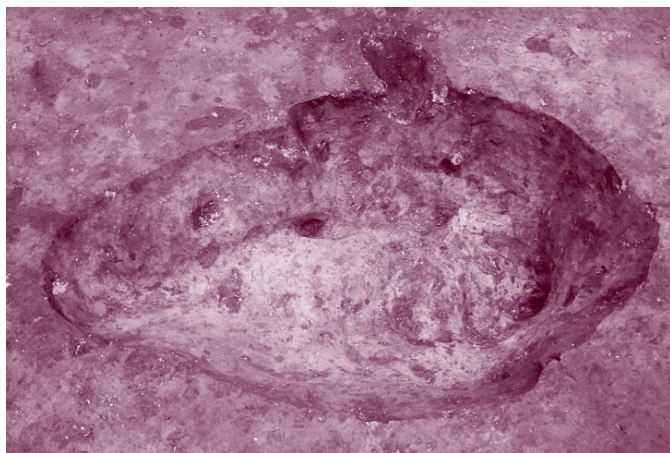
4. F P 061 断面 (南東→)



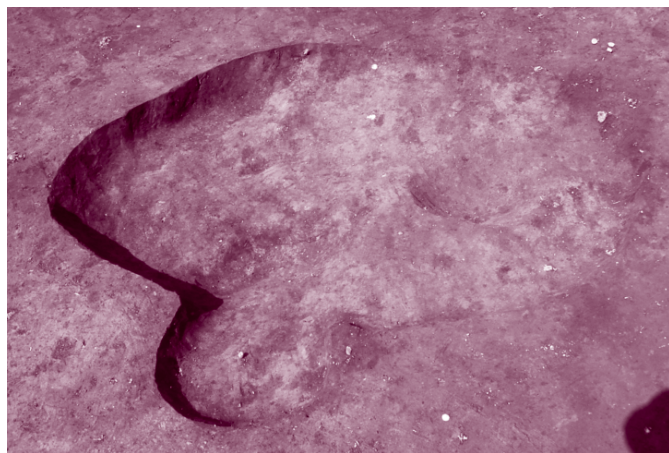
5. T P 005 完掘 (北→)



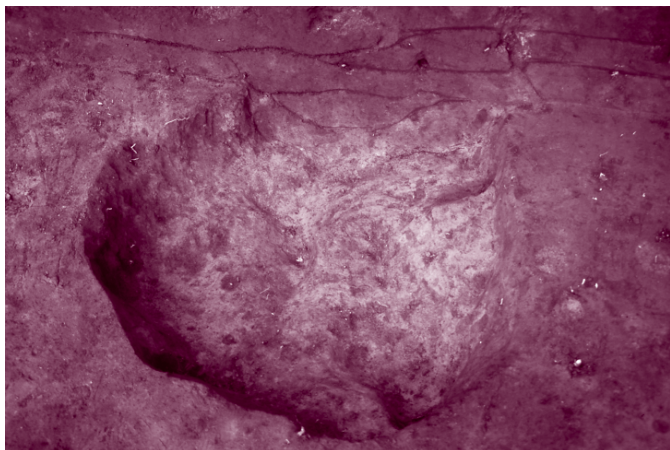
6. T P 006 完掘 (南→)



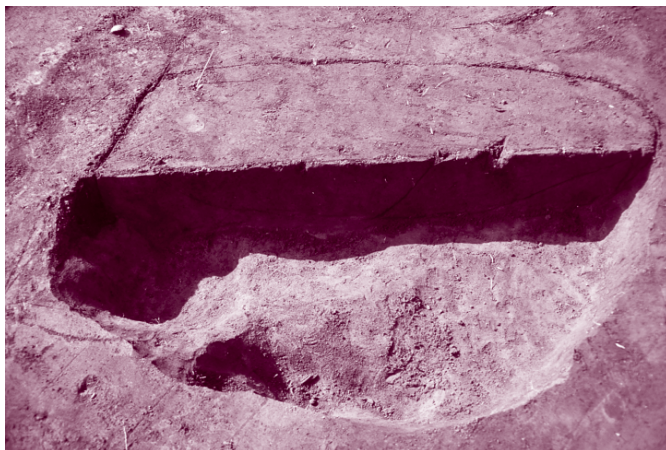
7. S K 011 完掘 (南西→)



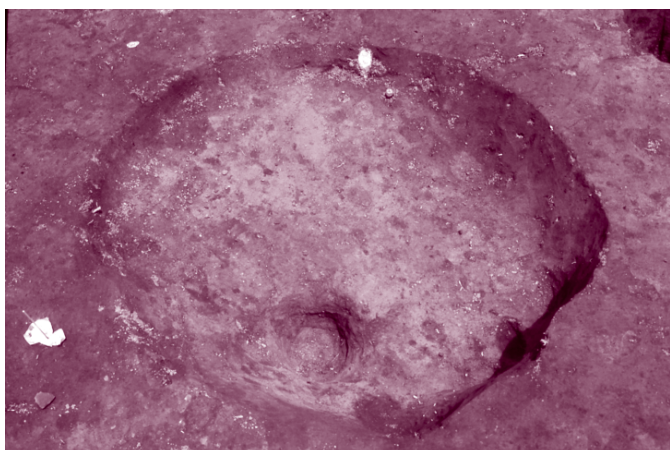
8. S K 012 完掘 (南西→)



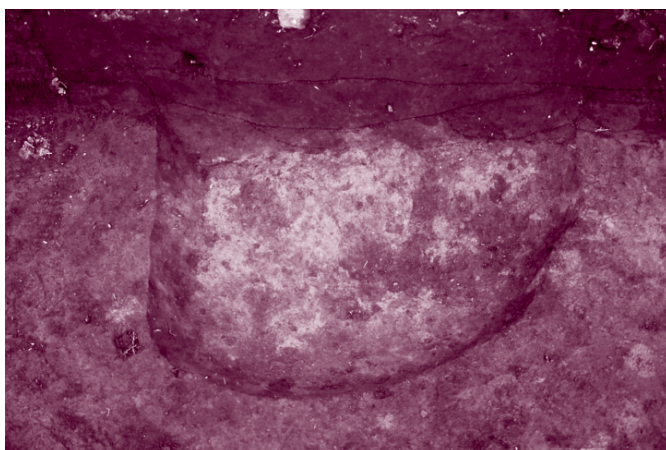
1. SK 013 完掘 (西→)



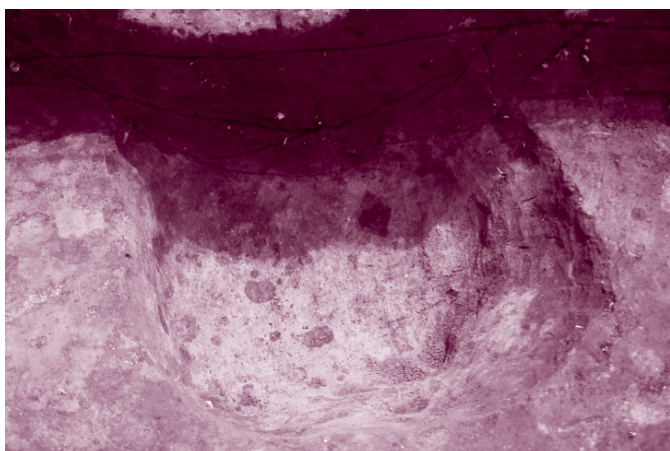
2. SK 015 断面 (南→)



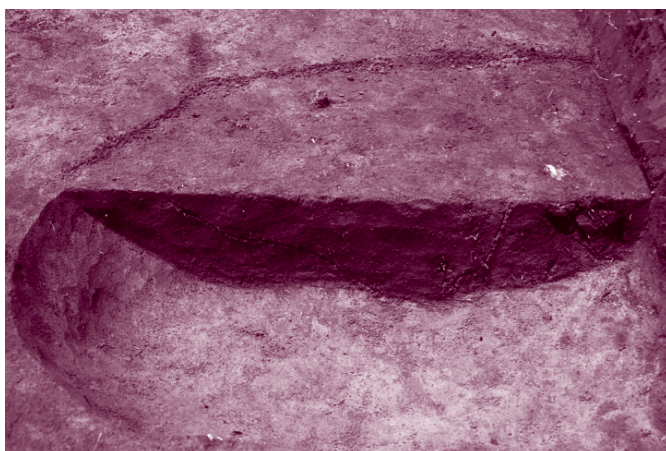
3. SK 017 完掘 (南→)



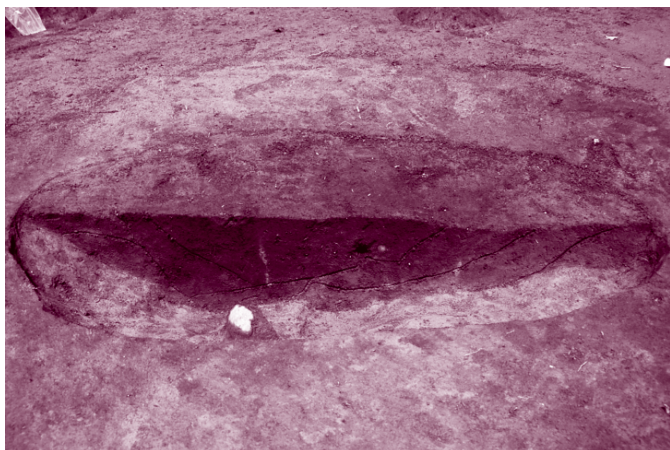
4. SK 019 完掘 (西→)



5. SK 020 完掘 (西→)



6. SK 025 断面 (北東→)



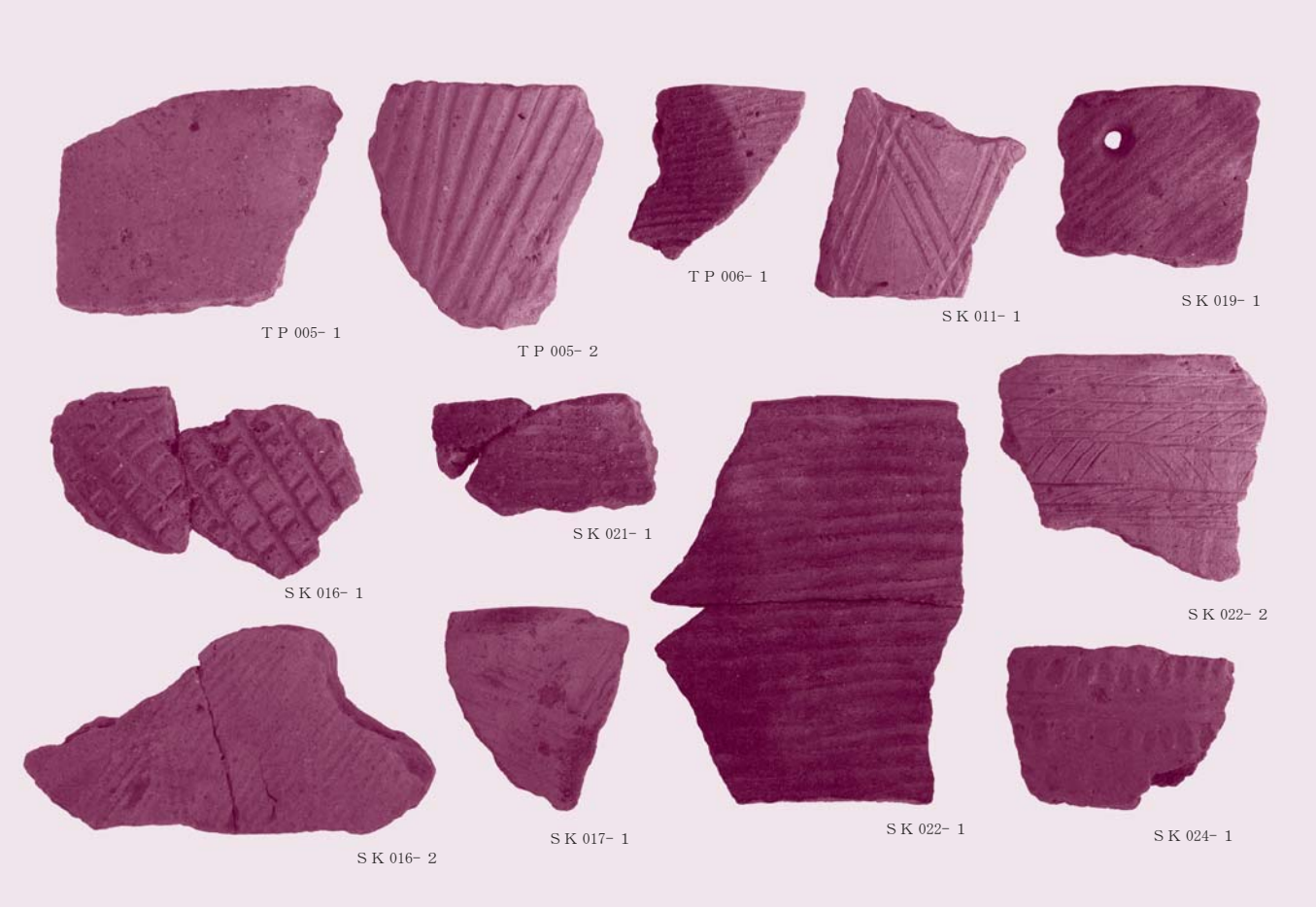
7. SK 026 断面 (南東→)



8. 調査区北東部遺物出土状況 (西→)



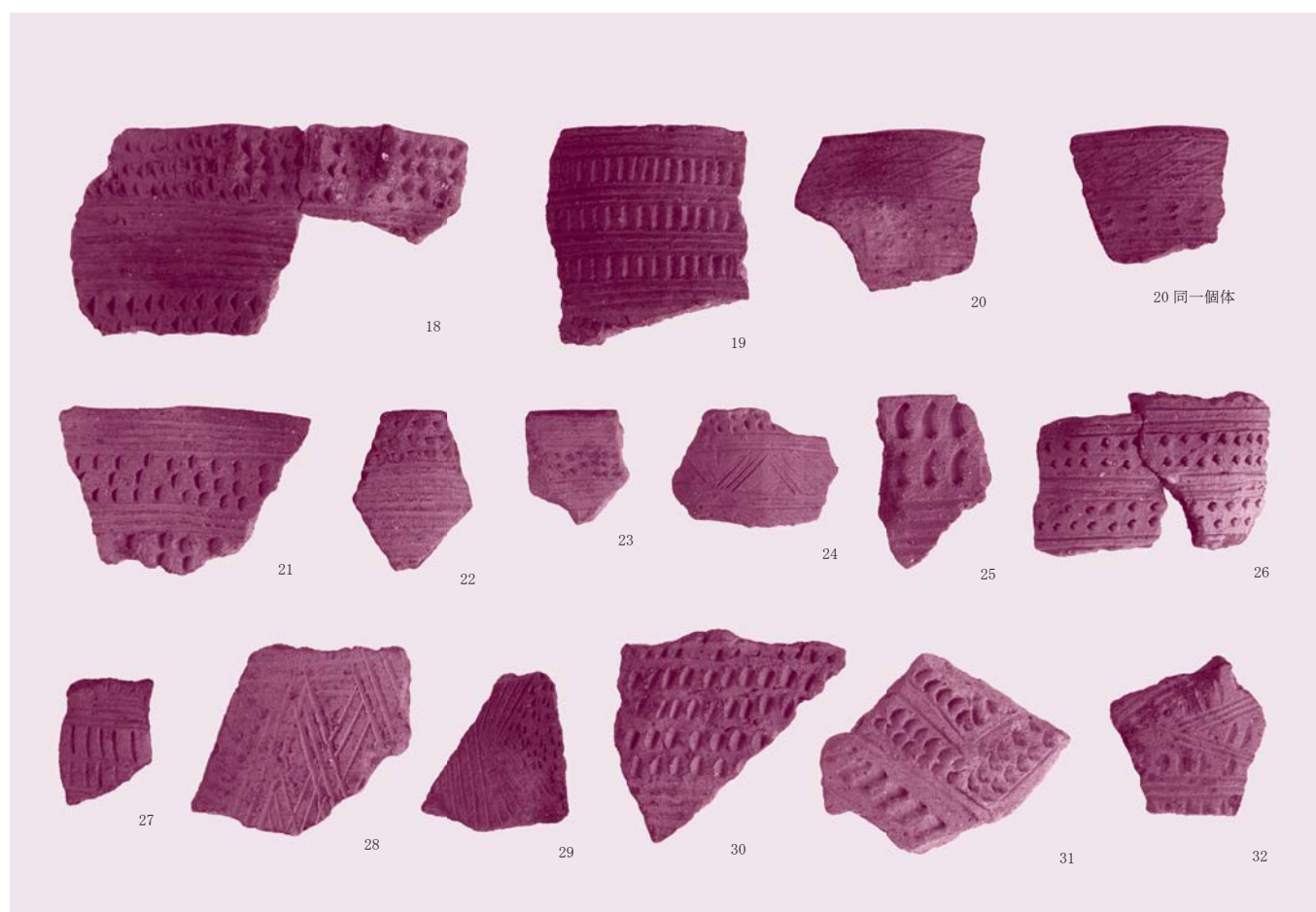
1. 縄文土器 (炉穴出土)



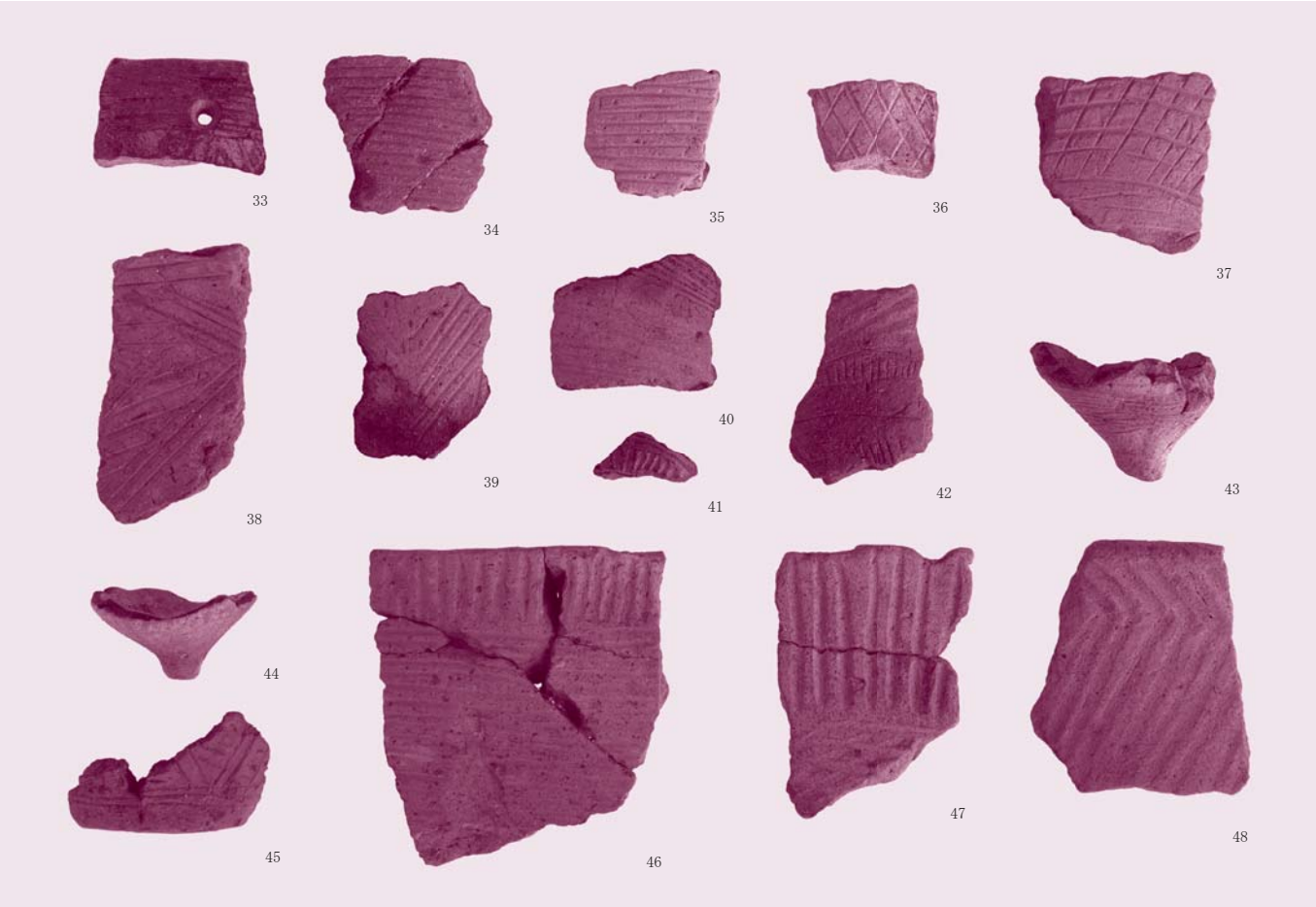
2. 縄文土器 (陥穴・土坑出土)



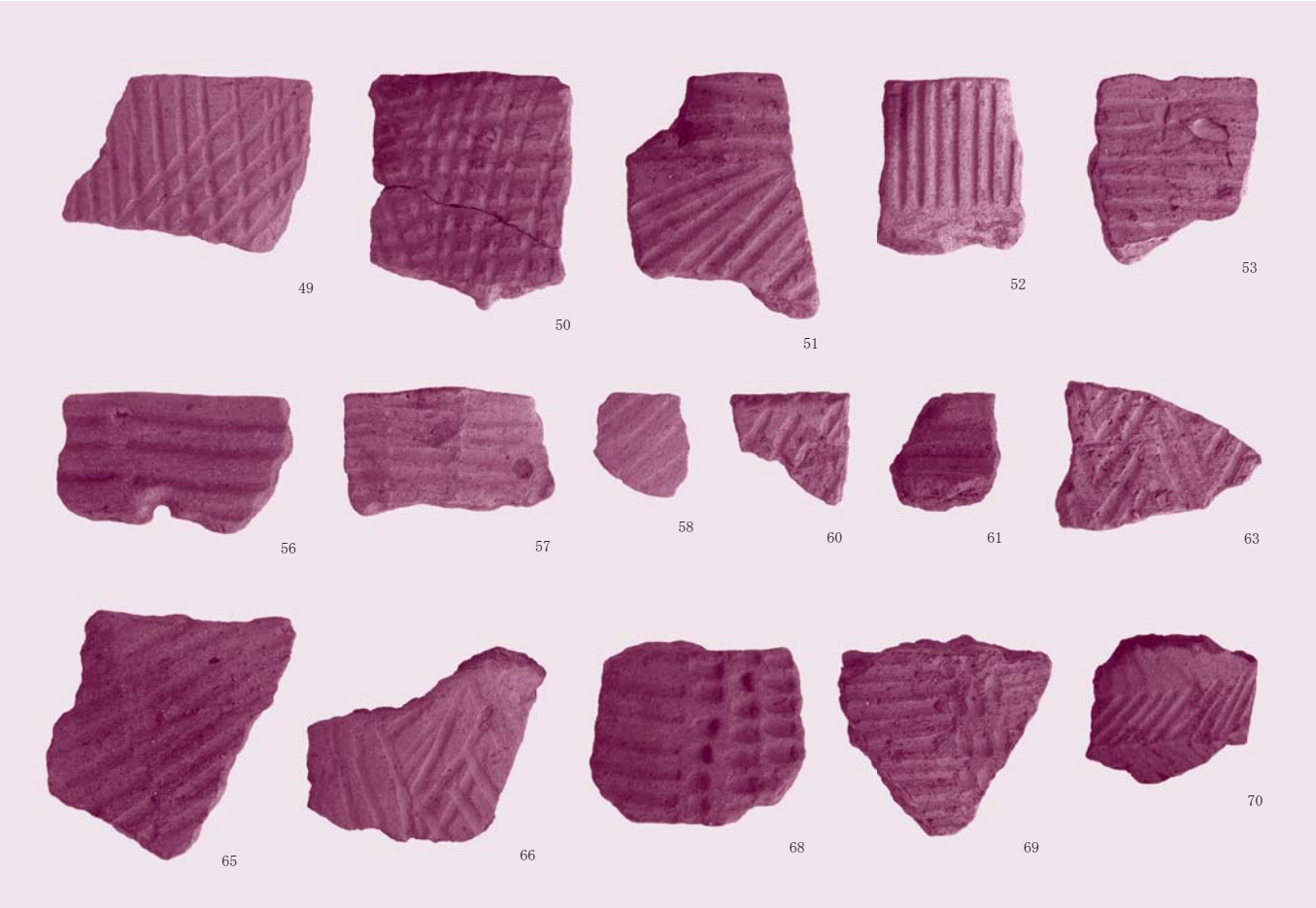
1. 縄文土器（第Ⅰ群・第Ⅱ群第1類）



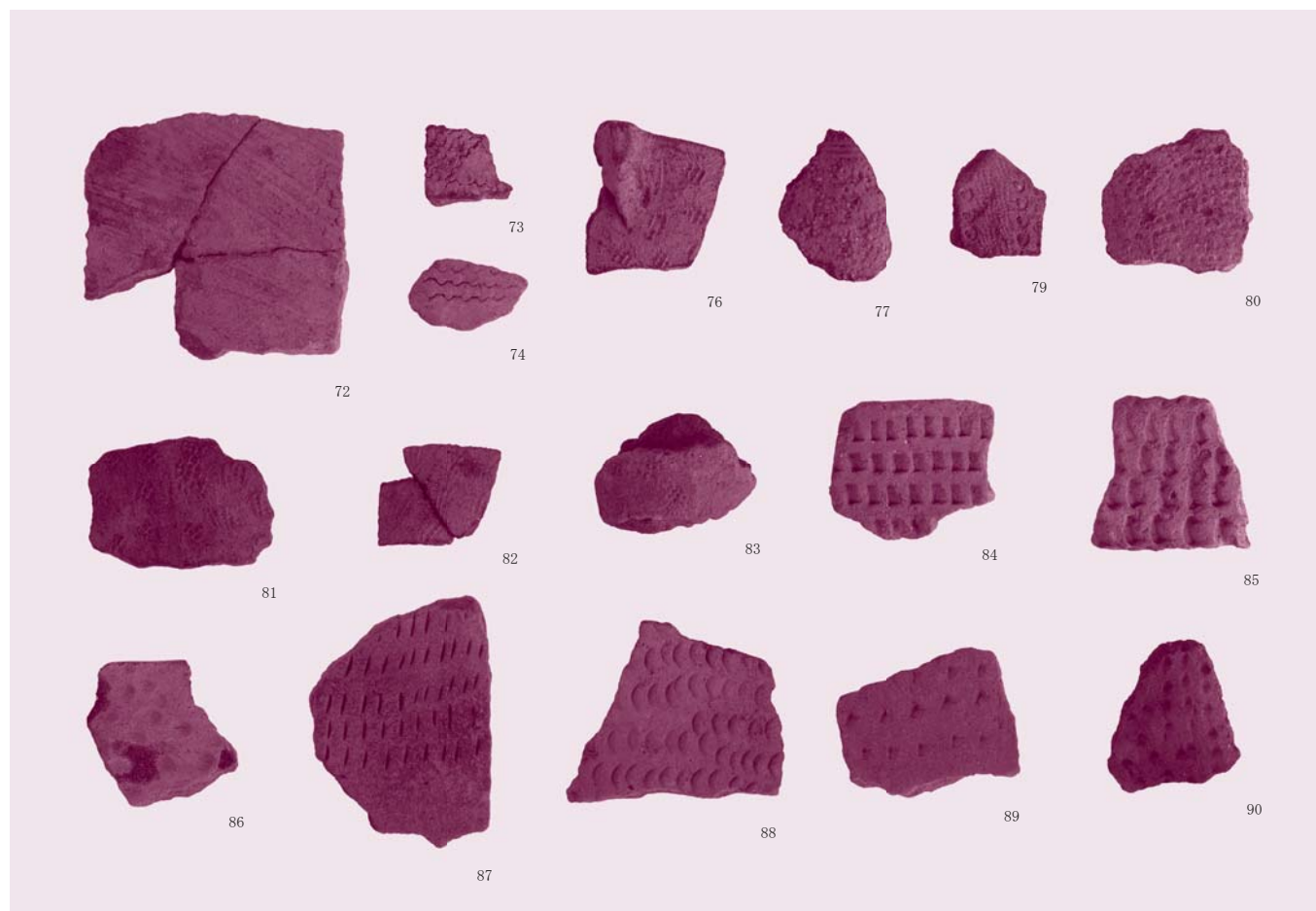
2. 縄文土器（第Ⅱ群第2類）



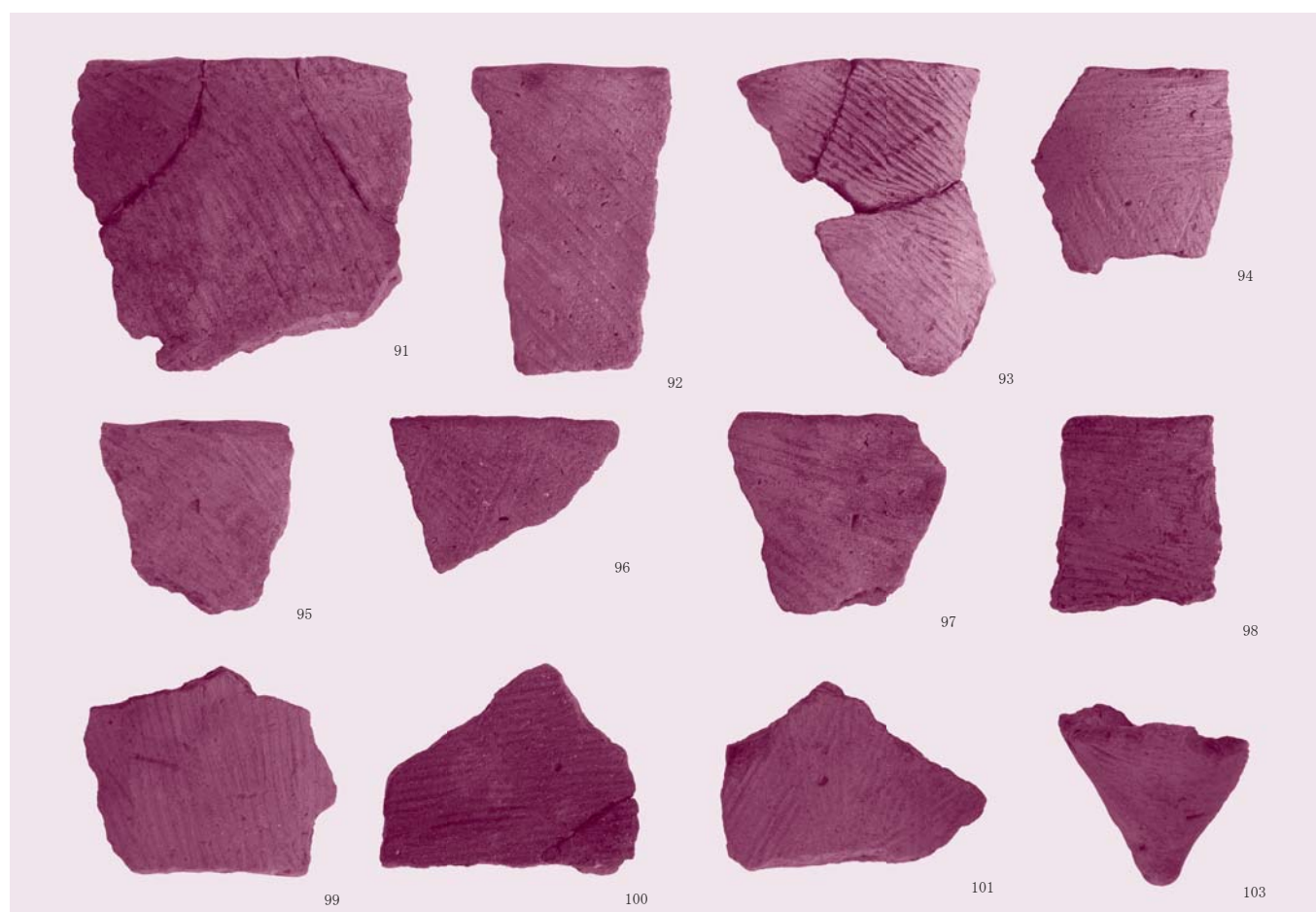
1. 縄文土器 (第Ⅱ群第3・4類)



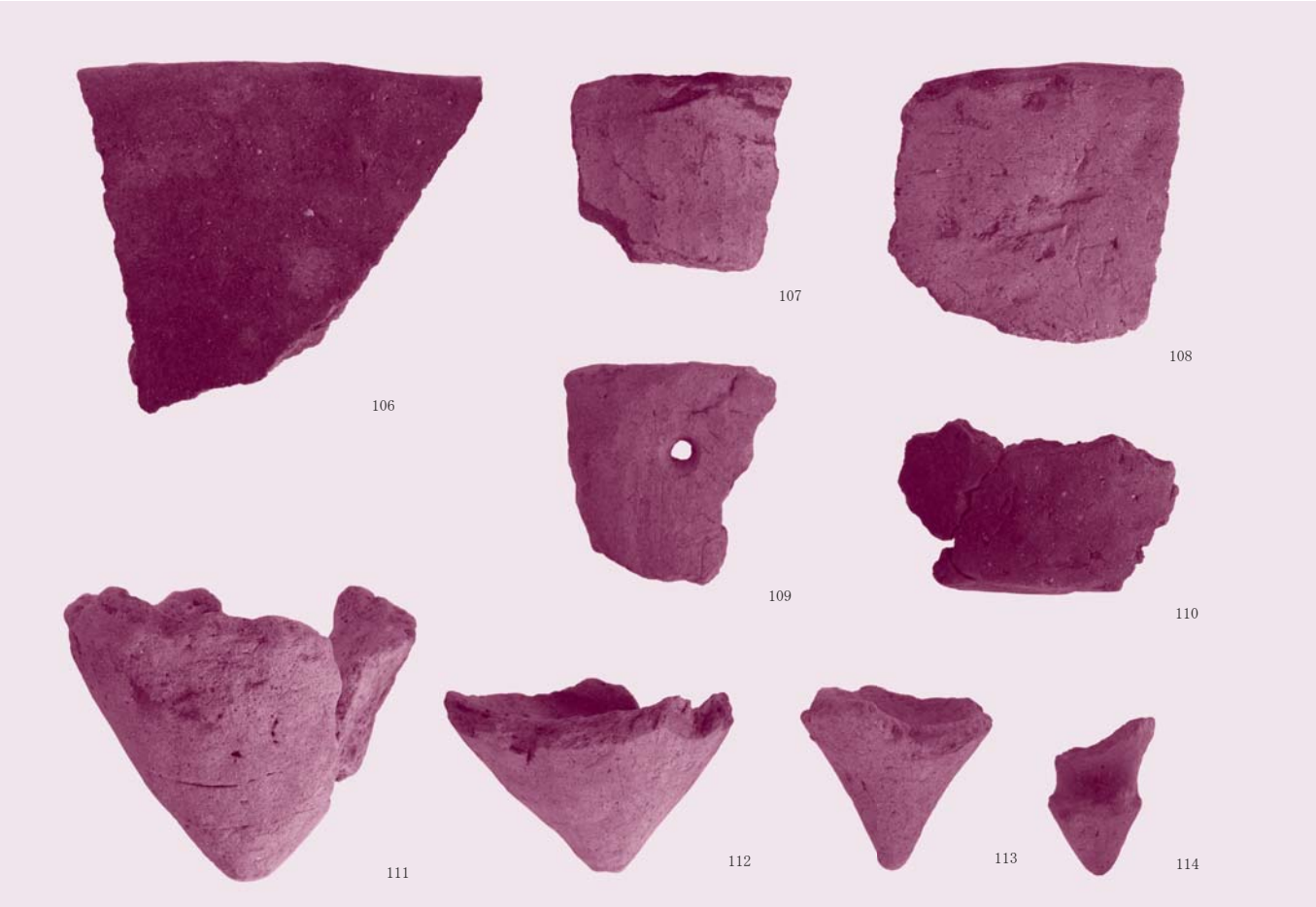
2. 縄文土器 (第Ⅱ群第4類)



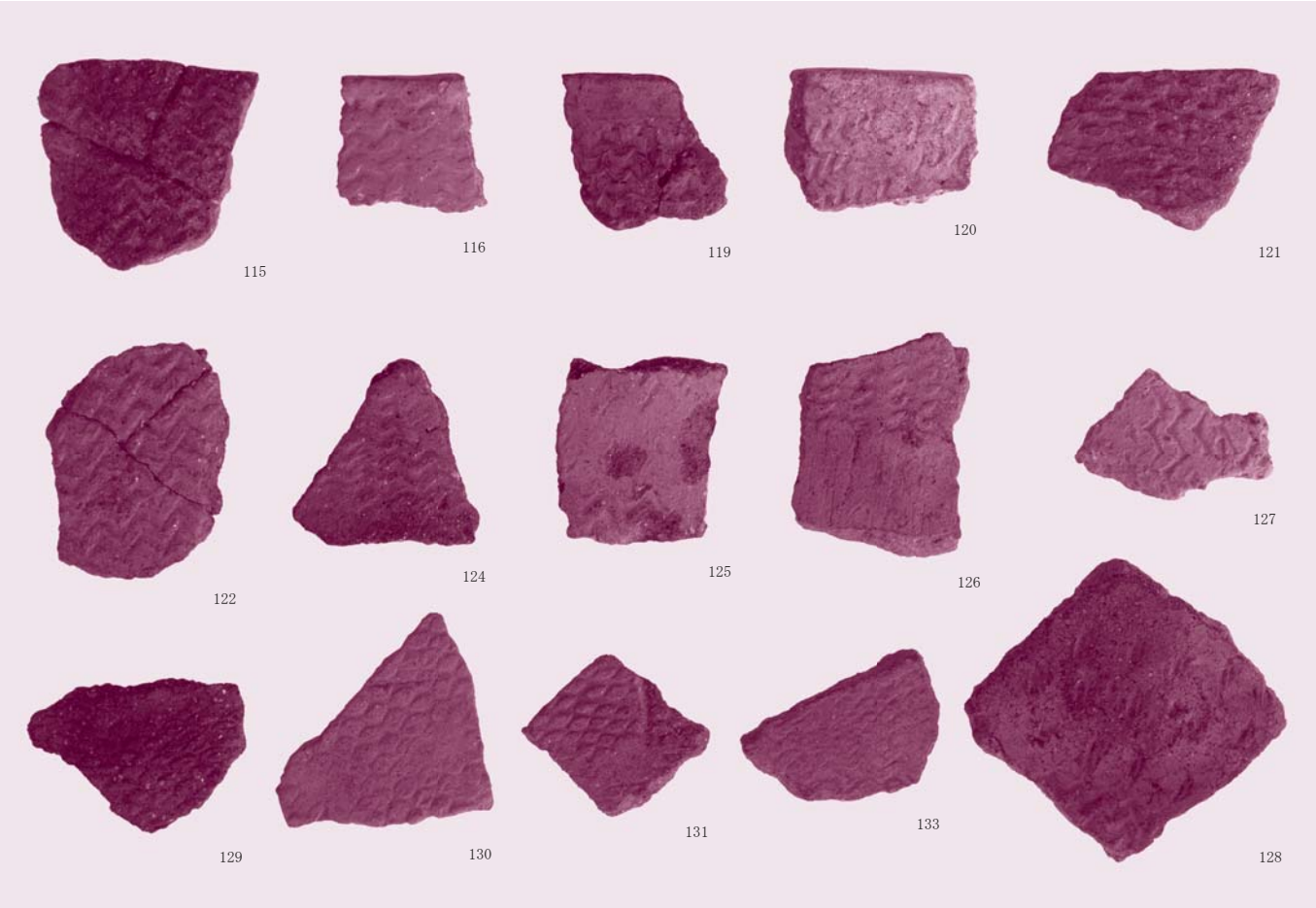
1. 縄文土器（第Ⅱ群第5～7類）



2. 縄文土器（第Ⅱ類第8類）



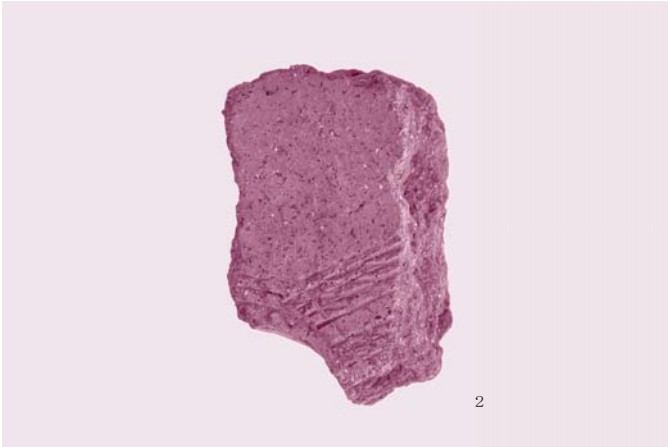
1. 縄文土器（第Ⅱ群第9類）



2. 縄文土器（第Ⅲ群）



1. 旧石器時代石器



2. 土偶①



1 (胴上部断面)

3. 土偶②



1 (胴下部断面)

4. 土偶③



5. 石器

報告書抄録

ふりがな		うちこしだいいせき（４）						
書 名		打越岱遺跡（４）						
副 書 名		上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ名		袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号		第 29 集						
編 著 者 名		大河原 務						
編 集 機 関		袖ヶ浦市教育委員会						
所 在 地		〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1 TEL 0438-62-2111						
発行年月日		2018 年 3 月 29 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
うちこしだい 打越岱遺跡（４）	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 かみいずみあざうちこし 上 泉 字 打越1, 270 番地 7	12229	SG011	35° 41' 40"	140° 04' 72"	20140421 ～ 20140602	630	記録保存 調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
打越岱遺跡	集落	旧石器時代 縄文時代	縄文時代炉穴 14 基、 陥穴 2 基、土坑 16 基	旧石器時代石器、 縄文時代土器・石器		調査区全域に縄文時代早期の遺物包含層が確認された。		
要約	調査区南部からは陥穴 2 基、北部からは炉穴 14 基をはじめとした多数の遺構が検出された。また、調査区全域から縄文時代早期中葉沈線文期の土器が多数出土し、同時期の土偶がほぼ完形な状態で出土した。							

2018 年 3 月 21 日 印刷

2018 年 3 月 29 日 発行

袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書第 29 集

千葉県袖ヶ浦市 打越岱遺跡（４）

—上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

発行 袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1

電話 0438-62-2111

印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社

千葉県木更津市潮見 4 丁目 14 番 4 号

電話 0438-36-5361